建築ト社會

第六輯　第四號



精の華

大正十二年四月一日

日本建築協會

日本建築協會會則

第一條　本會ノ目的ハ我國建築界ノ堅實ナル發展ヲ期スルニ在リ

第二條　本會ハ日本建築協會ト稱ス

第三條　本會ハ事務所ヲ大阪市ニ置ク

地方ニ支會ヲ設クルコトヲ得

第四條　本會ハ人格、學識、經驗アル建築家ヲ以テ會員トス

會員ノ氏名住所ハ會員名簿ニ之ヲ記錄ス

會員タラントヲ希望スル者ハ會員五名以上ノ紹介ヲ以テ入會ヲ望書及履歷書ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會ニ於テ議決ス

第五條　本會ハ其目的ヲ贊成ノ事業ヲ援助スル者ヲ賛助員トス

賛助員ヲ分チテ左ノ四種トス

一　名譽賛助員―地位又ハ學識アル名望家

二　終身賛助員―金參百圓以上又ハ之ニ相當スル物件ヲ本會ニ寄附スル篤志家

三　特別賛助員―建築ニ關聯スル特種ノ技術家又ハ事業家

四　普通賛助員―建築ニ關係又ハ趣味ヲ有スル者

賛助員ノ氏名住所寄附ノ金額又ハ物件ハ各賛助員名簿ニ之ヲ記錄ス

第六條　名譽賛助員ハ例會ノ決議ニ依リ本會之ヲ推薦ス

終身賛助員タラントスル者ハ會員貳名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及寄附ノ金額又ハ物件ヲ本會ニ提出スベシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

特別賛助員タラントスル者ハ會員二名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及履歷書ヲ本會ニ提出スベシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

普通賛助員タラントスル者ハ會員ノ紹介ヲ以テ申込書ヲ本會ニ提出スベシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

第七條　會員ハ第十九條ニ關スル權利ヲ享有ス

會員ハ會内ニ於ケル其資格ニ付付外ニ於テ責ヲ任ゼザルコトヲ得

名譽賛助員ハ本會ノ優遇及第十九條ニ基キ相當ノ利得ヲ受ク

終身賛助員、特別賛助員及普通賛助員ハ第十九條ニ基キ會誌ノ配布其他各相當ノ利得ヲ受ク

第八條　會員ニシテ股會セムトスル者ハ其旨ヲ本會ニ申込ムベシ

第九條　本會ノ會員ニシテ本則ノ規定ニ違背シ又ハ本會ノ名譽ヲ汚スノ行爲アリト認メラルヽ者ニ對シ理事會ノ決議ヲ經テ其權利ヲ停止シ若ハ之ニ股會ヲ勸告シ又ハ例會ノ決議ヲ經テ之ヲ除名スルコトヲ得

前項ノ規定ハ賛助員ニ之ヲ準用ス

第十條　股會其他ノ事由ニ因リ會員ダルノ資格ヲ失ヒタル者ハ既納會費ノ返還ヲ求メ又ハ其債務ヲ免カルヽコトヲ得ズ

前項ノ規定ハ賛助員ニ之ヲ準用ス

第十一條　本會ニ左ノ役員ヲ置ク

一　會頭　一名

二　副會頭　一名

三　理事長　一名（理事長ダル理事ヲ含ム）

四　理事　十一名

會頭ハ會務ヲ總監シ本會ヲ代表ス

副會頭ハ會頭ヲ補佐シ會頭事故アルトキ其職務ヲ代理ス

理事長ハ會務ヲ總理シ會頭、副會頭事故アルトキ其職務ヲ代理シ理事會ヲ代表ス

理事ハ會務ヲ處理シ理事長事故アルトキ理事會ノ決議ニ依リ其職務ヲ代理ス

第十二條　役員ハ會員中ヨリ例會ニ於テ之ヲ選舉ス但會頭、副會頭ハ名譽賛助員中ヨリ之ヲ選出スルコトヲ得

理事長ハ理事之ヲ互選ス

役員ノ任期ハ二年トス　但シ理事長ニ付テハ一年トス

理事ノ改選ハ毎年半數トス但引續キ重任スルコトヲ得ズ

第十三條　本會ニ左ノ職員ヲ置ク

一　主事　一名

二　主計　一名

三　編輯　三名

四　編輯補　若干名

五　書記　若干名

主記ハ庶務ヲ、主計ハ會計ヲ、編輯ハ編纂ヲ處理ス

編輯補ハ編輯ノ旨ヲ受ケ編纂ヲ分掌ス

書記ハ理事長、理事ノ命ヲ受ケ會務ニ從事ス

第十四條　主記、主計、編輯ハ理事之ヲ互選ス

編輯補ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名ス

書記ハ理事會之ヲ任命シ有給トスコトヲ得

第十五條　本會ハ調査研究ノ必要ニ應シ例會ノ決議ニ依リ各部ノ委員會ヲ設ケ各部ニ委員長一名委員若干名ヲ置ク

委員長及委員ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名シ委員長ハ當該委員ノ互選トス

理事會ハ特殊事項ニ關シ會員外ノ專門家ヲ臨託委員トスルコトヲ得

第十六條　委員長ハ當該委員會ヲ代表シ委員長事故アルトキハ當該委員會ノ決議ニ依リ委員其職務ヲ代理ス

委員會ノ經過ハ例會ニ於テ之ヲ報告ス

委員會ハ調査研究報告ハ例會ノ決議ヲ經テ本會ノ名ヲ以テ之ヲ發表ス但シ緊急事項ニ付テハ理事會ノ承認ヲ經テ當該委員會ノ名ヲ以テスルコトヲ得

第十七條　本會ハ毎月一回會員ヲ召集シ例會ヲ開キ重要事項ヲ審議シ報告會、講話會、討論會又ハ講演會ヲ催ス但理事會ハ必要ト認ムルトキハ臨時之ヲ開催スルコトヲ得

例會ニ於ケル議案其他ノ事項ハ理事會之ヲ會員ニ報告ス但緊急事項ニ付テハ此限ニ在ラズ

第十八條　本會ノ春秋二季大會ヲ興行ス

第十九條　本會ノ行フ事業左ノ如シ

一　建築ニ關スル諸般事項ノ調査研究

二　建築ニ關スル重要事項ノ諮詢

三　會誌ノ發刊

四　建築ニ關スル圖書ノ刊行

五　建築ニ關スル講演會ノ開催

六　建築ニ關スル展覽會ノ公開

七　建築ニ關スル視察

八　建築ニ關スル有志者ノ親睦會

九　理想的建築ノ計畫

十　其他建築ニ關スル有益ナル事項

第二十條　會員ハ會費年額金拾八圓ヲ本會ニ醵出ス

但例會ニ出席シ難キ地方ニ在ル會員ノ會費ハ半額トス

一時ニ金貳百圓以上ヲ出ストキハ爾後前項ノ會費ヲ免ル

會員ダルノ承認ヲ得タル者ハ入會金五圓ヲ本會ニ納付スベシ

特別賛助員ハ特別賛助員年額金九圓ヲ、普通賛助員ハ普通賛助員年額金六圓ヲ本會ニ前納スベシ

但六期以内ニ之ヲ分納スルコトヲ得

第二十一條　本會ノ經費ハ會費入會金寄附金賛助員其他ノ收入ヲ以テ支辨ス

本會ノ財產ハ理事長之ヲ監理ス

第二十二條　本會ノ財產積立金ハ確實ナル有價證券ニ投資シ其利子ハ會計ニ編入ス

本會ノ財產積立金ハ毎年ノ收支ハ理事會ニ於テ決算書ヲ作リ翌年一月例會ニ於テ報告ス

第二十三條　本會ノ收支ハ理事會ニ於テ豫算書ヲ作リ翌年ノ分ヲ例會ニ於テ決議ス

第二十四條　本則ハ例會ノ決議ニ依リ之ヲ變更スルコトヲ得

建築物に對する投票を募る

建築物に對する一般の思想傾向を概知せむため、今回より左記の要領に依りて、建築物に對する投票を募ることに致しました。最初の試みとしては先づ我『建築と社會』の發行部數を限度として投票用紙を頒布致しましたが、次回よりは投票要綱の内容も漸次制限して、今少し具體化したものと致す考へで御座います。今回は先づ大體の傾向を見たいのでムいますから、その要項も極めて大まかなものでムいます。只、『アノ建築物が一等嗜きだ』とか、『アレが一等佳い』といふような概念だけでの御投票でよいのでムいます。なぜ嗜きなのか、なぜ佳いのか、といふ内容に到りましては別段制限はありませず、又御示しを要しません。どうぞ振つて御投票被下いまし。

投票要綱

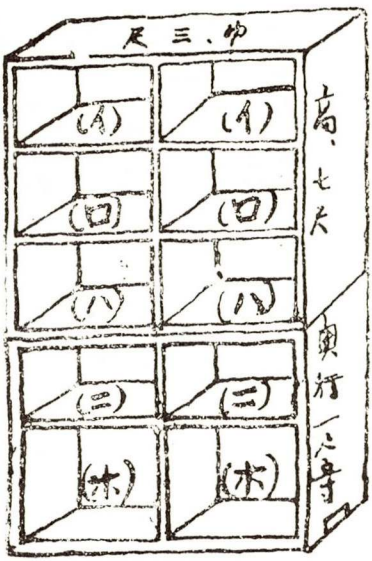
一　大阪市内及び接續町村に現存の『銀行々舍』に對する投票。
二　等級を一、二、三等とす。
三　別紙投票用紙に御記入郵送されたし。
四　投票は無記名とす。
五　大正十二年四月二十日午後五時までに到達せるものを以て締切りとす。
六　投票は當協會理事半數以上の立合を以つて査定す。
七　右査定の結果は、『建築と社會』五月號の誌上に發表す。
八　成績の奈何に依り、當選建築物を右誌上に紹介す。

（裏面を御熟覧ありたし）

建築材料見本陳列

一　本會事務所内ニ建築材料見本室ヲ設ケ陳列棚ヲ擴張シタルヲ以テ會員及會員外ノ出品ヲ歡迎ス

一　出品料ハ陳列棚ノ種類ニヨリ左ノ割合ヲ以テ貸與ス



一ケ月料金

(イ)　壹圓五拾錢
(ロ)　貳　圓
(ハ)　貳　圓
(ニ)　壹圓貳拾錢
(ホ)　壹　圓

一　期限ハ半年ヲ以テ一期トシ出品料ハ前納ノコト

一　一年以上ノ契約ニ對シテハ前項ノ出品料ノ一割ヲ減ズ

一　會員ニアリテハ前項ノ出品料ノ二割ヲ減ズ

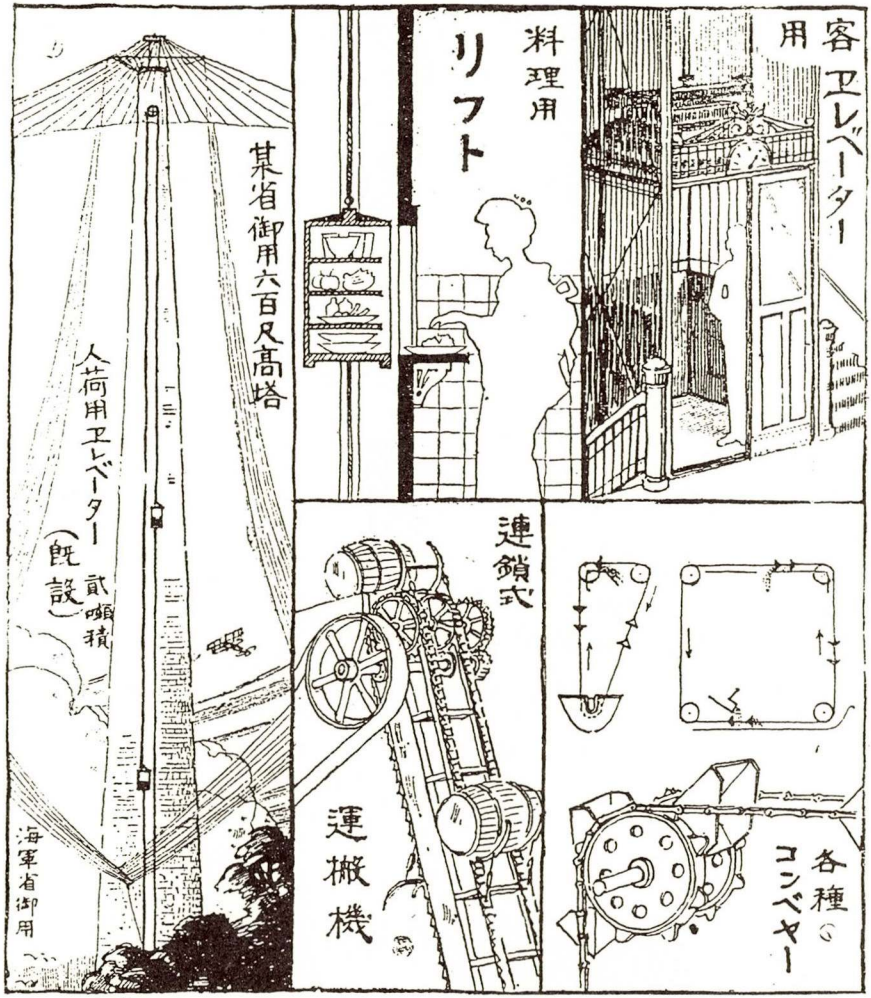
一　出品ノ位置方法ハ出品者ノ隨意ナリト雖、場合ニヨリテハ本會ニ於テ之レヲ變更スルコトアルベシ

一　既納ノ出品料ハ理由ノ如何ニヨラズ之レヲ返附セズ

一　詳細ハ當事務所ニ問合サレタシ

本邦エレベーターの権威

（専賣特許六件）

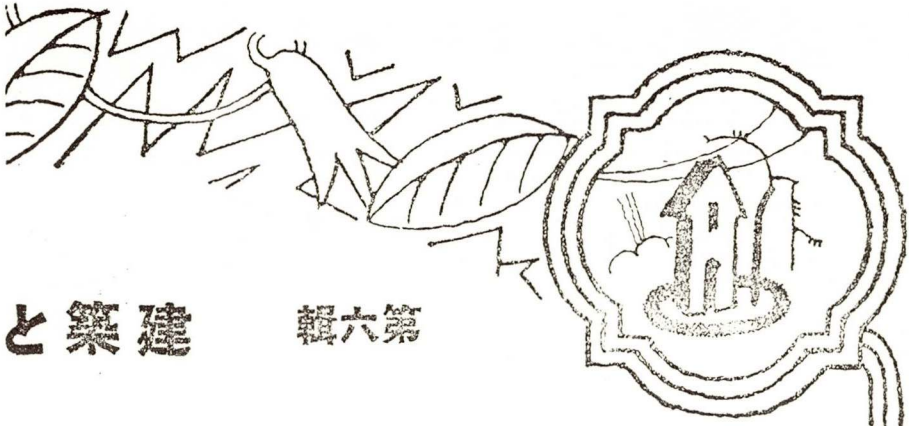


日本エレベータ製造株式會社

本社　大阪市東區中道川西町　電話電番　三二一三　六〇八五　七

出張所　東京市丸ノ内海上ビルヂング六階　電話丸ノ内二〇二二番

◎製品營業　エレベーター、コンベヤー。エスカレーター其他捲揚機械設計製作
リフト、ケーブルカー、ホイスト



建築と

第六輯

口繪（神戸市の懸賞募集に係る「駒ケ林公會堂」設計圖案（第壹等當選））

〔卷頭〕

▽詩と建築……

〔論說〕

▽建築の意義と建築家の責務……日本建築協會理事長 工學士 池田實 二
▽最低制限の問題（甲）……工學士 菱田厚介 三
▽日本の建築に就いて……工學士 池田稔 一七
▽何をか求むべき乎……法學士 大須賀巖 二四

〔研究〕

▽第四次元より裝飾へ（畢）……伊藤正文 二九
▽價値材Kulturgüterとしての建築（二）……山崎萬壽夫 三三

〔都市〕

▽中都市の計畫……田中清志 三七
——堺都市計畫の發足に際して——
▽進め過群より花園へ（三）……都市計畫技師 大屋靈城 四〇



社會　第四號目次

〔講　演〕

▽電熱の應用に就いて……工學士　佐立　健雄　四六

〔住　宅〕

▽理想に月覺めてさゝやかなる住宅に先づ生活改善の初一歩をつけたる泉南の富豪種子島源兵衛氏と其住宅……江村　郊邨　五七

〔資　料〕

▽英國建築士業務上の行爲及常習……六五
——日本建築士會中村達太郎博士註譯——

〔史　傳〕

△サー・クリストファ・レェン……大阪府建築課員　池田谷久吉　六九

〔漫　錄〕

▽紐育雜記……在プリストン大學　寛　八五

▽感じの良いと思ふ住家……伊藤二世子　九四

〔會　報〕

▽日本建築協會三月中記事

生活の改善は……家庭の電化から

臺所の費用が安くなつて清潔で便利



飯炊器　電氣洗濯機
電氣七輪　電氣アイロン
電氣茶沸　電氣裁縫機
電話機　輕便風呂沸
扇風機　職業用電氣裝置

最優良電熱器

特　取扱簡單且利、幼兒にも使用し得らる
熱度強烈で一定し、火加減自由簡單
火災の虞れなく、煤煙臭氣なく清潔
總ての手間と省け廣き場所を要せず
必要だけ自由に使へ熱量の無駄出來す

色

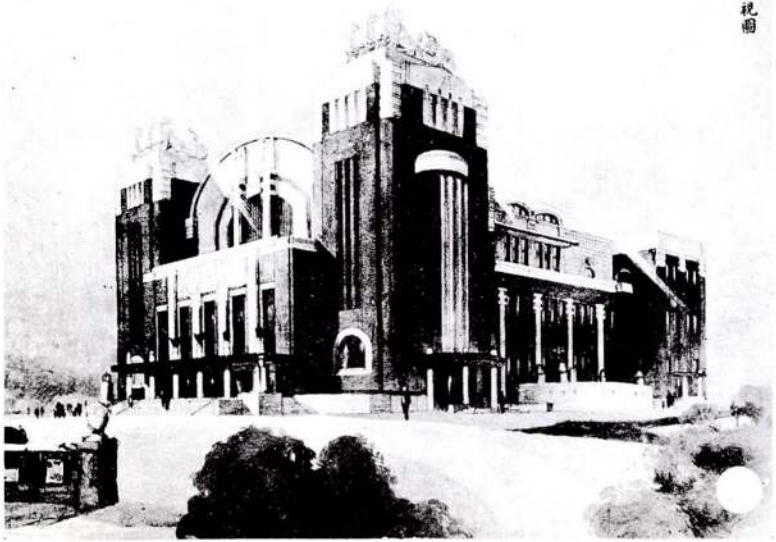


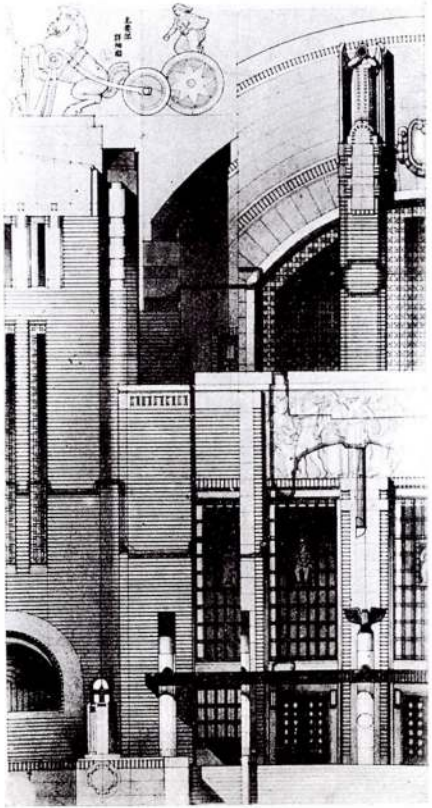
最優良電熱線ドライバー
ハリス會社特製品を使用

株式會社　川北電氣企業社
大阪市渡邊北詰電話北二二八

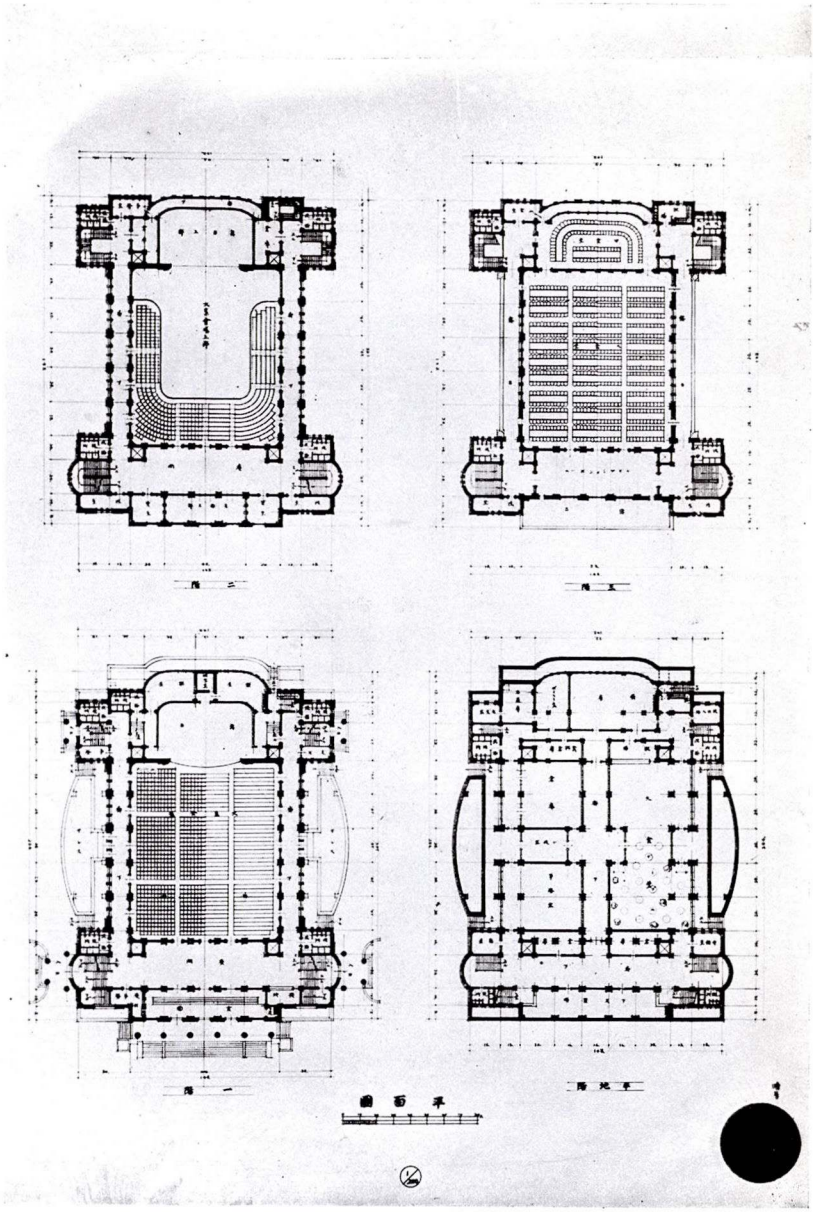
神戸市の懸賞募集に係る「駒ヶ林公會堂」

設計圖案第一等當選（その一）





東京市外大久保町一銀行建築技師前田健三郎及び同市牛込區神樂町二丁目二三岡田捷次郎兩氏作合、本案は行
一、尺二十四、梁間三十六尺、建坪四十二坪、延坪七十八坪、附屬家和風木造平家建二十六坪七渡廊下を以て聯
絡

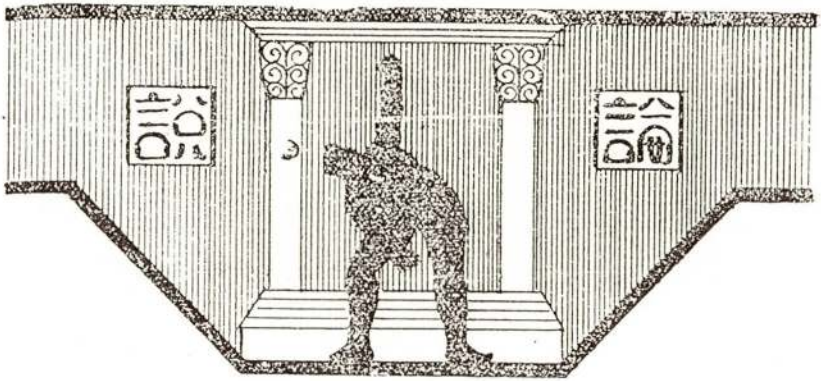


（二　の　そ）



凡ての生活は、詩そのものでなければならぬ。いや、少くとも詩を有つそれでなければならぬ。詩とは、究竟する處、「宇宙」の直觀、「實在」の交涉より流れ出る蜜であり、滴る脣である。

詩と建築　建築を、我等生活の外部創造の一つなりとせば、建築そのものが詩であり、少くとも、詩を伴ふべきである。それが、所謂藝術であらうと何んであらうと、本質的に關があらねばならぬ。「建築」は、我等に啓示し、我等に感激を與へる最高價値のものが、我等を通じて創現されたる一つである。（郊）



建築の意義と建築家の責務

日本建築協會理事長 工學士 池田實

一 緒言

世人の多くは建築家の責務は果して如何なるものであるかを未だ諒解して居ない樣に見受けられる、殊に其の甚しきに至つては之を誤解して居るものさへある。のみならず、建築家自身の中にも其の點の責務を自覺して居らぬ者さへ敢て尠くいのは誠に慨歎の極みである。吾人は茲に建築家の責務は人生、社會、國家に取つて實に重大なる關係を有するものであることを聊略述し、其の業務は如何なる種類に屬すべきものであるかを說き、且つ建築家の採るべき態度如何に論及して見たいと思ふ。

人生、社會及國家に於ける各般のあらゆる事業の有形的方面に於ける基調を爲すものは實に建築である。切言すれば、眞の意義を包擁し之を發揮する建築に基礎を置き、之に立脚し、之より出發せざる具體的事業は、決して完全に發展し、其の能率を增進し、良好なる効果を奏するこ

とを得ない。のみならず其の甚しきに至つては遂に沒落の悲境に陷ることを免れ得ない。これこそ所謂沙上の大厦、空中の樓閣と評す可である。從つて建築家の責務の重且つ大なる所以を知るべしである。

二　建築と自然

建築は人類の本能に基いて其の源を發し、住といふ觀念に依つて發達し來つたものであるから、其の根本的意義は自然に對する防備である。之は丁度鳥が樹枝に巢くひ、獸が岩窟に穴籠るなど、同一であつて、建築も當初は單に風雨、寒暑等の天候、猛獸、毒蛇、害蟲及他種の人類等の脅威侵害に備ふる自個保存防衛の手段に過ぎなかつたのであつた。併し現代の文明都市に於ては、上述の如き迫害は漸次其の種を減じ又は其の跡を絶つに至つたものも尠くないが、今尙時に强風、烈風、颶風等の吹き荒んで其の暴威を逞しうすることもあり、露置き、霜柱立ち、霰雹たばしり、六花紛々白皚々たる雪の曉あり、五月雨、秋雨のしとゝ降り續くの夕あり、豪雨渭然として天を覆すが如く車軸を流さんするの宵あり、洪水滔々として侵し來るの夜あり、寒風膚を裂くが如きの朝あり、災熱燒くが如きの午下あり、電光紫燦眼に閃き霹靂一聲轟鳴耳を劈き火柱天に連るの雷火あり、突如として穀皮裂れて斷層を生じ、烈强なる上下水平の動搖相續き、轉倒、破壞、壓殺目も當てられぬ慘狀の跡を殘すの震災あり、炎煙濛々として天に漲り紅焰一瓸數時にして巨萬の財寶を灰燼に歸せしむるの火災に遇遭することも屢々ある。要するに風の力、水の力、土の力、火の力などの自然の脅威迫害を受くることは免がれ難い所であつて、之が防備たる建築が最も細心の注意を要することを知るべきである。

又建築の構成方面より見ると、其の材料の主要部分は自然の植物及鑛物である。就中木材を利用することは極めて多額であつて、今日迄の趨勢を以て推進めば、遠からずして木材の缺乏を來すの虞があり

森林の濫伐は一面に於て土砂を流し、河水を涸し、水利を沮害し、延いて堤防の破壊、洪水の氾濫を招く因を爲すことに想到すれば、木材の濫用を愼み、他面殖林の奬勵を考慮すべきは、これ亦自然に對する關係事項の一であることを失はぬ。

從つて眞の建築家の任務は自然の對象として、之が研究を遂げ、其の自然律を闡明し、之を理解し、悟了し、自然の眞の玄妙を體得することを必要とする。こゝに初めて眞の意義ある建築が具現せらるべきである。

三　建築と人生

建築と人生との關係は、其の始終全部に亘つて離るべからざる極めて密接なものであることは明らかな事實であるが、尙深く推考して見ると人の生の前より死の後に至るまで聯關して居ることに想到し得るであらう。詳言すれば、人は母の胎内に在るときより、出産の際にも、嬰兒のときにも、這ひ廻り、立ち上り、歩み出し、幼兒のときにも、嬉戯し、團欒し、談笑し、飮食し、起臥し、屎尿し沐浴し、理髪し、少年のときにも、勉學し、讀書し、手工し、青年となつても、敎育し、執務し、作業し、商業し、作法し、結婚し、交際し、饗宴し、思索し、默想し、祈禱し、遊藝し、娯樂し、享樂し、煩悶し、負傷し、病苦し、壯年を經ても、老衰に赴いても、靜養し、遂に死の瞬間にも、祭葬の式にも茶毘一片の煙となるに至るまで、尙ほ白骨となしへに冷めたき墳墓——石屋に横はり了るさへ、要するに人は生の全部前後に連互して建築と終始する、人生の完否禍福は建築の良否に支配せらるゝことの多大なるものがあることを知るべきである。

從つて眞の建築家は人生全般を對象として、之が研究を遂げ、其の眞意義を理解し、悟了し、其の

諦を體得することを肝要とする。こゝに初めて人生の福利を增進すべき眞の建築は具現せらるべきである。

四　建築と社會

建築と社會との關係も亦極めて重大なものがある。社會事業が進化し、複雜となるに伴うて、建築の用途は漸次其の種類を細分し、各其の條件及特徵を眞にし行く、最初は單に住家のみに過ぎなかつたものが、宗教建築を別ち、公館を加へ、商業建築を增し、工場建築を交ふるに至つた。今之を少しく類別して數の多いものを擧げて見ると、住家、神社、寺院、禮拜所、教會堂、公衙、學校、圖書館、病院、銀行、會社、商館、事務所、公會堂、集會所、興行場、遊牧場、浴場、寄宿舍、旅館、料理屋、席貸、貸座敷、各種の工場、市場、火葬場、屠場、搾乳場、倉庫、納屋、塔、煙突、牆壁、門戶等に至るまで一々表示し難き程で、尙之を細別すれば數限りなき種類となる。換言すれば社會的事象の殆んど全部は建築に關係を有する次第である。

今一例を小學校に就いて言へば、其の校舍の完否は、其の位置の適否、敷地の廣狹形狀、生徒及教職員の爲め特に衛生及保安上の諸條件は勿論、建築主たる行政廳の理事者の側より見て、兒童の收容數、其の通學の便否、建築費及保存費等の經濟的關係を考察し、校長の側よりして學校監理上最も有利だらしめ、教員の側よりして教養上に於ける能率の增進に努め、生徒の側よりして勉學上最も至便にし小使の側よりして好都合たらしむることを必要とする。再言すれば、自ら理事者となり、校長となり、教員となり、生徒となり、小使となり、其の全部の各立場よりして來る諸般の必要條件を遺漏なく滿足せしむべきは一に掛つて建築家の任務であつて、之を要するに建築家は小學教育の全部の眞髓に通曉する

の必要があるのである。

又一例を劇場に採らんか、建築主、興行者、觀客、俳優、道具方、衣裳方、電氣係、下足係其の他各種の使用人、賣店主、御茶子等の各異れる立場より見ての必要條件を具備し滿足せしめ、尙火災其の他の非常事變の際を考慮する保安、多數の公衆の密集する衛生の見地よりしての必要な施設を完備せしむべきは建築家の任務であつて、之を要するに眞の建築家は都市人の娯樂機關全般の眞諦を體得するの必要があるのである。

其の他各種細別の用途に伴うて上述の二例の如くであつて、從つて眞の建築家は社會諸般の事象を對象として、之が研究を遂げ、其の深相に通曉し、其の意義を理解し、悟了し、眞の眞髓を體得することを必要とする。こゝに初めて社會の能率を增進し都人の福利を倍力すべき眞の建築は具現せらるべきである。

五　建築と國家、時代思潮

建築と國家との關係も亦至大至高のものであつて、國家の統治機關、敎養機關、產業機關、防衛機關の各方面に亘つて一として建築の之に伴はざるものは無い。從つて建築の完否は國運の進展に關係し、延いて國家の消長に影響する所多大なるものがあるのである。

國民の衛生が建築に基因する所極めて重大なるものがあり、殊に其の影響は漸進的緩性的である丈け世人の注意に漏れ易く、而も根本的であつて國民の體格及機能の全般に亘り、加ふるに其の子々孫々に遺傳波及するごとに深く留意せねばならぬ。

國家產業の立場よりして見るも、工場建築の良否は製品の精粗、產額の多寡に關係し、職工の衛生に

影響し、國富の隆替を左右するものであることを忘れてはならぬ。

又國家經濟の方面よりして、建築材料の選擇、利用、勞力消費の輕減、厚利にも深甚の注意を必要とする次第である。

之を要するに眞の建築家は、國家を其の對象として、之が研究を遂げ、其の點の意義を理解し、國是を悟了し、國體の眞諦を體得するの必要缺ぐべからざるものがある。こゝに初めて國家の進運隆盛に資すべき眞の建築は具現せらるべきであると確信する。

六　建築家の業務は營業に非ず

現代に於ける世上の職業なるものは、社會の進化に連れて事象の複雜の度を高むるに伴ひ、分業が盛になり益々其の種類の增加し行くのは自然の傾向であつて、今之を細別すれば一々之を擧げて數ふることの繁瑣にして極めて至難のことに屬する程である。併し又之を大別して見ると、數種に包括することも出來やう。今强て之を二大別すれば、一は營業にして、二は非營業とすることが出來る。然らば建築家の業務は果して其の前者の部に屬すべきかはた後者の部に入るべきものであらうか。

等しく是れ職業と言ふも、其の最も高尙なるものに於ては或は天職と稱することが最も適當であるべき範圍のものもある。又例令ば官吏。敎職の如きものは、其の業務は決して營業にあらざることは常識の認むる所である。其の營業と認められて居るものは主として、商業、工業、鑛業及農業の範圍に屬すべきものに限られて居る。而して宗敎家、醫師、辯護士の如きものは普通營業にあらずとせられて居る同じく建築に關する業務中でも工業の部に屬する建築工事請負業者は明かに營業であるか、所謂建築家なるものゝ業務は宗敎家、醫師及辯護士などのそれと其の性質に於て類を同じうし、列を比すべきもの

であると信じて疑はない。從つて建築家の業務的名稱を建築士と言つて建築に關する他の業務と區別すべき運動が起つて、既に日本建築士會なるものが一部の建築家の內に組織せられて居るのは誠に當然のことで又必要なことである。尙之を法律的に明確にする爲めに、醫師法、辯護士法又は會計士法の如く建築士法なるものゝ制定一日も速ならむことを切望する。

七　建築家と醫師、辯護士との對照

前述の如く建築家の業務は醫師又は辯護士のそれと類を同じうすることは、歐米先進國の例に徵するも明なる所で、しかも米國に於ける最近の傾向は建築家の社會的地位は醫師、辯護士と對等であるのみならず、却て此の兩者を凌いで其の上に位するとさへ稱されて居る。今建築家の業務を此の兩者と對照して一言を費して見るのも、敢て徒事ではあるまい。

醫師は人の四苦の一たる疾病の治療者で、肉體に關する救濟者であつて、辯護士は法治國に於ける人の權利に關する保護者である。之は丁度宗教家が人の煩悶といふ精神的苦惱に關する救濟者であり、人に慰安を與ふる精神的保護者であるのと相似たるものであるからである。而して建築家が醫師又は辯護士と相對峙する所以のものは、一面藝術家であると共に現代に於ける社會的文化生活の具體的方面の總括者で、人生、社會の基調に極めて重大なる關係を有すること、醫師、辯護士のそれに比して勝るとも決して遜色なきことが識者に依つて漸次認められ肯定せられたからである。

併し醫師及辯護士の業務は例令其の事件が重大のものであつても、其の取扱ふ事柄は實行上比較的簡單であるが、建築家の業務は其の事件が例令輕易なものでも、其の取扱ふ事柄は思想上に於ても又實行上に於ても非常に複雜にして極めて手數を要する次第である。從つて建築家は到底自個一人にて其の計

畫設計及監督を完全に遂行することは極めて至難であつて、相當多數の補助者を要することは止むを得ない所であつて、しかも醫師又は辯護士の比ではない。

醫師は代診又は助手、看護婦などを使用して、輕易な事項を備助せしめて居るが、患者の取扱は自ら其の衝に直接當つて居て、診察、往診なども毎日若くは隔日位には自ら之を行つて居る。辯護士も相當書生を使つて事件の内容の下調などを補助せしめて居るが、公判に於て辯論に立つときは必ずや自ら直接其の衝に當つて居る。斯かる點に鑑みて今日の建築家は或は反省するの必要があるものも尠くないやうに思はれる、建築家の責務は決して銀行の頭取や、會社の專務取締の樣なものではあるまいと信じて敢て一部の建築家に苦言を呈する次第である。

尙ほ醫師は内科、外科、眼科、耳鼻咽喉科、婦人科、皮膚科、精神病科などゝ漸次專門的分科が行はれ居る。辯護士も民事、刑事などの專門的分科が行はれつゝあることに想到すれば、日に月に複雜の度を高めつゝある社會諸般の事象を對象とする業務に從事し、之に適應すべき建築家も全科を廢して漸次專門的分科に進むべき機運に向つて居るのではあるまいか。同時に建築工事請負業者の專門的分科も行はれた。建築界の進歩亦大に見るべきものがあろう。

建築家の責務の具體的事項に就いては、最近中村博士が飜譯せられた所の大英皇立建築學會（RIBA）の公表した『建築士の注文者、請負人、職工に對する義務及其常習』に誠に明瞭に又最も至當に記述せられて居るので、こゝには只其の大綱に關することのみに止めて、詳細は夫れに讓ることゝした、是非とも夫れを熟讀玩味せられんことを切望する。（別頁、資料欄參照）

八　建築家の採るべき態度

曾て一夕建築學會の一室に於て野田工學士と清談したとき、同學士は現代の建築家の態度に慊らずして、音樂家、敎育家、宗敎家に對比して建築家を論ぜられたことがあるが誠に傾聽に價するものがあつた。今其のことを想起したので之を引用祖述して、建築家の採るべき態度に就いて一考を廻らして見やうと思ふ。

今茲に先づ音樂に就いて見ると、人があつて其の人は音樂を奏して獨り自ら慰むのみとすれば、其の人は果して音樂家であらうか、又學問に就いて云つて見ると、人があつて其の人は學問を研究して獨り自ら知る所が深かつたとして、其の人が果して敎育家であらうか、更に又宗敎に就いて云つて見ると、人があつて其の人は宗敎を究めて獨り自ら信仰を得たとして、其の人は果して宗敎家と言へやうか。之は寧ろ或は享樂者、或は學者、或は信仰者と言つた方が適當で、それのみでは未だ必ずしも音樂家、敎育家、宗敎家とは稱されたい、其の各の立場に於て、態度に於て其の名稱を異にすべきと共に其の內容に於て明に其の間に差別があるべき筈である。之を表示すると

1　音樂……享樂者……音樂家
2　學問……學　者……敎育家
3　宗敎……信仰者……宗敎家

然らば、音樂家、敎育家又は宗敎家の立脚地、態度は果して如何なることを必要とし條件とするであらうか。

音樂家は音樂を奏して自ら其の美を享慰すると共に之を世人に傾聽せしめて其の美を鑑賞せしめ、其の妙を諒解せしめ、其の玄に魅せしめ、自ら享慰すると同一程度に人を享樂せしめずんば止まさらむとする。若し世人が其の美に打たれずんば、此の玄妙が解せられぬかと歎し、之を憐れみ、決して自ら獨り高うして敢て他を顧みざるが如きことはない。況んや徒に世人の低級なる趣味に迎合せんとするが如き寄席藝人の態度は採らぬ。眞の音樂家は實に斯くあるべきである。茲に單なる嘆美者又は享樂者との差違があり又更に所謂藝人との區別が存するのである。

敎育家は學問の研鑽して其の蘊奥を究め、宇宙の眞理を捕へて自ら智的滿足を得ると共に之を世人に傳へて其の眞理を會得せしめ、自ら得たると同一程度に人をして智的滿足を獲せしめずんば止まざらむとする。從つて世人が若し其の眞理を了解し會得しなければ、此の宇宙の玄妙及眞理が判らぬかと歎息し之を憐れみ、決して自ら獨り高く止まつて敢て他を顧慮せざるが如きことはない。況んや徒に自說を曲げ、自らを欺いて世人の低級な又は爲にする所ある說に阿諛せむとするが如き所謂阿世曲學者の態度は採らぬ、眞の敎育家は誠に斯くあるべき筈である。茲に單なる學者との差別があり又更に所謂阿世曲學者との相違を生ずるのである。

宗敎家は神又は佛を信仰して自ら安心立命の樂境に常住すると共に其の信ずる宗敎を力說して、世人をして眞の信仰を會得せしめ、人生をして最も正しく美しきものたらしめ、自ら享有すると同一程度の慰安を感得せしめずんば止まさらむとするの慨がある。從つて若し世人にして宗敎心なきもの又は宗敎を信せざるものあらんか、どうして此の難有い眞諦を解し、其の加護に浴しないかと長歎し之を不憫なりとし、又其の極に於ては反對の宗敎を攻擊して自ら信ずる宗敎をして全世界を風靡せしめんと奮闘努力し、決して自ら獨り高うして敗て他を顧みざるが如きことはない。況んや徒に世の低級な又は故意にある邪說に迎合するが如き、宗敎を賣物にするが如き態度は全然其の採らぬ所である。眞の宗敎家は實に斯くあるべき筈である。茲に單なる信仰者との差違があり又更に似而非宗敬者との區別が存する所以である。

眞の建築家なるものは、單なる嘆美者、單なる學者、單なる信仰者ではない。固より自ら嘆美者、學者信仰者であることを必要條件とはするが、夫れと同時に藝術家であり、敎育家であり、宗敎家であるべきと同一意義に於ける世の先覺者にして又世の指導者であるべき筈である。之が眞の建築家の採るべき態度であらねばならぬ。

而して最後に尙一言を附加して本稿を閉ぢんとする、眞の建築家なるものの極致は、前述の如く世の先覺者にして且つ指導者たるの意義に於て、眞の科學者、眞の藝術家、眞の敎育家、眞の宗敎家の資格を兼備せる眞の經世家であらねばたらぬと確信して疑はないと共に、之を斷言して憚らないのである。

（完）

最低制限の問題（甲）

工學士　菱田厚介

一

都市と名のつくほどのものならば、何等かの程度に於いて、建築物高さの最低制限を要することは、いまさら申しのべる必要はない。こゝには、その實際問題としての、考慮すべき、または、參考となすべきものと考へらるゝ事項の概略について、鄙見をかきつらねることゝする。

二

第一は建築敷地の問題である。元來、このことは、都市整理の中樞事項とかんがへらるゝほどだから時に、この問題について、別段の考察を要するといふことはないが、その重要さの程度にいたつては、他の何物にもおくれるものではあるまい。建築敷地といへば、その形、その大さ、並にそれらの相隣關係等がかんがへられるがこれがみな、不適當のものであつた場合は、最低制限の意味は滅茶苦茶のものになつてしまう。たとへば、間口や奥行の甚くせまいものであつたら、これに、相當な高さの建物を經營してみたところで、第一、利用上にも不便きはまるものであらうし、街路の體裁も醜いものになつてしまう。また敷地の相隣關係が揃はぬものであつたら、よし、一寸見の外觀は整ふとしても、眞當の意味においての、高層都市造成の目的は達せられたといへぬ。そこで、建築敷地のことは、この問題のみからいつても、都市測量の隨一にくはへておく必要がある。とおもふのであるしかし、之に關しては別に說をなすものがある。敷地のことは、それ程、神經過敏に考へる必要はないといふのである。たとへ

扁平であれ、狹小であれ、不規則であれ、最低制限を設けさへすれば、自然的に、相當のものに補正せられるといふ。すなはち、自分の利用上、體裁上、かならず隣接地を買收するにいたり、一擧兩得の效果をおさめうるといふのである。私は、この說は、たしかに一理あるものとは考へるが、しかしそれは、十中十の眞理をものがたるものではない。これをうらぎる實例は比々としておほいのである。のみならず、御互の間に談じ合ひをつけるためには、實に不當の高値にあまんじねばならぬ。よしや、結果からみて、相當の成績をかち得たとするも、市民の苦痛は、あらかじめ汲んでおかねばなるまい。

さて、建築敷地は、通常所有地割並に借地割の關係によつてさだまるものである。ごくまれには、これら無關係になりたち得ないこともあるまいが、總體論としては、斯く斷じてさしつかへないごとくおもはれる。この點からみると、日本の都市の土地區劃は、全く、出鱈目と評するより外なき狀態にある一つには、地主の數が比較的おほく。しかもその持地が大小さまざま、非常に錯綜してゐるのにもよるが、また一面には、これらを建築敷地として數人に貸與する場合に、すこしも、土地經營上の頭をはたらかせぬにもよる、と考へられる。しかし現在の市街地の大部分が、十數年、または、數十年以前まで田畑や、山林や、荒地であつたことから考へるとまた無理もないとおもはれる節もおほい。さいはい、耕地整理法の施行以後、都市郊外の整理をこゝろみたところでは、今日多少の面目をそなへてゐるころもあるが、こゝとて本來、農業上の利用增進のためだから、宅地整理の眼からみれば滿足なものは殆どない。

大正八年都市計畫法が施行せられてから、所謂區劃整理の方法によつて、全然（郊外地に耕地整理法を用ふることは穩當な方法ではなかつた）敷地整理をなしうる保障を得たわけであるが、こんにちまでの經過から考へるとこれを都市中樞部に施すごときことは、ちかく期待しうることゝもおもはれぬ。しかるに、都市そのものは一日も休なき生長をとげつゝあることから考へると、せめて、甚く不整頓なる

個所なりとも、手取りはやく根治するの手段がほしいものである。そこで、建築物の永久構造を強制すべき地區、すなはち、甲種防火地區及最低制限地區（高次の）二つについては、適當に換地を行はしむるとゝもに、賣買、賃貸借における土地の形、大さの單位を規定するの方法にすゝむことは出來ぬだらうが。實際の問題としては、さらに一段の研究調査を要することゝおもふが、何等か、このさい、徹底的手段に出づるの必要を痛感せしめられるのである。

以上のとほりの次第だから、理想論をかゝげて行つては、こんにち（こんにちの法制の下に）、日本の都市に、最低制限をしき得る地區のおほくをもとめることは困難である。したがつて實際としては、もとより、多少の度の辛棒を必要とすることであらう。高層都市造成の急要からいへば、幾何かの難點はしのばねばならぬだらうし、市民においても、ある程度の奉仕は當然の責務ともかんがへられる。いまこれを、それぞれの場合についてかんがへると、二階程度の制限においては、大なる考慮を必要とせぬ、在來慣行の敷地を以て滿足しうるものとかんがへられる。三階以上、殊に四階以上の制限にいたつては、上述の諸點、ことに、所有地割奧行について、入念の調査を要するものと信ずるのである。たゞ、その數字につきては、精細なる意味における街柄と、道路市との關係を考査決定すべきもので、遽に斷定をゆるしがたいであらう。一流の商業的街路―オフイス、デイストリクト―に於ける實行十五間の標準は、ほゞ、不都合なき値と謂ひ得るであらうか。

三

第二は道路の問題である。道路については、その形、幅員、並に區劃配置等がかんがへられるが、このうち形については大なる考慮をはらふ必要はない。元來、最低制限は各道路について指定するの順序にいたるものだから、その幅員、並に區劃が適當であり、都市計畫上、將來の變更を豫想せらるべきものであつてならぬ、は謂ふまでもないことである。たゞ、制限の程度が二階位のものならば、その建築物の假設的性質上、それほど問題にするにたらぬ。

これを日本の都市の實際について觀察すると、眞に理想にちかい區劃をなし、かつ幅員充分なるものは極めてすくない。市區改正による路線にあつては、將來その變更を必要とせぬものが多いが、いづれも局部的のものであるから、之に交叉すべき路線の新設を想像し得ぬものは、ほとんどないであらう。したがつて、順序からいへば、これ等道路計畫完成の曉、最低制限の運にいたるべきものたらうか、こんにちの狀況では、到底そんな裕暢なことはいつてをられぬ。是非とも、一日もはやく、制限を設定して、合理的計畫のもとに、都市の發達を導くべきである。

つぎに、路幅と制限の程度に關して標準をもうけんとするの試みがある。路幅の一倍四分の一、または、一倍二分の一以上の制限をまうけ得ぬは勿論のはなしだが、それを大體その二分の一、または、三分の一として、比例關係をたもたしめんとするのである。

この試みは、參考としては、もちろん結構なことだとおもふが、餘り、拘泥することはさくべきだと考へる。もし日本の地域制が、もつと精細な間取制度を採用してゐたならば、大體上記の標準により得ることゝおもふが現行の四地域制度では、よほど無理なかんがへかただとおもはれる。

四

第三は、いはゆる街柄の問題である。ある程度の高層建物を強制する以上、その建物が、完全に、上から下まで利用せらるべきことを前提とすべきは、もちろんのはなしである。四階や、五階を強制したところで、それがオフイスとして不適當の地區であつたら、こんにちの日本には充分利用せられる見込はない（一部分の試みとしては賛成だが）。高層都市を建設して、その運營を敏活ならしめ、また一面都市の經營をたやすくして行く理想からいへば、高いのとは結構だが、程度を超すのはよろしくない。いま、たゞちに、住宅地域や、工業地域に、廣く制限をうけたならば、非常な無理をおこすものと想像せざるを得ぬのである。

現に、わが國の大都市においては、一流の商業地にあつてすら、木造二階が通則である。三階以上の

ものは、遊廓の地帶にあらずんば、會社事務所類の集團的地區にすぎぬ。六大都市中、もつとも高く發達せねばならぬ筈の神戸市においてすら、最近竣功せる建物の二分の一は平家といふありさまである。三階以上のものにいたつては、實に二十分の一にも足らぬ。このありさまから觀察すると、いまだ、日本の都市は、眞に大都市としての産聲をあげ得ぬものである。千餘年にわたる生活上の慣習の、容易にぬぎがたきを語るもので、必しも、建築の經濟と、撫造技術の普及せざるとは歸することはできない。かゝるありさまをみて、生活樣式の變革をくはだて、事務組織その他一般都市生活の內容をうごかさんとする企あるは當然のことである。關西の地方には、古くより、長屋建築が發達し、土地の平面的利用の方法をおしへてゐる。今後は、さらに進んで、立體的發達の端緒をひらかねばなるまい。しかして焦眉の急要は、いはゆる店舖構造の變革を企圖するにある、とかんがへる。私は、日本の都市の、最も救ふべからざる點の一つは、その商業地のいたづらに膨大なるに存するものとおもふのである。都市活動の能率をたかめるためには、是非とも、コンパクトな商業地域を形造する必要がある。これがためには、會社事務所の類を高層地區內におさむべきは勿論、在來の小賣店は、なるべく、これを整理してデパートメントストア類の營達にすゝまねばなるまい。またその一部は、二階以上、アパートメントとしての利用に導くべきものであらう。都市の經營者はよろしく、この點に着眼して、將來の方策をたつべきではないか。

たゞ、右の理想にすゝむため、今日、あまりに急進的な施設をなし、制限を設けることは、成效の見込がない現狀に妥協しつゝ、漸をおふてすゝむべきものであらう。今日の實際にてらし、商業地域內において、平家を禁ずる程度のことは、先づ大なる無理はあるまい。これを廣く、住居地域其他におよばさんとするは、前述の統計よりみるも、やゝ進みすぎたるの感がある。殊に一面、敷地內空地の分量に關しへ、その最大制限をもうけ得ぬ現今の法制のもとでは、首尾一貫せざるやの憾がないでもない。三階以上の制限にいたつては、特殊の地區をのぞき、將來、大凡、會社、事務所、官衙類の集團地と認めらるゝ地區に限定するを可とするものではなからうか

日本の建築に就いて

工學士　池田稔

私の、最近三年來、支那各地を旅行をして見た經驗によると、南支那殊に廣東邊の建築は、北支那のそれと異つて、餘程日本趣味を帶び、材料は日本にも應用の出來るやうな、木、竹、煉瓦抔を用ひ、其庭園の樹林泉水のあしらへなども、なか〳〵趣があるやうに感じた。何しろ大陸のことで、土地が廣大にて、一都市から幾十里を距て、漸く又小都市を見出されると云ふやうな所ばかりであるから、建物も凡て粗大厚重な氣分を有し、それが所謂都市計畫の形に於て大概一定して居る。其間のアノ廣い平地には、麥畑や麻の林、桑畑などがあつて、東京附近で云へば、六鄕川とか荒川の上流のやうな所には白帆が見える、と云ふやうな譯で、武藏野の原のやうな趣のある所に、水牛が水車を輓き、牧童が群羊を連れて、長閑に柴笛を吹いて居る、斯うした景色は、今日までの支那漫遊者の能く報告する通りで、其間にチラホラ見える建物の樣式なども總て一樣で、餘り變化がない。唯外國人の密集する居留地租界と云ふやうな所に於て、西洋に往つたやうな氣分を纔に感ずるだけである。そして、アノ滾々たる黃河や楊子江の濁流が流れて居る沿岸の大石等は皆代赭色で、地質も殆ど變化がない。地質學者の報告に依れば或層までは大抵皆同じ土質を以て被覆されて居ると云ふことである。水は又一般に濁つて居て、餘程高地へ行かなければ淸水を見ることは出來ない。內地へ歸つて懷ふと、特に其感を深うする。一寸郊外を散步しても、芝居を見ても、料理屋へ行つても、一寸した茶館へ這入つても、凡ての空氣が概括して濁つて居る。建物にしても、樣式は略々一定して居ると云ふものゝ、其建築材料は矢張り澄んでは居らない。瓦などには代赭色とか、綠靑色とか、淡紅色とか云ふ色彩を施して居るが、ワニスの塗り方にして

も、其他用ひられて居る大理石や殊に花崗石の如きも代赭色を成して濁つて居る。氣候は、廣東の如き春秋は可成り清明なコバルト色の空を見出すことも出來、一風も戰がざる中に公孫樹がすつきりと立つて居る、と云ふやうな極く落ち着いた澄める氣分を味ふことも出來るが、夏や冬には激烈な熱さと寒さがやつて來て、日本のやうな温帶地方の氣分と云ふものは迚も見出すことは出來ない。故に建物の樣式も其構造、色彩、調和と云ふやうなものが、平調に流れ重厚に裝はれると云ふことは自然の傾向である。

さう云ふ空氣に浸つて來て、日本に歸へる航海者は今更ながらアノ瀨戸內海の美しさに醉される。玉を敷詰めたやうな濱の眞砂、諸島嶼を彩る松の綠、其間に點在する眞帆、片帆、覺えず讃嘆の聲を發する。又長崎や門司下關から上陸して、汽車に乘ると、もう其形から支那大陸の汽車と異つて、小作りで綺麗である。そして廣島から尾道、岡山、大阪、京都、名古屋邊を通過して車窓から瞥見するアノ邊の家は、皆小造りで、澁色に塗られ、伊部燒のやうな瓦で葺いてあつて、郊外には萱葺の家も散見すると云ふやうな譯で、寔に綺麗である。此關西方面の家作りと、東京邊の新開地の屋並と舊江戸式の屋並とが不揃ひで、調和しない家作りとは其間に非常に差のあることを見出す。概觀せば、日本の今日までの建築は決して統一が付て居らぬと云ふことはない。構造は總て纖細で、屋根の色が一樣で、中には茶褐色の壁も混つて居るが、先づ白壁が多く、そして外廓を廻して居る所などは、南支那の外廓のある住宅の氣分と如何にも能く似て居る。又長崎の如き道路にはスッカリ石を敷き詰めてあつて、あれは明の時代から支那と交通して居つた結果、支那の風を敎つたと云ふ話であるが、アノ道路の樣子は支那の花崗石を敷き詰めた道路の樣子と少しも違はない。併し繰返して言ふが、日本の建物は尺度が小さい、非常に小さいと言つても差支ない。香港邊の英國人の建物と比べても、天井は低いし、其差の大なることは驚くべき程である。

所が近頃東京や大阪の如き大都市には西洋風の建物が櫛比して居る所もあるが、其樣式を見ると大抵

亞米利加風で、從來支那風の建物が日本を風靡して居つたと同じやうに、米國風の建物が日本の建築界を風靡して居るやうに見える。其他最近には近世獨逸風の建物も日本に這入つて來て居るが、曾て支那風が關西地方の建物に同化されたやうに、是等も亦遂に日本に同化される時期が必ず來るであらうと思ふ。併し其スケールは必ず又小さくなるに相違ない。今日に大きな家を建てゝ居るけれども、一般の人は甚だそれを好まないやうな風が見える。惡慮ことはまだ餘り言ふ人もないやうであるが、汽車に乘つて朝東京を出ると、夕方にはもう越後の海岸に行くと云ふやうに、一日で日本を横斷することが出來ると云ふやうな狹い所であるから、スケールの小さくなるのは當然であつて、大きなスケールの家を建てるのは唯亞米利加風の眞似をして居るだけで、徒らに金を浪費して居るやうにも思はれる。亞米利加風の大きな家を建てると云ふことも一時の現象で、或時以後は必ずスモール、スケールになると云ふことは自然の傾向であらうと思ふ。

前にも言つた通り、內地へ歸つて來ると、水の清いことを痛感する。日本の大概な川の水は濾しさへすれば飮用に供される。唯六大都市と云つたやうな大都市の水はあの通り工場を不規則に建設したものであるから、黴菌も多く、支那の水よりもまだ惡いやうに思はれるが、是は都市經營者の心すべきことであらう。要するに、近時文化住宅とか、或は民衆建築とか云ふ風な場當り的の議論も多く聞くやうであるが、日本の國情風土から稽へ、大局から論ずれば、公會堂、劇場、寄席、官公署、商店、工場、一般住宅など、日本の建物は總て日本の建物として一見地を有つて居らなくてはならぬものであらうと思ふ。それを知らずに、或は亞米利加の鐵骨構造が宜いから、何層樓を建てるとか、或は極く新派の獨逸風な裝飾拔きの實用向きである鐵筋コンクリートが可いからと云つて、檐蛇腹を除り、窓の庇も除つてしまふとか、或はアングロサクソンの諸建築の如く天井を素晴しく高くするとか、或は布哇などの熱帶地方の諸建築に見る如く、青、赤、黃などの色彩を施せる屋根の形も、野薔薇やダリヤ其他の大きな葉

と花とを有つた異人草がきらびやかな色彩を放つて居る所に於ては、それもふさはしく、素晴らしいかも知れないが、桔梗、刈萱、女郎花と云ふやうな極く優しい草花が簇生する日本の如き風土の所に於てさう云ふ色彩を建築に應用することは自然に悖つて居る。劇場の建築にしても、西洋風の全部椅子式のものが可いか、座席を其一角に取つて、飲食もすると云ふ昔の日本風のものが可いかは、識者を俟たずして明なことであらうと思ふ。外國が椅子式だからと云つて、生活改善會、世帶の會、或は平和協會と云つたやうな所の、失禮だけれども、はすツぱな婦人連は頻に椅子が可いと云ふけれども、是は事實を無視したものである。或は婦人の服裝にしても洋服が可いとて、洋裝にするには先づ以て日本婦人の體格を直して掛からねばならぬ。男子の洋服を着るのと、婦人が洋服を着ると云ふのとは、其間に自から非常な差がある。試みに裸體になつて見るが可い、帝展などに出て居る裸體の彫刻を覽ても、日本婦人の裸體を模型にして出來た彫刻と、希臘、佛蘭西、亞米利加邊の婦人の裸體を模型にして出來たそれとの間にどの位な差があるかと云ふことを考へたなら、日本の婦人は自から其醜形に恥ずるだらうと思ふ先づ〳〵自分の體格から直して徐に服裝を改造すると云ふことが世界的に見て日本婦人の執るべき途ではあるまいか。又食事にしてもさうである。私は廣東邊の料理を非常な美味だと思ふて居る。尚ほ芝居にしても、支那の役者の動作から服裝、學ぶべきことは多々ある。それは單に支那ばかりでなく、米國獨逸、英國、佛蘭西等に就いても學ぶべきことは澤山あるけれども、要するに、日本人の衣食住は日本人が解決しなくてはならぬことゝ思ふ。

然るに、殊に此住宅の事に就いても、餘りに短見者が多いのは呆れざるを得ない、單に住宅のみならず、寺院、劇場、諸官公署、公會堂、レストラント、工場、總ての建築に就いて、從來の設計方法は間違つて居りはしないかと思ふ。之を唯過渡時代のものとしてならば兎も角、之を鐵筋コンクリートとか鐵骨にして、千年萬年日本に遺して行かうと云ふ風な自信力を以て設計することは非常な間違ひである

都市計畫にしてもさう云ふ考で設計するよりも、建物は寧ろ在來の木造或は煉瓦造位のものにして、いつ何時でも改築が出來ると云ふやうに成し、徐ろに改良して行く方が、恥を後世に遺さない所以ではなからうか。一體、日本の建築家が計算（カルキュレーション）を學んだと云つても、それは誰から學んだのであるか、鐵筋コンクリートは佛蘭西の庭師が橋を架けた所が、裂目が入つたので、其處に土を加へたのが、その起りである。それを、佛蘭西人が計算し、又獨逸人や亞米利加人が綿密に計算して、遂に鐵筋コンクリートの計算をあの通り殆ど動かすべからざる一つの規則にこしらへてしまつたものを、更らに日本の建築家が學んで應用して居るのでないか。鐵骨の如きも矢張り同樣な徑路を有つて居る。エッフエルと云ふ佛蘭西人が何千尺もある所謂エッフエル塔を拵えた時に、世界の人は、是はどうだ、と言つて驚嘆したものであるが、即ち今日の鐵骨構造とか、鐵筋構造とか云ふものは皆佛蘭西の天才が先づ之を拵えて、英獨米の人間が演繹したものを日本人が更に又眞似をして居るに過ぎない。而もそれが出來たと云つても、唯骨ばかりであつて、之を實用的だなどゝ云つて、其裝飾方法を疎にするのは誤れるの甚しきものである。人間も唯骨ばかりで暮せるものなら、結構な話であるが、さうはいかない。それは無駄を省き經費を少くして、裝飾を實用向きにすると云ふことは大變可いけれども、其要素たる裝飾方法はどうかと云ふと、印度や小亞細亞や埃及から濫觴を發して、希臘に傳り、羅馬に這入つて、今の佛蘭西人や獨逸人の祖先であるフランクやゴールに渡つたのであるが、其裝飾方法のヒストリーも能く解へず、徒らに實用的と云ふ言葉に拘泥して、さう云ふものを見捨てゝ居る最近の日本に於ける建築界の風潮は可成りの惡傾向であつて、外國人が見て褒めるものはない。是は寧ろ非常に恥づべきことであらうと思ふ。

抑も、日本の建築家は自分自身で製圖設計をすると云ふことさへもなか〳〵出來ない。ミケランゼロの如きは、設計は勿論自から彫刻を爲し、繪を書き、橋を造ると云ふ風で、一人にして彫刻家であり繪師であり、建築家であり、橋梁家であつて、而もあれだけ優秀な成績を擧げたが、さう云ふことは今

は到底出來ない。我々日本人は建築だけすらなか〳〵滿足に出來ないと云つて居るけれども、何んぞ知らん、今日の日本の建築家はミクラアンゼロよりより以上の仕事を爲て居る。即ち非常に難かしい高等數學の計算から、衛生、電氣、機械等の諸設備を爲し、甚しきは建築家にして請負（コントラクト）を兼ねて居る人もある。さすれば一つの親分であつて、人夫の指圖から經濟上のことまでも考へなければならぬ。それ程複雜な仕事を爲て居る。恁麼なことで、ミクラアンゼロの半分の眞似も出來ないのは分り切つた話である或は曰く、最近の建築は綜合藝術であつて、建築家は各種の材料を綜合し、諸技術者の相談對手となつて、そして一つの家を纏めなければならぬ、と云ふけれども、希臘の建築家や羅馬の建築家はどうであつたか、今日の如き諸科學の應用は知らなかつた。一般の人智がそこまで行つて居らなかつたから、諸科學の綜合と云ふことは知らなかつた。だから一人の建築家であつて、彫刻家であり、畫家であると云ふ位のことしか出來なかつたのであらう。併し日本の建築家は其本旨を取違へて、彫刻とか繪畫とか、又建築の最大要素たる設計と云ふことを度外視し、反對にサイエンスの方に走つて居る。神ならぬ身と雖、其日本の一般建築家が執つて居る方針が誤つて居ると云ふことは明であらうと思ふ。

而もさう云ふことになるのも、要するに人格の修養と云ふことに就いて甚だ間違つた考を有つて居るからでないかと思ふ。此處に私の謂ふ人格の修養とは、例へば、一つの建築の構造を敎はれば、直ぐ其構造に夢中に成り、佛蘭西人の發明した計算を一つ學べば、都市の建築條例にまでも非常に難しい規則を應用すると云ふやうな風で、輕々しく一方に偏すると云ふことは建築家の人格を修養する所以でない

唯皮相な佛蘭西の計算法だとか、獨逸の近世式だとか、亞米利加の高層建築だとか云ふやうな一方に偏したことのみを研究して能事了れりとし、而もそれを實行せんが爲には綜合藝術の必要がある、建築上の思想を綜合するばかりでなく、建築材料及び諸科學を應用した附帶設備を綜合するにある。斯う云ふけれどもさう云ふ風なことを綜合することが建築家と云つて居ることは非常な間違ひである。それも

素より必要であるが私共の最も學ぶべきことは、其外に繪畫彫刻を首め、今まで識らなかつた各國の建築歴史に就いて大に學ぶ所があり、之を日本の建築に應用し、同化しなければならぬ。それをまだ二分位しか學んで居らない、八分位は殘つて居る。然るに建築條例を拵え、西洋館は拵えるけれども、外國人の嗤笑を買ふと云ふのは日本の建築家が其學ぶ所の要點を忘れて居るからである。

尙日本の建築家は創造と云ふことを間違へて居る。子供の粘土細工や、箔細工とか、積木細工のやうに唯形を圓くするとか、方にするとか、抑揚を付けて積むとか云ふ風なことが創造であると云ふならば子供は創造力があると見なくちやならぬし、我々は寧ろ成年なることを恥としなければならぬ。日本の建築家の創造力とする所は全く子供の創造力と選ぶ所がない。尤も是は單り建築に就いてばかりではない、其他に於ても日本人の稱して創造力とするものは非常に幼稚なものである。創造力とはそんなものでない。是は私の獨斷かも知らぬが、經驗に經驗を重ねたる所に本當に立派な創造が生れるのである。今日の日本が日清日露の戰爭に勝つて、世界の强國になつたと云ふ風なことに滿足して、人心の頽廢を來したと同じやうに、日本の建築家が徒らに歐米の建築の皮相を眞似て能事了れりとして居るのは、實に憂ふべき傾向であつて、一面から云へば、之を建築の頽廢時代と言つても過言でなからうと思ふ。

（文責在記者）

椿咲く日當りに

曆日めくりす

何をか求むべき乎

大須賀巖

（一）

今日八釜敷い『文化生活』の要求の中で花形は何といふても住の方面であらう。衣とか食とかいふ方面は之が金に無かつたり、不足したりすれば現時の人間では直ちに死の問題となるのであるけれ共、『文化生活』の問題としては一日や二日家が無くつても、飢えねば死にもせぬ處に——然かも奢侈でなく、生活の向上に就て人間の要求を叫ぶ處に、如何にも人間味のある趣があると私は考ふる。ツマリ私の考としては文化生活の中心として住を考へずには居られないのである。面して此の住の問題の解決の任に當る者は誰であらうかといへば、今日の流行語に從へば勿論人自身であり人の中で凡ての人皆が之を考へて解決せなければならぬのは當然であるが、何といふても他の人は之に厚薄があつても又全々考へない時があつても差支ないのであるが、建築家としては住の問題に無關心は愚ろか一時たりとも忘るゝことは容さるべきことでなからう。建築家よりすれば住は其生命であり之を喪ふたる建築家は嚴に生物としての人類にプラスする幾何も無いものとなつてしまふ。

斯く解することによつて私には文化生活と住と建築家とを數學的に論理的に計算、歸納して見ると、事苛も文化生活を研究せんとすれば之が中心を爲す建築家夫れ自身の使命は果して何であるかといふ研究が大なる半面を爲すとの決論に達すると思ふ。之無くして徒に文化生活を討究しやうとし又文化生活の總元締である都市計畫を云々しやうとしても、要するに砂上の樓閣たるに過ぎ無い。

（二）

建築家の使命如何に就ては幸にも先輩諸君より數多のヒントを與へられて居る。先づ第一に先頃技術者の會合が當地で催された折我片岡副會頭も其一人として技術者の地位向上が叫ばれたと新聞記事に出て居る。私も第三者として今日の技術者の社會上の地位が適當でないことを平生思ふて居る。更らに本誌三月號には池田理事長の此事に關する論文が載せられて『歐米先進國に於ける建築家の地位は辯護士及醫師の上に置かれて非常に尊重せられつゝある事實云々』とある。私はデモクラシイ的に上とか下とか云はずに只下に置かるべきでない事に共鳴する。

又更らに先々月日本建築士會で頒布された中村博士譯の『英國建築士業務上の行爲及び常習』の第一個人及び對人の義務の上に『建築士は藝術家兼技術家なり』といふ條項を見出した。又本誌前月號山崎萬壽夫氏の『價値材としての建築』の論文の一節に『故に建築家は藝術の分野にその存在の意義を認めなければならないのである』といふ句を發見した。

建築家の今日の社會上の地位に甘んずべからざること、建築家は單なる技術者で無く藝術者の心持（少くとも）が無ければならぬことを論じ盡されて居る樣に思はれる。然らば之を向上せしむるむるに就て建築家自身の自覺修養は如何にすべきか、如何なる地位に據つて尊からしむべきかに就て之迄建築家の先進大家より多くの機會に於て多々示されて居る樣であるが、私は此處にこの種の訓言以外に眼を轉じて、非建築家の言にして之に觸るゝも二三を檢討して見たいと思ふ。

（三）

此春の或雜誌に三宅雪嶺博士は科學者の本領といふ如き題下にニュートンの經歷とクリストファ、レ

ンのそれとを比較して、後者の方が前者に勝るかの如き一論文を載せて居る。ニユートンはあれ程の大發見家でありながらその本領を發揮するよりも寧ろ妨げと爲つたらうと思はるゝ印刷局長の地位を重大視したのに反して、レンは其の天分を建築に自覺すると共に半生の研究を抛つて晩年社會的地位がドウあらうと一意專心之に向つて努力した、彼の死に至る迄任じたところのものはレンの建築を此地上に出顯さす其事のみあつて遂に犯すことの出來ない存在を殘したことを激賞して居る。尙博士はニユートンに就て彼が官職を重んじたのは英國民が、自治の民として公職を重んずる氣風からであらうか、科學者としては之が爲め本領を發揮するに十分でなかつたことは遺憾であるといふ意味の事もいはれて居る。私も曾て或る雜誌(?)でグラツドストーン氏が大政治家としての誇りよりも彼としては輕重に値せぬ文學方面の譽を希求して彼の文藝上の收入を一々小遣帳に書きつけて人に誇つて見せる癖があつたといふ事を見て、兎角人間の弱點はコヽにあるのではあるまいかと思ふたことがある。役所の役人なども臨時の收入とか內職として這入るものを非常に難有り、ヤヽともすると本職に災することが往々あるのである。又今日我國の官吏の制度は事務を本系とする制度で職名も組織も其主義によつて出來て居るソレを技術者で官吏たる人々で切りに課長とか部長とか局長とかいふ名を欲しがるのは、兎角之等の職にある事務官が官僚氣質で技術の尊重すべきを知らず技術者の立つ瀨が無い爲めの反動かとも見られざるにあらずであるが、一朝かゝる職に就いた人々の反つて事務官のそれに增して官僚式に過ぐといふ風評を往々受けるのはドウも說明が出來難くなる。私は技術官と雖その尊いのは技術者たるが故であつて技術の內容の大なるによつて其人は偉大也と思ふものであるから課長と爲り又課長より部長に、部長より局長の名が變つた處で之は事務の方法を認められたに過ぎないので技術者としては之が爲め何者も增減するもので無いと信じて居る。

官吏としての技術者の位置に關する論文として、此春以來法學協會雜誌に載せられて居る臘山法學士

の『行政の慨念構成に於ける「技術」の意義に就て』の論說は又一面の觀察であるが、コヽに之が解說と批評を附け加へるのは煩を重ぬることゝ爲るので志ある人々の同誌に就て直接參考されんことをお勸め申上げて置く。

（四）

私の名は當時陸軍少將であつた大山巖閣下の巖を頂戴したのでない。幕末に小栗上野介、川路聖謨と駢び稱せられた巖瀨肥後守に祖父が知を辱ふした結果父が私に命名したのであると聽いて居る。ソンナ關係からであらう私の家に川路聖謨の幅が傳つて居つたのを同人が此處で天保頃町奉行をしたといふ因緣から今回取り寄せて中の文字を讀む機會を得た。素より漢文で書いてあるのであるが當世流の假名交りに誌して見ると左の如くである。

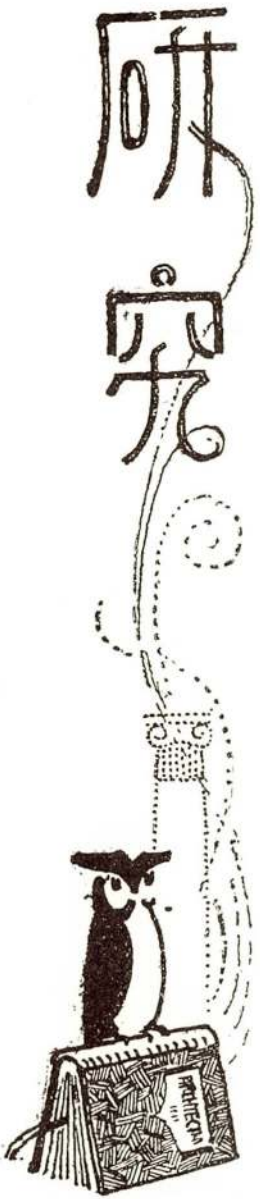
漫リニ道ヲ天命ニ任ス邈乎トシテ奉遵シ難シ近ク思フテ彼ノ贊ヲ執ル全ク其ノ身ヲ致スニ在リ鯫ト爲リ還タ炙ト爲ル用連タルト用甄タルト談心使令ニ甘ンズ淸恪忠純ヲ盡ス纖毫モ憂苦無ン讒カニ是レ分ヲ守ルヽ人

この頃の新聞に天下の名人として某蓄音機會社に廣告されてる落語家圓右氏が曾て高座の上から氣焰を上げたのを聽いたことがある。彼曰はく。今日の落語家に藝の上手などは望まれませぬ、今日の落語家の弟子といふものは藝を研かうと云ふので無く、アチラの師匠が餘計に給金を出すと云へばソチラへ行き又コチラで餘計出すと云へばコチラへ來る、之で藝が研ける筈がありませう？と、說き初めて彼の修養の容易ならざることヽ、藝人としては死を以て藝に當る覺悟とを語つたのである。

（五）

前月號の鵬心學士の論說は私共に與ふるもの多かつた。其の論文中歌舞伎座の建築に關するもの〻中で、鐵筋混凝土構造と日本風との矛盾を痛論せらる〻論旨は、曾つて宮本工學士よりも敎を受けた點であるが、鐵筋混凝土といふても必しも一樣のもので無く、地震にヒビの行く樣に作つてあれば壞れるが當然であり地震に耐ふる樣に作つてあれば壞れないのが當然であるとは、昨年の東京の强震の際內田博士の發表された高見である。又佐野博士も或雜誌に鐵筋混凝土の話として鐵筋の組み合で鐵筋混凝土も種々の働きが出來て强弱に種々になるといふ意味の意見を述べられて居る。之によつて考ふると日本風の外觀を餘義なくされる塲合——營業方針の爲めにとか由緒とかいふ方面より不得止斯くせねばならぬの必要あつた時、構造は鐵筋混凝土で其要求に添はなければならぬ部分に鐵筋を巧みに働かせて之が爲め反つてスンナリと鐵筋混凝土の普通の式で遣つたより、耐震とか耐火とかいふ建築物の使命を大ならしむる苦心——無理——其處に昔の佛師が人知れぬ苦心に二日も三日も食を廢しても沈思することがある樣に、苦慮することが建築家をして藝術家たらしむる一面がある樣に私には思はれるのである。斯くすることによつて出來上る迄は無理な注文も藝術的創造によつて、後より見る者にはコロンブスの卵と爲つて建築家の領域は一步々々開展して、事務官の首班たる內閣總理大臣に任ぜられたよりも、會社の社長と爲つたよりも、其本領の上に立つて社會的に第一位の地位を獲得し得ることが出來るのではなからうか。

× × × × ×

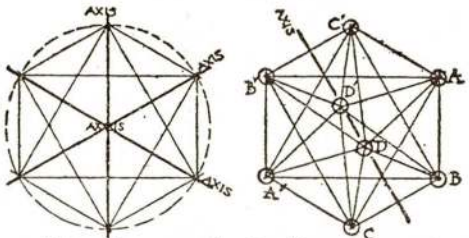


第四次元より裝飾へ（其二）

伊藤正文

地等の親しみ難い觀念を讀者の心にもつと、しつかりと植付ける爲に創造的想像及構成の實例を示さう。即ち一平面上に十六面體を少しく異つた方法で表して見やう。之は第四次元の空間の正しき形として十六の『Cell』から構成されてゐる。而して其各々が一つの正しき四面體を有し、又三十二の三角の面、二十四箇の稜及び八つの頂點を持つ。之は第三次元の空間の八面體ち相關的であるそこで第一に互に直角なる四つの座標軸を設定することが必要である。若しも吾人が互に六十度の角度を保つて一點に會する三つの線を引く時に、之を第三次の空間に於て互に直角なるものと見ることは難しいことではない。第四の軸は此三線の交點を各に垂直に通るものと假定する。從つて吾人は之を單なるクロスセクションの點として見ることを得る。

依て四軸によつて作られた角度は皆直角であり之は第四次元の世界に於てのみ可能であり、又重

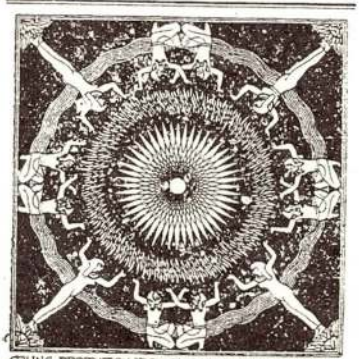


DIRECT VIEW AXES SHOWN BY HEAVY LINES TILTED VIEW AXES SHOWN BY CIRCLES
THE 16 HEDROID IN PLANE PROJECTION

要なる點である。

十六面體はシンメントリカルな超立體であるからその八つの頂點のすべては中心から等距離である。是等の構成する面は與へられた點についてシンメトカリーに交錯する。此等の點は我々によくわかる樣にする爲に圓を書いたらばいゝ。（圖の左）その圓との交點のどれも十六面體の一つの頂點を成す。各頂點から各互に向つて直線を描く。此各線は十六個の四面體の「Cell」一つの稜を示す。けれども第四の軸の二端は互に反對の方にあつて、且つ圖に示す點の反對側である故に圖に於ては此等の線は明でない。それ故に圖形を少しく倒けて第四軸が遠近がついて見える樣にする必要がある。之によつてすべての線が圖形を形成する。其結果は右の圖に示した十六面體の投影である。之には意外な線や面の配置は何にもない。しかし吾人の物質の平面上に投影されたる高次の空間の原型による影がある。その事は驚異であり、神秘である。想像を逡巡せしめ、經驗を反駁する。けれども一般に知られてゐる幾何學の取扱ふ圖形と同じ程度に理論の上に於ては充分の權利を附與せらるる可きものである。圖形を裝飾に應用するならば上の圖の如き模樣が出來る。

The Fourth Dimension


CEILING DECORATION FROM THE TEMPLE OF DENDERAH

之をカーテンの模樣に應用した例もある

圖の十六面體の十六の『シェル』は次の如し。

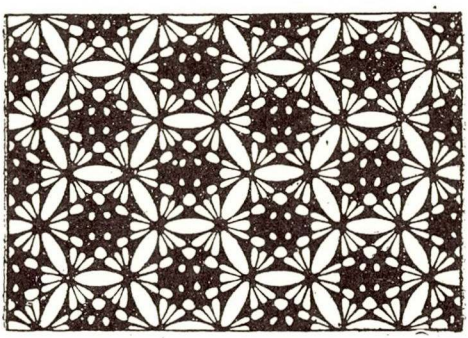
A B C D　A′ B′ C′ D′
A′ B C D　A B′ C D
A B C′ D　A′ B′ C′ D′
A B C D′　A B′ C′ D
A′ B C′ D　A′ B′ C D′
A B′ C D′　A′ B C′ D
A B′ C′ D　A′ B C D′

此點まで充分に釋れば、第四次元の幾何學は斬新の興味あるオーナメントの『モーチフ』たり得ることは充分明であらう。四次元の幾何學は美しさと面白味とは決して劣つてゐない位な他の『數』に立脚せざる模樣を征伐した。此等の模樣は、"Objective geometry"に不案内な、しかし最も賢明なる設計者の及ばざる所にある。

裝飾家の最も必要とする所は之か又は他の何かこうした固い根據によることである。

此根底のない裝飾家は自分の空想のまゝに固らぬ砂地の上や、過去の殘滓や砂れ物の上に建築しようとするに等しい。茲に於て幾何學は確實なる根據を與へる。吾人は努力しく深く進まねばならない。しかし乍ら、結果はやんな根底の上に強い美しい殿堂が築かれることのみではなく、その努力そのものに價値があるであらう。

すべての効果ある裝飾の根底は幾何學及び數理であると云ふ一般の論旨を確定することに於て、著者は"denderah"埃及の神殿の有名なる"Zodiac"天井に輕くモディファイされた圖を見てもらひたい。



日輪とその白光が配置の中心をしめ、根本を象徴してゐる。そして忠實に描かれた圖は賞に數によつて計られたものである。茲に全世界に於て最も偉大なる裝飾的計畫の一つがあるのだ。現代のアーチストの力量を超越した『バランス』と『リズム』に對する感情を以つて按配され、現代のク

ラフトマンの領域を越した技倆で實施されたものである。

見るものをして第一感せしめることは非常に數學的のリズムのあることで、幾何や數のタームを引き入れることは少しも難しくないことを敎へられる。此リズムと群をなして續いた像との凍り結ぶ音樂を聞け、而して吾人の最もすぐれたる裝飾美術家の混亂したコンポジョンを見よ。

只茲に殘る事實は、古人が秘した美術から高價にして生氣あるものを失つたと云ふことである。

此等古の確實さと新しき空間のリズム——

——數學的科學の進歩によつて可能ならしめられる可き——とに就て著者は語つた。

美術家、建築家、意匠家達よ、流行の蔕した食物を噛むのを止めて此等の牧草の新しさに來れ。

以上はブラグトン氏の書からの譯であります。

（終り）

峰そがひ見えて

家並の櫻かな

價値財(KULTURGÜTER)としての建築（二）

山崎萬壽夫

△

前號に於て吾人は最も簡單に建築がその運載する文化價値によつて重大なる意義を把持することを論じ同時に建築家は藝術の分野にその尊い使命を見云さねばならないと言ひ及ぼした。

次で吾人は此研究を進めるに先立つて新理想主義の歷史哲學に於ける文化價値に就て簡單な記述をしておく必要を認めるのである。

△

却說　歷史哲學とは歷史を對象とする哲學或は歷史の哲學的意明（Deuten）であると言はれてゐる樣に科學的說明が何ものをも示さない『何故』及び『何へ處』こそ彼が生命とする問題でありつまりそれは價値に關する問題に外ならないのである。

要するに哲學は吾人の遭遇する矛盾に充ちてゐる事實から一の統一的世界意義を讀み出すために生活の一切の現象を取扱ふものである。

而してそれが與へる意明は常に一の價値判斷一の價値測定である。

科學が全力を擧げて一切を理解し說明せむとする因果の原理さへ哲學は更にその意明を企てその價値を評定せむとするのである。

哲學は因果とは本來如何なるものであるかと云ふ問題を呈出し而してそれは一の純粹概念であると答へ又その價値は如何に評定さるべきかと問ひそれは感覺界に妥當する思惟の一形式であると答へるのである。

尙ほ哲學は又直接に超感覺界に關する形式をも對象とするものである。

以上述べた處によつて知らるゝやうに哲學は常に價値判斷、評價を取扱ふ可きものでありその對象と認めるのはつまり絶對的價値として完成する純粹形式或は純粹概念である。

茲に於て吾人が哲學の對象は價値であると云ふ場合のその價値は決して個人的價値（Individual Wert）即ち個人の人格的同情が評價し只此個人的評價にありてのみ存立し妥當する處の善ではないことを斷はつておく。

而して哲學の求むる價値とは絶對的に妥當する價値であり其等の絶對價値は文化と一の必然關係を有し又この文化との關係に於てそれは歷史哲學上重要なるものとなるのである。

言ふまでもなく生活は自から文化を指示し文化に移り行くものである。

凡ての生活財は全く文化によつて始めて其最高の刺戟を受け最も美はしく完成されてゆく。

吾人は茲に普通に四種の文化價値範域を認めるのである。

（1234は便宜上の順序なり）

（1）倫理的價値範域
　　倫理的、法律的、國家的生活の範域

（2）審美的價値範域
　　藝術及び美術工藝の範域

（3）理論的價値範域
　　科學の範域

（4）宗教的價値範域
　　宗教の範域

かくて吾人は右記四種の文化價値範域に就て考究する順序となつたのであるが都合上1342の範域は割愛して直ちに2の審美的價値範域に就て論を進めることにする。

△

己を献げること（Die Hingebung）の對象である價値即ち審美的價値は美價値（Die Schönheits Werte）でありそれは造形藝術（空間藝術）を導き時間藝術を生むのである。

而して自然及び藝術の領域に於て表現する美價

値の自律及び絶對的重要は歴史的順序に於て最も遲く見出されたものである。

カントの三大主著『判斷力批判』(Kant Kritik der urteilskaft) が斯の探及に貢獻せる處は非常に大なるものと認められてゐる。

抑々自然美と藝術美との對立は審美的觀念の發達を理解するために重大なる意義をもつてゐる。それは自然が藝術よりも高く評價されるか或は藝術が自然よりも高く評論されるかといふ二つの評價傾向を生むのである。

古代人には自然がより高く評價されて居つた。藝術は自然の模倣であつて美はしい自然はその遵奉するべき規則を藝術に與へるものと考へられて居つた。

併し近世に至つて斯る審美意識は反對の評價傾向即ち藝術は美はしい實在の模寫ではなく自然が單に暗示するに過ぎないものが藝術に於て完成されるので自然が藝術に規則を與へるのではなく藝術が自然を規定するのであると考へられるやうになつたのである。

實に藝術的創造作用といふのは自然界に於ける出來事ではない。

純なる藝術的創造作用の立場に立つ時吾人は自然界を構成するとは異つた a priori の上に立つて異つた客觀的世界を構成しつゝあるのである。即ち純粹意志の立場に至つて純粹意志の對象界を構成しつゝあるのである。自然界とは異つた之よりも一層高次的な文化の世界を構成しつゝあることである。

吾人が只因果律の支配の下に快樂を追ふて行動するのではなく一般妥當的價値を實現することを文化的行爲とするときは藝術家の創造作用は言ふまでもなく直ちに文化的行爲でなければならないのである。

かくて創作されたる藝術作品はその一たび創作されたるがまゝに絶對に完成され總ての時代に於て不變である。

そこで吾人は尙ほ美價値と藝術との關係を探究しなければならない。

前述の如く美價値は自然界及び藝術界に二重に實現されることを特徴とするのであるが吾人は如何にして美なる自然は可能であるかと云ふ問題にはふれず如何にして美なる藝術は可能であるかと云ふことを問題として美價値と藝術との關係を考

究する。

吾人は茲に先づ美とは本來何であるかと云ふ問を呈出せむとするのであるが此の價値をその超越的孤立に於て記述し定義することは非常に困難なることである。

故に吾人が體驗する感覺的美が超越的美の實在に對する明白なる證據であることを承認して只美の概念に就て極一般的な一表象を作ることに止めておく。（併し前號にはリッケルトの美價値の定義を簡單に記しておいた）

本來美價値には孤立といふ思想が結び付いてゐる。故に美の觀念の中には聖き孤獨の思想が含まれて居るから藝術は常に若々しい永久の現在なのである。

藝術品の眞の精神は最高の意義にて解する審美的觀念（Aesthetische Idee）である。

而して斯く解する審美的觀念に於て吾人は美の純粹絕對の概念と人間の文化的行爲の結果としての藝術品とを結びつける紐帶を見るのである。

吾人は哲學的反省の媒合によつて藝術品にも現はれ而してカントが大に重要視した一定の普遍的な論理的範疇の存在するのを知るのである。

例へば審美的調和の概念の如きものでさつて統一の理論的概念に對應し又カントによれば狹義にて云ふ美の範域を撫成すべきものである。

更に莊高（崇高）なる概念と結合する高度の審美的緊張である二律背反の概念や美的遊戲の意味に解される自由の概念も之に屬してゐるのである。

併し美の世界を理性の普遍的世界に結びつける此等の普遍的な論理的形式は藝術品の精神にも又時間的に制約されたスタイルの形式にも吾人を導き入れることは出來ない。

藝術品に入りこむ途を開くものは只審美的觀念だけである。

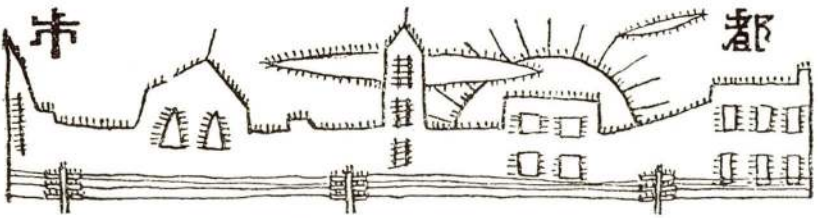
而して此の審美的觀念なるものは美の永久的觀念にあまりに接近してゐるが爲に決して概念的に捕へ得られないのである。

かくて藝術品の觀念は其自律性を毀損しないで道德性を帶びることもあり又論理的價値や宗教的價値が審美的觀念を充すこともある。

併しかゝる場合にあつてはそれらの價値は凡て審美的意識に對して一の材料となるのみである。

（Dr. Georg Mehlis, Lehrbuch der Geschichte d hilosophie）（米田博士）

吾人は續いて投究の方向を審美的發達及び藝術家特に建築家の生活に及ぼやであらう。（未完）



中都市の計畫

——堺都市計畫の發足に際して——

田中清志

一 社會政策的都市計畫

曾ては大大阪計畫に抱擁されて、其健全なる發達を促進せうとした夢を破られ、曩には新進三十五都市に追隨して驥えんと努力した泉北の古邑堺市は、今更ら其都市計畫熱を放擲するには餘りに雜糅紛糾たる現狀と、而して切なる自體の要求に、今や單獨で此標的に只管其總ゆる勢力を傾注しつゝある、如何に其雄々しくも、力强い眞劍さであらふ、然し稚なく覺束ないものゝ步調に吾々は、充分な補佐と至純な愛を惠投して、過ちなき過程を看てやらねばならぬ。

彼の殆ど美觀と威嚴のみの爲めに、二十五億てふ巨費を投盡して得た巴里の外面に心粹して、之を模倣すべく發足した我帝都の建設、東京市區改正は無慘にも悲痛な、我都市計畫の大失敗の歷史であり、明日を考究せで目前の利欲を追及し、姑息的な其日を過して今日に逢着し、漸やく醒めた大阪は、徒らなる都市放任の結果としては好箇の例である、先づこれらの誤てる前轍を踐まぬやうに希望して置きたい。

現時の都市存在の價値は、推勢の中心地としてでなく、政治軍事の要所としてゝなく、又遊覽觀光景勝の地としてでなく、一に擧げて商工業の機

能如何に左右さるゝのである。隨つて都市の威風壯麗を理想とした、所謂ノーブルの都市計畫は、一の歷史としてこそ見らるれ、今之を主たる目的としてはならぬ。然し唯に商工業の振興をのみ誘致せんとして他を顧ぬ都市計畫も亦、餘りにブルジョア的で、今日容れられるやう可くもない。世は民衆の時代である。商工業の隆盛を助長することは固より肝要であるが、同時に一般民衆の衛生保安に關する施設をも、併せ企畫する所の社會政策的都市計畫こそ、現代の輿望であるを知らねばならぬ。乃ち凡ては利便と快適を要求するもので、それは又從として、都市の美と威をも當然表現することゝなる。されば徒らに美を追ふ夢想論や、極端に利を求むる實利主義に傾聽してはならぬ。さりとて雲を摑む如き理想に馳驅する勇氣はいらない。要は正しい民意に立脚すればよいのである

二　大大阪の衛星的都市

都市の膨脹發展は、無限であるべき筈がない。又ふ自然に膨大して人口數十萬てふ都市が、數多く存在する必要もない、今內外に人口百萬に超える都市が、十指に餘るとは言へ、之を仔細に考察すれば、勿論健全なる道程を經たものでなく、現在亦救濟の術も難い、茲に都市計畫の關門は、凡ゆるものゝ都市集中を、如何にして健全に保持するべきか、然らざれば、如何にして都市集中を抑制し、其分散を企圖するべきかの二途にある。而して今日世の大勢は、分散主義を謳歌して止まないが、それは大都市に對するもので、中小の都市がよく孤立して、分散主義を採り尙且存立し得るや疑ひなきを得ぬ、寧ろ堺市は、其存來の昔を捨てゝ、今日現存の地位に鑑み、大大阪の衛生的都市として、計畫することこそ、最も妥當にして、又然かあるべき運命にあるものと見得られる。さすれば先づ幹線交通路を以て、完全に大大阪のシビックセンターに連結し、衛生都市としての理想を達成し、次で內部街路の新設擴築を斷行せねばなるまい、都市の街路は都市其ものゝ運命を掌握するもので、狹隘なる街路と其僅少なる面積は、土

地の利用を抑制し、交通を阻害し、延いては商工業の繁榮を阻止し、果ては都市の存立を脅威するものである。堺市が、古來顯著な歷史を有し、且尙水陸の利便を理想的に擁しながら、今日商業的に目覺しい活躍を、見せぬ原因の一に之れあることを知らねばならぬ、然し現代の民衆的都市計畫は、改良よりも計畫に重きを望んで居ることも閑却されない。

都市の職能は、密集生活によく耐え得べき點にあつて、村落との差違も亦そこにある。都市の過群は避くべき要あれども、適度の密集に對しては、其弊害を除去する方策を講じねばならぬ。其且ばしいものは大氣の汚辱からの逃避と保安の爲めの建築物の用途による地域の制定と、空氣のレフレッジユメントと市民の體育に備える、公園及其系統の確定である。これらは又、能率增進のよすがともなる、大大阪の一工業地域としての堺市の現狀は、如何に此點に無關心であることか、軈ては それが堺市滅亡の手引ともなることに意を注ぐ要がありはすまいか。

都市の領域は、徒らに廣大なるのみを以て足れりとしてはならぬ。そこに膨脹を健全に導く、錯誤なき計畫の在りてこを發展と稱される、日日に外延する郊外の計畫は、急務中の急を要するものである、

如何に上水道の完備するとも、下水道の施設なき時、尙市民は不健康なる都市生活の脅威より免れ得られぬ。一般の衞生を顧慮せぬならば、現代の都市計畫は意味を爲さぬ。

天然の良港を控へるとも、そこに何等の設備を待たねば、其利用を知らぬと幾干も隔りない。

おゝ爾、稚なき堺市よ、御身は足弱うして餘りに爲さねばならぬことのいとも多きぞ、されど落膽するでない。日輪は限りなき恵みを明日も汝の頭に垂れるであらふ。今日の如く、明くる日も亦其明くる日も。（一九二三・二・一七）

進め過群より花園へ (二)

大屋靈城

(二) 花園生活

歐米に於ける住宅の革命

昔ローマの都が一時に繁榮を極めた結果世界起つて以來初めてこの住宅難に襲はれた。

人間が穴居の時代から遊牧の時代をたどつて愈々一定の場所に定住するように成つた頃の住宅の形式は今日日本の山間に見るような一個建ちの小さな小舍であつたに違ゐない。それが二十とか三十とか集つて一つの村や町を形ち作つたのであるところがローマの町の繁盛はこの一個建ての住宅では間に逢はぬ位に急激であつた。そこで誰が考へついたのか澤山の家を一纏めにして高く空中に突出して見ようと云ふ新らしき試みが起つた譯である。

則ち今日東京や大阪で見る所謂ビルヂング風の五階八階の建物がこのローマの眞中に出來た。記錄によると八階までは確かにあつたらしい。ローマ人は少數の貴族や金滿家だけが別莊のような城壁をかまへた住宅に住んで居たが多くの市民は大抵このビルヂング風の建物の中に間借りをして居た。而も其の間代の如きも相當に高くて當時の市民がこれが爲に困つたと云ふ。これから見ると生活難中の第一と數へられる住宅難は既にこの頃に萌して居たのである。其後十五六世紀頃にはいくらか住宅も緩和されたがだんだんと都市に人が集注する傾向が多くなつて來ると共に再び住宅の沸底が到るところの都市を見舞つた。これは全く産業革命による商工業の迅速な發展の爲に都市が一時に膨脹した結果である殊に十九世紀後半にに於てこれが甚だしく歐洲大陸の各國は成るべく少い面積に多くの人を收容することをのみ考へた、從て

都市に於ける住宅は悉く平家を排して二階屋になり三階四階とだんだんと空中に向つて發展することゝなつた。今日巴里や伯林の市内住宅が多く四階以上の建物で埋められて居るのもこの頃からの事である。市民はこの四階造りの建物を自分で持つものとては少く大抵は借りて住んで居る。それも全部を一人で貸るのではなくて二室とか三室とか多くて同一の階に上にある全室位のものである。例へばAの家はこのビルヂングの三階全部であるとか或は三階の一部分であるとか云ふ場合が普通で御隣りとか御向ひとか日本で云へば道を標準として云ふ言葉がこの地では廊下を標準として呼ばれて居る。良く日本の旅行者が失敗する事であるが友人の住居を訪問する際に何町何番地のみを知つて階數を知らなかつた爲に折角の友人の家が見付からなかつたり、ビルヂングの入口にうろ〳〵して標札が見當らぬからどつかへ引越したのだと早合點して無駄足をふんだりする事を聞くが全く其の人の住んで居る部屋の戸口に立たなければ其の人の家は分からぬのだから馴れない日本人の我々には頗る迷惑な話しである。こゝでは廊下や階段が日本の屋敷内の露次位に相當する。自分の家の戸の鍵だけを持つて居るから大丈夫だとて一夜あんかんと遅くまで外出して居るとどんでもないことになる。自分の家に這入るのには先づ自分の家敷に這入る入口の鍵が必要で而もこの家敷が澤山他人と共同の家敷だから困る。大抵どこのうちでも夜七時頃に一番下の入口の戸を鎖すからこの戸の鍵を持たなければ自分の家へ行く事が出來ぬ（尤も門番の置いてある家はベルを押せばホーターが開けてくれるが）。從て人を訪問しても夜であれば電話でもかけて置かなければ戸口迄いつて戸が開かぬために引き返す事が屢々ある。

斯の如き不便な生活に人が甘んじて這つて居らう筈がない。皆が仕方なしで我慢をして居たのである。

ビルヂング式住宅の不便不愉快はこればかりではない買物をするにも自然に親しむにも氣樂にくらすにも何かと不便である。殊に生活上の愉快と云ふ如き文化的享樂は到底この形式の家では望まれ

ない。しいて其の特徴をあぐれば先づ經濟であると云ふ事位であらう。生活上經濟を本位とする事は下層民には特に第一の要旨である如く考へて居る人があるが如何に經濟であればとて衛生上良くない淡暗い部屋に而も人間の母である自然と離れてどうして生活することが出來よう。賃貸長屋に棲むと云ふ事は人間を生き乍らにして牢獄につなぐと等しい事である。あまりに人間の生活から遠ざかつて居る。人は其の本能性として自然に親しむ天禀の性を有つて居る人が若し自然を離れた生活をすればするだけ人は自然を極端に慕ふように成る。

其の證據にはアメリカのニユヨークの中心であるマンハッタンと云ふ如き、あの人込みの喧騒な町の中に住む人程山に這入つて猿の樣な生活をして見たくなるらしい、原始時代の野蠻人の眞似がしたくなるらしい。

話しが長くなるが私がアメリカのエロストンパークと云ふ山の中の公園（二十五里四方もある大公園であるが）に遊んだ時たま〳〵宿を出て小流に沿ふて山林の間を散歩して居ると遠くに天幕を張つた小さな小舍が見える、あたりに家一つないところであるから不思議に思ひ乍ら近よつて見ると五十前後のお婆さんが五六人日なたぼつこをして居る中には七十位の老ぼれも見える。私の姿を見て盛んに喜んで手まねきを初めた。オヅ〳〵近よると一つ寫眞をとつてくれとせがむのであつたそこでこれは面白いとカラカイ半分色々と話を聞いて見ると、この人々は何れもニユヨオクの百萬長者で金にあかした生活がいやに成り最も獸類に近い野蠻な生活をして見たいと云ふ氣を起して三週間餘り前にこの山に這入つたことが分かつた。

テントの中を窺くと地面をよく掃除して澤山のベットがのべられてある。このベットは落ち松葉を拾ひ集めて四五寸位の厚さに積んで其の上に毛布が一枚しかれ、その上に今一枚のカケ蒲團代用の毛布がノツカツて居る。臺所はバケツが二三と流しもと代用のたらひのようなものと食器が散ばつて居るきりで電燈やガスの如きは勿論ない蠟燭が唯一の照明で松葉が唯一の燃料である。魚や小

鳥をとつて來ては燒いて喰ひ果物が欲しく成ると附近で野生のリンゴやイチゴのようなものを探し出して食つてるそうだ。風呂等は勿論ないから顔も手足も垢だらけでまるで似人猿ではないかと疑はるゝ位汚れて居る。

我日本の今日の都市生活はまだ〳〵自然に親しみ得る機會が餘程多い從てこんなエキセントリックな氣に成つて山に入ると云ふ如き氣狂ひじみた趣味に走ると云ふ如き人はあまりにないが、それとても最近テント村とかテント生活とかが或方面に生れて來だしたことは確かにこの半面を物語るものと考へねばならぬ。人が不自然なる生活をすればする程都市が過群の生活を餘義なくさるればそれだけ人間の自然を戀ひ慕ふ力は強くなる。この慾望を十分に人が滿足し得ない生活を繼續すると人は遂に常軌を逸する所謂非常識の人間となつて正鵠な判斷を欠くことに成るのだ。このニユヨーク市の富豪が如斯き粗野な生活に無上の樂しみを覺えるのは全く耐え難い彼等の都市住宅の缺陷から產み出された極端な例であるが一般に歐洲の都會生活者が夏期の三ヶ月乃至四五ヶ月を都市をはなれ自分の業務を休んで海濱又は山野に避暑的生活を試みるものも全彼等の生活樣式が耐えられない不自然なものであるに起因する。

彼等歐米人が此の事から醒めたのは漸く近世のことである。

アパートメント式のこの住宅の樣式が人間の住宅としてあまりに人間味をはなれて居ると云ふ事から茲に住宅樣式に一大革命が起つた。

彼等は叫んだ四階建から平家へ！

五階建から平家へ！

建物本位の住宅から庭本位の住宅へ！

不自然な市內より自然な郊外へ！

賃貸長屋より自分の家へ！

過群の生活より花園の生活へ！

心あるものは市內のビルヂングを弊履の如く捨て郊外の平家へ移動した。

英國に起つた住宅の革命は屋階より平家への變化を屋埃から綠草の惠みへの移動を携す事を叫んだ彼エベネツザーハウワード氏は都市に於ける極

端なる人口集注と田園に於ける勞働者の逃亡することを防ぐ爲に工場を田舍に分散して都市の田園化、田園の都市化を計畫した。彼の著したツモロー(Tomorrow)なる小冊子が當時の幾百萬の市民の眠りを醒したことであらう。

時は恰も一八九八年英國が住宅問題に惱まされ始めて以來數十年の後であつたが未だ嘗て斯くの如き生活樣式の變動を來したことはなかつた。

彼の主張は工場を田舍に分散して農村の疲弊を防止すると共に都市集注熱によつて起る不自然なる過群生活から市民を救ふて健全なる身體と精神とを彼等に賦與せんとするものであつた。

以來三十年の星霜を經過した今日彼れの主旨に基いて出來た田園都市其ものは極めて僅かに過ぎないが彼の思想は確かに歐米の住宅に一大革命をもたらした。

世界の各地に見られるガーデン、シチー、ガーデンサバーブ、ガーデンビレーヂ等を初め庭を本位とした住宅の增加した事は誠に驚くべき程で今や世界の住宅は悉くフラット(平家)化して來つゝあると云つてもよい位である。

田園都市に就ては次章に少しく其の詳細を述べるが、その當時より各地に起つた此の種の主なる住宅を擧ぐるならば大凡次の如くである。

一、ファマクルップ氏 Firma Krupp. が彼の使用して居る職工に自然趣味の生活を味はせたいと云ふ慈悲心から獨乙のエセン市の郊外に家庭本位の小住宅を建てることを企てた、家のたつたのはたしか一八七二年であつたが企ては既に一八五六の頃よりあつた。

二、アレキサンダ、チ、ステワード(Alexander T. Steward)氏が同じような考へからアメリカ合衆國のロングアイルランドに約八、〇〇〇エーカの土地を五十五弗(一エーカにつき)で買つて田園村を企てた、これは一八六九年のことである

三、一八八八年に英國のリバープール郊外なるポートサンライト(Port Sunlisht) にウイリアムレバーハム(W. Leverhulme)が自分の石鹸工場に使役する職工を愉快に住まはせる爲に田園村を企てた。

四、レッチヲース（Letchworth）にエ、ハウワード氏が自分で會員を募つて組合組織のガーデンシチーを創立した。これは一九〇三年に出來たが四五〇〇エーカの大面積を卜し眞に彼の主張する田園都市の實現であつた。レッチオースはロンドンの北三十四哩のところにある。

五、ロンドンの郊外にハムステッドヒースと云ふ公園があるこの附近一帶を組合組織で住宅地に開拓した。その樣式はハウワード氏のガーデンシチーの例に倣つたがこれは全々住宅のみの開發に企てられた。

これ以來此の種の田園都市を特にガデーンサバーブ（Garden Suburb）と稱して庭や空地を十分にとつた改良住宅群として頗る世人の注意を惹いた今日日本の大都市郊外に出來る赤屋根の文化村が其の附近の百姓たちを驚かしつゝある以上にこの附近の都會人を驚かし且羨望さした事であらう。

六、ロンドンから二十一哩北方にあるウエルウイン（Welwyn）にエベネツザハウワード氏は彼の門弟であり補佐役であるレイモンド・アンウイン氏等と第二の田園都市を企てた。これはレッチヲースに比すれば小規模であるが大分と引きしまつて居る。レッチヲースで試みた最初の經驗によつてウエルウインは健全なる發達をするに違ゐない。これは一九一九年の創立で僅かに今年まで四ケ年の齡を保つのみである。（續く）

頭上漫々
脚下漫々
花の山



講演

家庭に於ける電熱の利用に就いて

工學士　佐立健雄

（一）電氣の用ひらるゝ所以

家庭に於ける電氣の利用、その内でも主に電熱器の事につきお話することに致します。これを詳しく言ひますと仲々長くなりまして專門的のことに亘りますから極大體の事を申上げます。近頃電氣が各方面に用ゐらるゝことが流行して參りましたが、これは何故かと申しますと、電氣を用ゐますと動力、熱、光を自由に得られまして、又それを各方面に傳達することが非常に輕便であるからであります。又石炭の節約と云ふことから考へて見ましても、個々の工場で一々汽罐を用ゐ、石炭を燃燒し、そしてそれより得る蒸氣に依り力を得ることは石炭の經濟上あまり有利ではないからであります。今市内にて例へば、何個所かに大きな發電所を設け、此處で大きな裝置に依り、設備も完備したる汽罐及機械を用ゐて發電をしまして、之れを各工場の電力に依つて分配しますと、前のも

のに比して石炭が非常に經濟となるのであります例へば小工場等に於て、不完全な裝置で蒸氣を起し、之れに依つて力を得る時には、その力は石炭の六七斤に對して漸やく一キロワット時位を得るに反し、大發電所に於ては一斤半或は二斤に對して一キロワット時のエネルギーを得られます、それ故に大發電所に於て電力を起し、この電力を用ゐて各種工業を働かせると、石炭が非常に經濟となるのであります。又將來を考へますと石炭の生命と云ふものは限りあるもので、日本に於ては三四十年の後には良質石炭が盡きるとか或は世界の石炭はこゝ何百年の後には盡きるとか種々實際上から研究せられて居るのであります。それ故に、石炭の節約と云ふことは非常な大切なことであり遠き將來には最早工業動力としては石炭に依ることは出來なくなると云ふことは明らかであります然らば動力のもとは何にとるかと申しますと、先第一に水力があります之は用ゐても用ゐても盡きない天然の恩惠で、最も動力の源として用いてよいものであります、その外太陽熱とか風力とか又は潮の力などをエネルギーの源泉として用ゐることは出來ますが、未だ經濟的には用ゐることを得ると云ふ迄には到らないのであります、そして水力を利用してそのエネルギーを各種工業に動力用として用ゐますには、その傳達の媒介として電氣を用ゐるのが最便利で、之れなくしては殆んど實際には役にたゝないと云つてもよいのであります即萬事が凡て電氣を根本として文化の階梯に進まむとする傾があります。例へば、鐵道の方に於ても、近頃漸やく蒸氣機關車より電氣機關車の方が強力で有利なることが認められて來たのはこの一例であります。

扨て、現在に於て發電して居る方法は、大別して水力と火力とに依つて居るのであります。水力の長所は、水は到る所にあり無代償であります、然しながら無代償であるとは云へ、電力が只で出來ると思ふのは間違でありまして、その工事に對して要する資本が仲々大きなものであります。即水路に一番澤山の資本を要するのでありますが、その外、發電所は多くは都會より遠く離れた所にあ

ますから送電線に尠なからざる資本を要するのであります。

火力は之に反し、唯發電所の建物及機械而已あれば出來るのであります。即ち投下資本は水力發電に比して非常に僅少であります。その代りに石炭代が仲々經費として澤山要するのであります。即水力發電は投下資本の利息として支出する所が多く、火力發電は石炭代として支出する所が多いのであります。ですから火力發電は石炭の價格の高低によつて非常に營業狀態が變るのでありまして例へば石炭代が一萬斤七八十圓ならば水力發電と同樣の成績を擧げ得るとしても、石炭が百圓以上百五六十圓にも高くなると殆んど持ちこたえられていけないと云ふ場合がないとも限りません。即火力發電は定常的な營業狀態を望む時には水力發電程確かではないのであります。故に石炭が將來缺乏して値段が益々高くなるとすれば現在に於ては先水力發電を元として火力發電は此の補助とするが最も堅實な方法かと思ひます。

(二)電氣と熱

次に電氣と熱とは如何なる關係にあるかと云ふことを大體申上げます、電氣の通路である導線その他の物體には多少の別はありますが皆電氣に對する抵抗と云ふものがあります、そしてこの抵抗に會ひますと電氣のエネルギーは一部分熱に變化するものであります。電熱器はこの理を應用したものに過ぎないのであります。又電氣を取扱ふ時によく注意しなければならぬことは、その電氣の導線の絕緣とその導線が電流に對して充分なる容量を有するか否かと云ふことであります。電流の單位は『アンペヤ』と云ひますがこの『アンペヤ』と謂ふことに就き充分の注意を必要とするのであります。例へば他の例に就て申しますと、今或る一つの荷物を持ち揚げるに、或る一つの網を用ゐる場合を考へ、此の荷物が一貫とか二貫とかいふものであれば細い網でよいのでありますが、此の荷物が五噸も十噸もになりますと細引では駄目で大きな網を用ゐるか鐵のロープを用ゐなければな

らぬのであります、電流に於ても同樣で、一『アンペヤ』位の電流を通すものならば細い導線でよいのでありますが是れが五十『アンペヤ』百『アンペヤ』となれば細い導線ではその導線が熱し絶緣が燒け甚しい場合には導線その物が燒けて非常な危險となるのであります。所謂洩電に依つて火災を起す場合は多くは之れによるのであります。それ故に電流と言ふ事は比較的電壓程人々に注意されて居ない樣でありますが電氣に對しては仲々重要なる考ふべき事柄であります。

御承知の通り電壓はその單位は『ヴオルト』、抵抗の單位は『オーム』でありまして、力の單位は『ワット』と申します、そして之等の『ヴオルト』『オーム』『アンペヤ』『ワット』の間に如何な關係があるかと申しますと皆樣の御承知の通りオームの法則があります。即電流は電壓に正比例しまして抵抗に反比例します、そしてワットは電熱器の如き場合には電流と電壓と剩じたもので表はすことが出來ます、今電流をI電壓をE抵抗をR電力をWで表しますと次の式で其間の關係を表すことが出來ます。

$$I=\frac{E}{R} \qquad W=EI=I^2R=\frac{E^2}{R}$$

故に百『ヴオルト』に用ゐる一『キロワット』即千『ワット』の電熱器があるとしますと、是れに要する電流は十『アンペヤ』で、そして此の抵抗は十『オーム』でなければなりません。即此の電熱器を用ゐる時には十『アンペヤ』の導線即コードを用ゐなくてはならぬのであります。この時一『アンペヤ』の容量しかないコードを用ゐれば危險が起るのであります。此の電熱器を百十『ヴオルト』に用ゐますと此時は電流十一『アンペヤ』となるので『ワット』は11×110即1210『ワット』即1.21『キロワット』となるのであります、即『ヴオルト』が一割增せば『ワット』は約二割も增すのであります。この事は餘程注意しなければならぬことであります即二割の熱量が增す譯であります。

大阪近傍に於て百『ヴオルト』を用ふる所と百十『ヴオルト』を用ふる所とありますから注意を要する次第であります。

次に電熱器に就て一言申しますと、之は前にも申

しました通り抵抗に依り電氣の『エネルギー』を熱に變へるものでありますから此の發熱體は普通の導線に比し抵抗が強く、又高温に耐へるものを用ゐます。この抵抗線は種々ありますが先づその一例を擧げますと、銅と『ニッケル』の合金或は『ニッケル』と鋼の合金等もあります。然し最も普通に用ゐらるゝものは『ニッケル』と『クローム』との合金即ニクローム線でありますこれは空氣中に於て高温に耐へ電熱器の發熱體として用ゐるには最良いもので、現今の電熱器は大抵このニクローム線を用ゐて居ります。此の抵抗は銅の約六十倍程あるものであります。今電熱器に依つて電氣の『エネルギー』より熱の「エネルギー」に變へる時に用ゐたる電氣の量に對し發生する熱の量を見ますと一『ワット』時即一『ワット』一時間の電力量に對して3.412 B.T.U. 或は八六〇『カロリー』の熱量となります。B.T.U.とはBritish Thermal Unit の略でこれは一『ポンド』の水の温度を華氏一度丈け上昇するに要する熱量で、『カロリー』は一グラムの水の温度を攝氏一度だけ揚げるに要する熱量であります。

(三)家庭電熱器の利便

次に電熱器を暖房用として、或は湯沸しとして用ゐることに就て申上ます。之れを用ゐる時の利點は次の様であります。

(1)費される電氣の『エネルギー』は全く熱に變り從つて瓦斯の場合の如く燃燒の不完全に依つて一部分しか用ゐられないと云ふ様な事がないのであります。今湯など沸かす時に例へば投込湯沸しを用ゐる時は電氣の『エネルギー』は全部水を熱する『エネルギー』に代り即能率は百%と言つてもよいのであります。

(2)電熱器を用ゐれば灰もなければ煙もなく又有害なる一酸化炭素或は炭酸瓦斯の發生もなく清潔に衛生的に用ゐる事が出來、病人或は健康に注意する人には、之れは實に無限の價値となるのであります。

(3)石炭、炭、瓦斯の如く焰がないから燃え移る危險なく瓦斯の如く爆發の恐れがありません。

(4)熱の調節が甚だ正確で且自由自在で『プラグ』の差し方で所要の強弱の熱を出すことを得るのであります。

(5)スキッチ一つひねつて電熱器が働くので、燐寸もいらず、炭をおこす必要もなく、甚便利であります。

(6)燃料の運搬、貯藏が不要で便利で輕便であります。

(7)電熱器を働かすことは如何に遠い處からでもスキッチ一つで働かされ時計仕掛或は溫度に依つて働かすことも出來ます。例へば或溫度で電氣が切れる樣にしておきますと、その溫度に達すると切れ、その溫度より下ると又電氣が來る樣に出來常に一定の溫度に保つことを得、又時計仕掛で何時に電熱器が働き何時に到れば止ると云ふ風にすることも出來ます。

之等により時間勞力の節約は非常なもので、それ故に電熱器裝置を用ゐる、或は家庭電氣を用ゐますと、今迄召使二三人を用ゐて居た場合にも一人か二人となすことが出來、近頃の如く各種勞働賃銀の漸次上らんとして居る傾向のある場合には、電熱器或は家庭電氣の需要は段々增加すると言つてもよいのであります。

(四)電氣暖房裝置

次に電氣暖房裝置に就て大體を述べます。暖房用電熱器はその發熱體は電球の如く硝子の中に抵抗を入れて眞空にしたものもありますが大抵は前述の樣にニクローム線を用ひ之を電氣的絶緣力を有し且つ高溫に於て空氣の作用を受けないものゝ上に捲き、或は挾んだものであります。

暖房裝置の電熱器は其の作用により種々區分する事が出來ます。

先づ射式暖房裝置と云ふものがあります。是れは發熱體の後に反射するものをつけて、熱の輻射を充分利用したものであります。普通には發熱體の後に金屬の拋物線形の鏡の樣な磨いた面をつけたものが最よく用ゐられます、之れは空氣を暖めるよりは輻射の熱を主として用ゐるものでありますから、日本の建築の如く戸障子或は欄間等により

空氣を温めるも逃れ去る事多き場合には至極適當と信じます。

次に對流式暖房と稱すべきものがあります。是れは空氣を熱することを目的としたもので、空氣が熱せられると、熱せられた空氣は上昇し冷い空氣が之れに代つて發熱體に近づき對流に依り循環して空氣が漸次熱せられ室内が暖められるのであります。之れは空氣を熱するを目的として輻射には力を入れてないものでありますから發熱體は輻射式暖房の場合の如く高熱ならずともよく、唯早く空氣を熱すれば宜しいのであります。卽輻射式暖房は手足等部分的に充分暖をとるに適し、對流式暖房は室内の氣温を高めるに適したものであります。故に後者に於ては發熱體は一部分に集中するよりも、寧ろ廣き部分に分布され、各部分の温度は前者の如く高温を要せず、全體として消費電力が相當に多ければ目的を達するのであります、故に手足を出し暖かさの感じを見て此の電熱器は暖くないと云ふ事がよくありますが、之れは必ずしもこれに要する『ワット』が少いとは限らず、唯發熱體の温度が高く上つて居らない事に依る場合が多くあります。

次に間接式暖房と稱せらるゝものがありますが之れは大建築物等に於て蒸汽暖房を用ゐる場合に熱源として普通の如く石炭を用ゐる代りに電氣を用ゐる代りに電氣を用ゐるのであります。是は何處に用ゐるも有利なりとは言はれません、が使用場所によつては有利なる場合があります。

次に暖房の容量の定め方に就て概略を申上げますと此の方法には種々ありますが、最も簡單なるものは、一立方尺當り『ワット』で定める方法であります。之れは部屋の狀態に對し一立方尺當り『ワット』が種々實驗の結果定められ、此の『ワット』數に部屋の容積を立方尺で表したるものをかけて所要暖房の『ワット』數卽、電熱の容量を定めるのであつて氣温は華氏七度位にするのが普通であります。

(A)一立方尺當り『ワット』の方法

(イ)一立方尺當り三・五乃至四『ワット』

之れ丈けの『ワット』を用ふる場合は、

1 室内が構造不完全で、隙が澤山ある場合
2 二方或は三方が障子で且強い風が是れに當る場合、
3 天井が極めて高い會堂等の場合、
4 特に高温度を要する場合、

（ロ）一立方尺當り二・五乃至三『ワット』

一般の事務室、居間、應接室、病室等には之れ位を用ゐます。

（ハ）一立方尺當り一・六乃至二・五『ワット』

三疊敷以下位の小さい部屋或は他に部屋を暖めるものゝある場合には此の位で宜しいのであります。

今天井の高さを八尺五寸と假定して疊敷に對して求むると次の表の様になります。

室の大きさ ＼ 二立方尺當ワット	キロワット					
一・〇	〇・五	三	四・五	六	八	一〇	一三
一・五	〇・五	四・五	六	八	一〇	一三・五	一七・〇
二・〇	一・〇	六	八	一〇	一三・五	一七・〇	二〇・五
二・五	一・〇	七・五	一〇	一二・五	一六・五	二〇・五	二五・〇
三・〇	一・五	九	一二・〇	一五・〇	一九・五	二四・〇	三〇・〇
三・五	一・五	一〇・五	一四・〇	一七・五	二二・五	二七・五	三四・五
四・〇	二・〇	一二・〇	一六・〇	二〇・〇	二五・五	三一・〇	三八・〇
四・五	二・〇	一三・五	一八・〇	二二・五	二八・五	三四・五	四二・〇
五・〇	二・五	一五・〇	二〇・〇	二五・〇	三一・五	三八・〇	四六・五
五・五	二・五	一六・五	二二・〇	二七・五	三四・五	四一・五	五〇・五
六・〇	三・〇	一八・〇	二四・〇	三〇・〇	三七・五	四五・〇	五五・五
六・五	三・〇	一九・五	二六・〇	三二・五	四〇・五	四八・五	五九・五
七・五	三・五	二二・五	三〇・〇	三七・五	四六・五	五五・五	六七・五

（B）實驗公式に依りて計算する方法

此の公式には種々ありますが今茲にカーペンター氏を掲げます。

$$\left\{\frac{NC}{180}+K\left(\frac{W}{8}+\frac{G}{3}\right)\right\}(T_1-T_2)=\text{容量『ワット』}$$

Nは一時間に空氣を入れ換ふる度數即一乃至五

Cは室内の容積（立方尺）

Kは室の位置或は加熱の狀態による係數即一乃至二

Wは外氣に面する壁の面積（平方尺）

Gは外氣に面する硝子の面積（平方尺）

T_1は室内所要の温度（華氏）

T_2は外氣の温度（華氏）

（五）電氣湯沸器具

湯沸器具には色々種類がありますが大體區別する

と瞬間湯沸、循環湯沸、打込湯沸などがあります瞬間湯沸は水道の口等に取付けて流れ出る水が之れを通りて湯となつて出て來る樣な裝置でありまず。之れは容量は六百『ワット』位から十『キロワット』位のものがあります。

循環湯沸は器の底或は側面に電熱裝置がありまして、水の循環により其の器全體の水を湯とするものであります。

投込湯沸と言ふのは圓盤狀、棒狀、或は螺線狀をした外部に對しては絶緣せられた電熱裝置で之れを、夫々大さに從ひ、コップ、湯沸管、金だらひバケツ、風呂桶等に投入して其の水を熱するものであります。之れは最も能率のよい湯沸で熱の全部が水を熱するに用ゐられてられるものであります。

次に水を熱するに必要なる熱量及び電力量に就て申します。前に述べました樣に一『ワット』時は三・四一二BTU即一『キロワット』時は三四一二BTUでありますから、一『キロワット』時を用ゐれば三四一二『ボンド』即八石五斗八升九合の水を華氏の一度丈け温度をあげることが出來、分量が十分の一になれば温度は十倍の度數丈け上げるのであります。

次の表は水量を一石として最初及最終温度に對して要する『キロワット』時を求めたものであります最終温度華氏百十度は入浴に適當なる温度で、二百十二度は水の沸騰點であります。

一例を取つて申しますと最初の温度が華氏五十度なるときは一石の水を華氏百十度に温めるには七『キロワット』時、即七『キロソット』の電力を用ゐるときは一時間を要し、十四『キロワット』の電力を用ゐるときは三十分で好いのであります。是れが二石となると十四『キロワット』を用ゐても一時間を要するのであります。其の他の水の分量及び電力に對しても同樣に計算して所要の時間を求め得るのであります。以上は理論的の數字でありますが實際は之れより幾分多くの電力量を要するので此割合は水の容器の形狀等により多少異なるものであります。

所要電力量	水一石を温むるに要する電力量「キロワット時」					
最初温度（摂氏）／最終温度	三〇	四〇	五〇	六〇	七〇	八〇	九〇
一一〇	九・二	八・一	五	七・〇	五・八	四・六	三・五	二・三
二一〇	二一・〇	二〇・〇	一八・九	一七・七	一六・五	一五・四	一四・二

（六）建築と電氣

現今は電灯は如何なる山間僻地にも普及して居りますが他方面の電氣利用も漸次增加して居るのであります電熱器其他家庭に用ゐる電氣器具は非常に種類が澤山ありまして、七輪、飯焚釜、茶瓶、卵ゆで、パン焼、蒸燒窯、庖厨器、扇風機、電動喞筒、電氣洗濯器、眞空掃除器、アイロン、電氣蒲團、シガーライター、暖風器、ヴアイブレーター、オゾーン發生器、紫外光線療器等數へれば限りがない位にあります。

此の様に家庭に於ける電氣の用途は極めて廣く清潔に迅速に規則正しく家庭の種々の仕事をする爲に將來は益々用ゐられる様な傾向になつて居りますが、此の様な有様でありますから今後の住宅或はビルデキングの建築の際には電氣と言ふものは離すべからざるもので從つて建築に從事する方々は電氣に對して最も密接なる關係があると思ひます建築に際して電氣に對する注意は、電線の通路及び配電盤等の位置を始めから設計の際に定めて置くべきことで、始めより定めず後になつて定めることは非常に不便なことであり、且つ又危險なる所に置かねばならぬ場合になることがあります、之れはやはり便所或は浴場の如く重要なるものとして始めから設計者の考の中に入れるべきものであらうと思ひます。

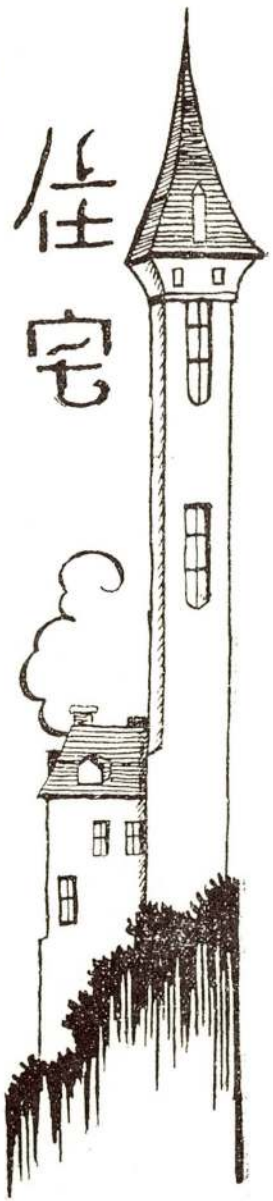
屋内の電氣工事は遞信省の電氣工作物規定に依つて一定の規定がありますが之れは建築に從事して居る人々に於かれても充分に注意せられ寧ろ建築の方の仕樣書の一部分とせらるべきものであると思ひます、而して是れはその結果に於ては電氣從事者よりも寧ろ建築に從事する人々に密接な關係があつて住宅の氣持のよい惡いは之等の設計の巧拙に依ること多大であります。

一體電氣と言ひますと大部分の人々は何だか譯のわからない危險な物の樣に思つて居らるゝ樣ですが之れは大なる誤りでありまして、電氣は最も明瞭なる嚴密なる法則に從つて働くもので、其の性質を飲み込むときは最も利用し易く便利なものであります。

而して各種の工業技術には最も忠實なる召使の役をなし用ゐれば用ふる程益々用ゐ易くなるもので將來に各方面に益々盛んに利用せらるゝ樣になることは明らかであります。其れ故に建築に從事する皆樣方も電氣に對しては充分親しみを持つて電氣の利用は皆樣方の本來の技術の一部分であると思はれて最も忠實なる召使に對する如き御心を以て取扱はれ御利用せられん事を御望みしたいのであります。（完）

蓬摘む土堤に

泥船着にけり



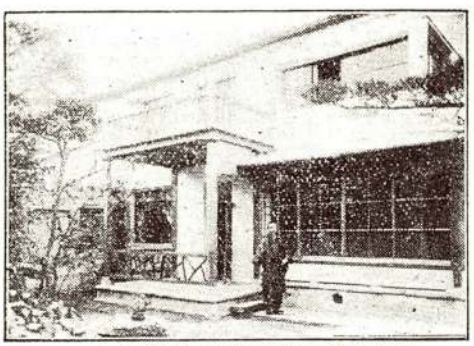
理想に目覺めて さゝやかなる住宅に 先づ生活改善の初一歩を着けたる 泉南の富豪種子島源兵衛氏とその住宅

江村郊邨

幾世代を飾れる祖先傳來の門地と、富、鄕黨を壓して壯重を覺ゆるの榮へは、斷ち難き傳統と。革め難き因襲の絆に確かとからまれつ、億劫百載の彼方までも、在るが儘の特權に自ら陶醉を覺へむかの如く果敢なき夢路を辿りつゝ、半睡の眼をもて、徒らに、その富と門地の衿持を見守つてゐるのは、世の所謂富豪の多くに見得べき生活である。生活の革新、生活上の創造、冷き殘骸に、虛僞と煩縛な生活を有つことは、何んぼうか懊み多きを覺ゆるとも、唯彼れを『富守り』なる味氣なき生活に緊縛せる絆の力こそ、それにゝ勝りて強いのである。まつたく、斯る榮へと待權を一擲し、

ほんとうに理想ある生活、目覺めたるそれに入るべくして、傳統と因襲の力強き絆を、ぷつりと截つことは、實際に、當さしく血の滴るような一轉期であり、確に小さき生活の一大革命である。謂はゞ、一種の特權階級に屬せるものとして、一つの『版籍奉還』であり、資本的封國の沒落である。懷ふても、却々に容易な斷行事ではなく、其處には、餘程の猛省と敢行を要する。

近來の住宅問題は、主として、住宅の缺乏なる事實が我等の生活を衝動せるより起つてあるが、他面には、無用と煩瑣と屈辱の生活に飽き果てゝ何處にか新生面を看出さんとする憧憬の發露である。前者は、主もに中流生活者以下の問題であるが、後者は凡ての生活者を通じての問題であり、「生活改善」なる標語の一象徴として近時稍々眞面目に考へられてゐる處の時潮である。而して、最も深刻に斯る省察を要する餘地の廣き意味に於て自ら範を作りつゝ、眞劍な革新味を社會に胎す意味に於ても、件の如き傳統と因襲に睡れる富豪達が先達となることは、最も望ましき事である。けれども、そこには餘程な英斷と努力を要する。記者は斯の難事中の難事に於いて、幸ひにも、會心禁じ能はざる一事實を目附けた。开は、大阪府泉南郡貝塚町に於ける一富豪種子島源兵衛氏が、理想ある生活を標榜して、傳來の五百有餘坪を擁せる宏壯な邸宅を一擲し、古き醸せる酒藏の一棟を改造して、廿四坪のさゝやかなる文化的住宅に、滿腹の讃美を捧げつゝあるの一事實である。

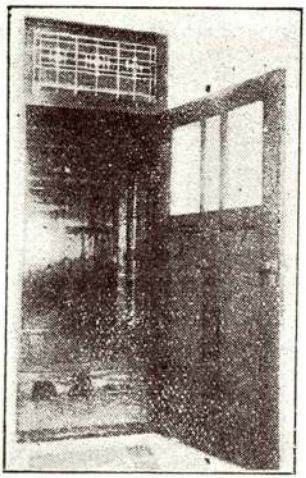


種子島源兵衛氏の酒藏を利用したる文化的住宅の外觀
一屋根の形ちと露臺の左隅に在る窓に注意—

以下記者の見聞を紹介して、氏の面目に深き共鳴を禁じ得ざりし記者の所觀を頒つことゝする。

氏は、累代酒造家で、傍ら醬油釀造を業とし泉南切つての富豪の一人である。近來、貝塚町に於

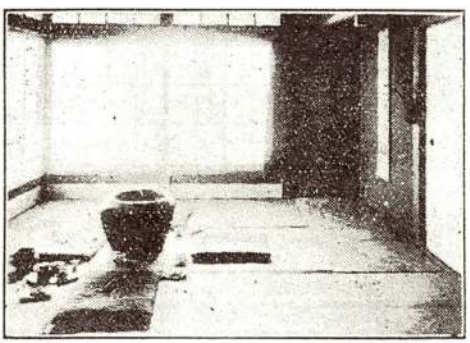
ける醤油醸造家が合同して、泉南醤油株式會社を創立せると同時に、夙くより酒造業を廢して、醤油醸造のみを營める氏は、その家業を會社に讓渡し今は同會社々長としての關係を有してゐる。氏が、今回、その傳統の堅瑣を斷ち切つて、五百有餘坪の宏壯な邸宅より、極めて簡素なる和洋折衷式の掌大な新館に、生活の理想を遣るのも、實は、在來の酒藏を巧に改造した——いや、之を利用したといふ方が適當で、それ程その構格に舊建物の風貌を遺してゐる處は面白い。氏が斯る大邸宅と、その邸宅に象徴されてゐる富豪としての幾多な特權?を弊履の如く一擲して、ほんとうに自己に生きようとする現在の境地を開拓した事は、却々並み大抵な事ではなかッたらしい。氏は、時代の趨向と共に、夙くより斯る目覺めはあつたとのことであるが、氏の告白する處によれば、斯の目覺めに一段と衝動を與へ、氏をして容易に離れ難い「舊套」の床を蹴つて、黎明の光り燦ゆき現在の生活に入らしめたのは、實に、河上肇博士の好著『貧乏物語』を讀むだことにある。記者は、試みに、その感奮された箇所を質してみたが、何んでも大正五年とかに富士登山の途次に讀むだとかで、その說く處の調子が奈何にも氏のハートを捉へた深刻さを窺はれた。序にその箇所を抜き書きしてみよう。



玄關——突き當りは階段室、右手は日本風の居間、左手は食堂——

『蓋し生活必要品に對する吾々の需要には自ら一定の制限あるものである。曾て皆川淇園は酒數献にいたれるときは味なく、肴數種におよぶときは美みなく、煙草數ふくに及ぶときは苦みを生じ、茶數椀におよぶときは香ばしからずと云つたが誠に其通りで、——奈何なる金持でも其者が自らで消費する爲に金を出して買ふ所の米とか下駄とかいふものには、大凡そ一定の限

度があるべき筈である。そこで、此等金持の人々の需要の大部分は自から奢侈品に向くことになるのである。米を買つたり下駄を買つたりしたゝけでは、まだ澤山の金が殘るからして其の有り餘る金をば盡く奢侈品に向けて來る。そこで奢侈品に對する極めて有力なる需用が起ると同時に、生活必要品に對する貧乏人の需用の如きは之が爲に全く壓倒されて仕舞ふのである。然るに今日の經濟組織の下に於いては、天下の生產者は只需要ある物のみを生產し、假ひ奈何に痛切なる要求ある物と雖も、其要求にして資力を伴はざる限り棄てゝ之を顧みざるを原則としつゝある。これ今の時代に於いて、無用有害なる奢侈贅品の推く生產されつゝあるに拘はらず多數人の生活必要品の甚しく缺乏を告げつゝある所以である。』

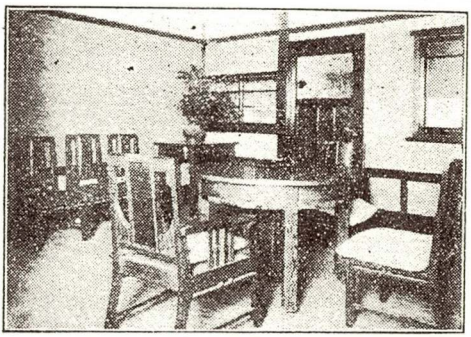


居間兼接客室
―大火鉢一つで萬事の用を達する簡便主義―

『之を要するに、今日生活の必要品が十分に生產されて來ぬのは、天下の生產力が奢侈贅澤品の產出に奪ひ去られつゝあるが爲である。多數貧民の需用に供すべき生活の必要品は、少し餘分に造ると直に相場が下つて儲けが減るから事業家は態と其生產力を抑へてゐるのである。而して余の見る所に依れば、之が今日文明諸國に於いて多數の人々の貧乏に苦しみつゝある經濟組織上の主要原因である』と。

氏は語つて曰ふ『わたしは、是れを讀むで、今更らつく々々と、わたしの生活を見廻はしました。忽ちわたしの腦裡にはアノ五百坪をも擁して、住むのではなく人に見せる大邸宅が浮びました。そうして、煩瑣な、制扼の多い、理想抔の容れられそうもない、謂はゞ「富の關守」に過ぎない生活が憶ひ出されました。その反面には、確に、河上博士の誨へたような、無意識なか

らも何かの好ましからぬ影響を與へてゐることを否認出來なかつたのです。わたしは、それまでに多少な芽生へを有つてゐた「理想ある生活」へ、何んとしても、凡ゆる障碍を排して突き進まう、と決心しました。けれども、わたしの周圍には、親戚の思惑と、頽齡を重ねてゐる父もありましたので爾來その時機を見て居りましたが老父は昨年物故して、親戚も理解を有つて呉ましたから、遂に、昨年に到つてわたしの理想を斷行致しました。餘計なようでも、事の序でゞすからお話するのですが、目下京大の經濟科に居るわたしの長子抔も、五百坪もあらうといふような大邸宅抔は、まつたく時代錯誤だ、と申しまして、わたし(長子)の代になつて斷行すれば、親戚などの異論も多い、おとうさんならば、幷うまでもなからうから、今が斷行の時機だ、と申して、家族の理解をも得ましたので決行致したような譯です』と。氏は、打ち見た處齡ひ既に知命を出で、現代の先頭に立ちつ歩むかの概をもて、斯る新鮮味ある奈何にも合理的な思想に、家族をぐん〳〵率ひて現在の生活に歩むでゐることは、何んとしても我等の心を躍らさずにはゐられない。



食堂

(特別接客用の器物棚後接客引戸と室をへだてゝ右手は炊事室へ通ずる渡し)

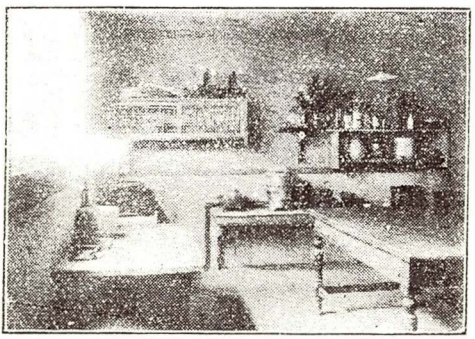
(アは食事室へ通ずる配膳口又ドは炊事室へ通ずる調理台)

氏は言葉を繼いで曰く、『生活の改善と一口に申しましても、勿論、住居の改善がその凡てゝはありませんが、わたしは、先づ住居からして理想ある生活に踏み入れました。併し、幾等住宅を改善するかとて、在來のものを態々叩き壞す必要もありません。それを咄く利用したらば可いと思ひます。斯の新居は、僅に二十四坪しかありません、屋根と窓の一つを御覽になれば直ぐ判りましようが、實は、在來の酒藏の一つと、それに續いてゐた掛け出しを利用したのです。何んの事はない箱を喰つ附けたようなものですけれども

何分酒藏の事ですから、一間置きに六寸角の柱を有つてゐる事と、基礎は、酒藏の事とて堅牢なもので、是れを利用したのですから、構造としては確りしたものです。斯の家は御覽の通りさゝやかなものですが、斯の新居へ引移つて以來數箇月になる只今までの經驗によりますと、住み心地の非常に佳い許りでなく、從來使つて居りました女中をも廢めて、今は、曾つてコックの經驗ある一人の男が凡てを遣つて呉ます。それ程私共の生活を明るく愉快に要約することが出來たといふ譯で御座います。』

『斯うして節約した費用は、何か奉仕的に遣ふのがほんとうで御座んして、幾萬の金を寄附したとても、相續爭ひしてさでも、謂はゞ懷ろ手で這入つた財産では大して意義を爲しません。』

話は斯うして竭きない。奈何にも眞實味の漂へる話し振りと、現實に幵うした理想を我等の眼の先へ具現しての話だから、能く我胸に、ひし々々と迫るものがあつた。聞く處に據れば、氏が件の新居へ引き移るに際して、祖先幾世代を重ね鄕邑に黑ろ光りのするような誇りの象徵であつた舊邸に對して告別式を取り行はれたそうだが、まつたく氏の情緒としては、離愁綿々たるもの左こそと察せられる。その儀式は、僅に榊一對を飾れる外に何物もなく、頗る精神的なものであつたとのことであるが、幵うして節し得た費用數千金とかを貝塚町へ寄附されたのであつた。



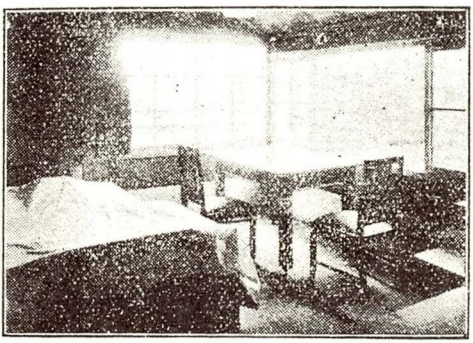
炊事室

記者は氏自身に就いての事を餘りに多く書いた、併し、是れですら、氏の斯くした心持ちを充分に現はすことが出來なかつたように憶ふてゐるが、前途に新住宅そのものに就いて書くべき多くを有つてゐる。されば、此處らで端し折つて、住宅そのものの記事を進めることとしよう。

新住宅に就いては、その前に、氏の住宅設計觀

とでもいふようなものを紹介しよう。氏の理想によれば、善き生活といふことは、幅の生活でなくして寧ろ深みの生活である。云ひ換ゆれば、内容の充てる簡便な生活である。生活の一象徴たる住宅も亦斯の理想にあらねばならぬ。斯ういふ處から、氏は『多くの間を廊下代りにするの不便を除く事、寝室の外一室主義で家族の團欒室と外に接客にも居間にも書齋にも事務室にも使ひ得る室の一つを有する事、食堂を獨立させて炊事場は下へ降りすに仕事の出來ると共に、小さき配膳棚で兩者の聯絡を取る事、寝室を獨立させて、在來のように來客抔の爲に就寝を妨げられざる事、ざッと斯うような理想の下に、件の新居が設計されたのであつた。

讀者は挿入せる新邸の外觀寫眞中、その屋根と向つて左側即ち露臺に接して、小さき特異な窓にお眼を留められたい。一見して斯の新邸が奈何にも文化的な姿態に作られてあるに反し、その構造の中格は何かの庫倉であつたとを知るであらう。それは、酒藏を利用したことを前に書いたのであるが、氏は、それを紀念するために窓の一つを舊態のまゝに遺したとのことである。『晩霞樓（バンカロー）』風に『邊欄土（ベランダ）』を附けたのと『亢亭立（コウテイジ）』式な露臺を取混せたのは面白いが、『邊欄土』を上つて、玄關の衝き方りが階段と成つて二階に聯絡し、階段室を振り分けに左手を純日本室の八帖と、それに續いて六帖の『子供室』。殊に子供室は必要に應じて疊を入れる樣に床を下げ、間仕切りの襖を取り脫さば兩室を合したる十四疊の日本室が出來る樣になつてゐる。右手は寝臺を用ひてゐる寝室が二室聯絡し、その隣りを洗面所と便所に用ひてゐる。件の兩室を振り分けの廊下を直前に突き當らば、露臺に出る闥となつてゐる。階下は玄關右手が、簡素な五疊の日本



子供室（二階）
—左側の戸は寝臺—

間で、此處に支那燒の大火鉢一箇を据へてあるが主人の曰くが面白い、『今迄のような日本流義の接客にしますと、少くとも二人に一ッづつの火鉢や煙草盆を出さねばならず、それ茶よ何よと一々運ばねばなりません上に、縦むば用談が十分間か二十分間で濟むような場合でも、人によつては同樣にお道具立てをせねばなりませんから、場合によつては、用談の時間よりも道具立ての時間の方が多く費へる、といふような滑稽もあります、わたしは、それを全然廢しまして、どなたでも、火鉢一つを用談の足溜りに願つて居ります。斯の一室がわたしの居間にも、接客屋にもなつて居りますが、若し來客と用向きの奈何によつては食堂の方を用ふように、あそこを全然洋風にして應接室を兼ぬる樣に致しました』と。斯の日本室に續いて八疊の家族室がある。日本風だが、押入れにグリーンのカーテンを用ひてゐるのは氣持ちが佳い。玄關の左手は、直きに、四坪許の食堂に續き、此處は前記の通り純然たる洋風で、特別なる場合に於ける接客室を兼ねたることゝて、設備は簡素ながらも到つてゐる。斯の食堂に續き、闊一つで清楚な炊事場に同じ床高な板敷で聯絡し、調理されたる飲食物又は食後器物を食堂内より、引違への硝子戸を開かば其處に設けられてゐる配膳棚によつて運ばれる樣になつてゐる。是れで、全體としては二十四坪の廣袤に、是れ丈けなものが納まり、どれも是れも毎日相當に活用されて些の無駄もなく、薄暗い古苔の醸した酒藏を、孰れの室も晴れやかな光線の明るい、ほんとうに文化化されたものに改造されたとは、確にお手柄だ、と大いに提燈を持つて置かう　序に、便所は水洗式ではないが餘程巧妙な裝置を有つてゐるようで、確に舊來の弊は脫してゐるが、今それを一々説明するの餘裕がない。給水を半馬力のモーターで屋上のタンクへ汲み上げ、その壓力を利用したる處にも面白味があり、風呂に瓦斯を用ひてゐる處も亦新しい。

記者は、尚ほ細部に就いて書き度いのだが、思はず前が長くなつて、おせッかいな提燈持の蠟燭も竭きそうだから、此の邊で擱くことにする。御本人に取つては少々迷惑か知れぬが、意ひを文化的住宅に致す者は、確に一見するの價値あることを申添へて置く。



英國建築士業學務上の行爲及び常習

—日本建築士會中村達太郎註譯—

尊敬すべき建築士の行爲と、建築業務に因て受納遵守すべき習慣とを支配する約因を、正に登錄する爲め、大英皇立建築學會の評議員會は、下文の如き建築士常習なるものを公表す

第一　個人及び對人の義務

1　建築士は藝術家兼技術家なり

建築士は建物の構造、內外恰好、配合、裝飾及び其附屬物を意匠計畫し、其施工を指揮督役し、且其經費を取締るものなり

2　建築業務は高等學術的にして決して營業的にあらず

建築業務は請負人、製造人及び建築用材料の商人若くは代理人の職業及び競賣人又は家屋代理商の職業とは兩立せざるものなり

3　建築士は單に引受けたる事業の報酬を受納するに止まるのみ、其事業に關聯して報酬以外他の利得を決して受くべきものにあらず

4　建築士にして建築用材料、新案、若くは發

明權を有する者、又は夫れが爲め商業利權を有する者は豫め建築注文者に之を通告し其許可を得たる後に非れば當該建築工事に之を使用し得ざるものなり

5　建築士は商人若くは仲立人たらざるべし又割引若くは手數料を授受すべき業務に携はらざるものなり

6　建築士は引札其他商業常習の廣告に依り自己の引受工事を廣告し又は提供せざるものなり、然ども其擔當工事の圖解又は記事を發表する事は妨げず、これ世の知識啓發に資する故なればなり建築士は工事の建物に其名を表示することを得（但し餘り目に附かざるやう）尚竣工後に於ては令名ある彫刻師が爲す如き方法にてそれに署名することを得

7　建築士は贈與、手數料差出、自身の報酬引下げ、又は代理人若くは部下への勸誘に因りて工事又は注文者を手に入るゝことを爲さず

8　建築士は如何なる事情あるも、他建築士の注文者に工事を求むること又は其採用に應ずることを愼しむべきなり。他建築士の死亡、引退其他建築士たるべき正當終了に因りて、該注文者の請求を容れ若くは其採用を應諾する場合には、建築士は先任建築士の名譽と利益に就て保護者なりと考ふべきなり

9　建築士は同業建築士の業務的地位を承認し且正當に業務を履行する者に對しては總て其稱號相當の權利を認容す。（譯者曰、稱號トハ「建築士」ナリ）建築士は藝術家相互間に行はるゝ禮儀を以て同業者を遇するやう勉むべきなり

10　建築士の設計圖の版權は建築士にあり、就ては他建築士は謹て之を尊重すべし。然れども知識と經驗とは何時たりとも業務實行に之を發用し得

11　建築士が他の建築士を圖工又は助手として採用する場合には能く之を幇助し務めて其相談に應じ、尚何れも建築業務の正當員として之を遇すべし

第二　註文者に對する義務

12　建築士は註文者の正當利益を保護する爲め

全力を盡して献身的に奉仕す、又依託されたる建築工事に關しては、之を計畫するとき、施工監督のとき、豫算編制のとき、及び意見助言を發するときに於て總て其知識、手腕及び經驗を擧げて事に當る

13　然れども、建築士、假令註文者の請求ありとするも、他人の權利侵害の虞ありと思惟する事項には身を委ぬることを爲さず、又自身の名譽を毀損し若くは他人に累を及ぼし又は事變を引起す事の虞ある事業は之を引受ることは爲さざるべし此の如き場合には註文者に對して、其請求に應ずることは自身の能くする所にあらざる旨暗告す

14　建築士は又工事變更が、豫算超過の虞ありと認めたる場合には其旨之を註文者に通知す

15　建築士は大英皇立建築學會の規定したる建築士報酬規程の標準に據り註文者（單に註文者よりのみ）より報酬を受納す。建築士は施工人、商人、土地財產賣買人にして註文者と關係ある者よりは、決して何等名義ありとも、報酬若くは支拂を受けざるものなり、但し註文者之を熟知し其承諾を得たる場合は此限にあらず（脚註、某地方ニテハ建築士ガ內譯明細書ヲ調製シ其報酬ハ施工人ヨリ受領スルコトガ公然ノ習慣ナリ）

16　修繕工事、管理、其他時間に基きて報酬金額を定むべき事項に就ては、建築士は時々其報酬金請求書を註文者に送附す

新工事及び現存建物の重大變更或は手入れに就ては前記報酬規程に規定したる標準に因り內拂的の支拂を受く

17　建築士は某係爭事件に就て既に意見を發表したる場合には、其事件に關しては關係者たることを忌避す。將又評價人又は仲裁人に指名されたる場合には最早註文者の代表者たる資格は消滅し從て偏頗なく公平に勤作す

第三　請負人及び職工に對する義務

18　建築士は其擔當工事に關係する諸員諸職工間の和同禮儀及信實を守らしむる爲め身自ら言行を愼しみ能く衆員を感化せしむるやう努むべし。註文者に對し建築士は献身的なりと雖も、而も尙請負人及び諸職工に對して入費節約に務め、且工

事に就て興味を持つやうに職工に奨勵し又諸員中改良手段に就て技術的提案を申出でたるもの有るときは禮儀を以て快く之を受理すべし

19　建築士は註文者と請負人との間に在て全く不偏不黨の態度を以て請負契約書を解釋すべし。建築士は請負人に對して指圖を明確に與へ、且己れの意志を確實に傳ふる爲め、工程の適度に於て圖面若くは其他の方法にて請負人に示し、以て施工に臨み萬事遺漏なく手配を施こし得るやう努むべし

20　建築士は、入札書、內譯明細書其他請負人より提出する支拂に關する諸契約書類に、一言一句たりとも、請負人が挿入することを許さず、但し註文者が全然之を關知し正に　承認したる場合は此限にあらず

21　建築士は請負人及び商人の爲めに用務を爲すことあるも、決して之がため割引、贈物又は用務手數料を受取ること無し

22　註文者より特に請求あるに非ざれば建築士は請請負人の支拂を引受ることを爲さず

23　請負人又は其代理人を叱責すべき機會に遭遇するときは、建築士は其人格を重んじ、先方の手腕を傷けざるやう穩便に決行す　（終）

大正十一年八月三十一日譯了

春雨に

朱の鳥居ばかり

目立つ哉



サー・クリストファ・レン

大阪府建築課員　池田谷久吉

文藝復興の萌芽は暖かき土壌に豊かに培はれて伊、佛、獨の各國には最早や爛熟の極に達し百花爛熳として咲き誇つてゐたが獨り英國のみはまだゴシックの形骸を踏襲して尖頭式を保持し、或はエリザベス式の過渡期に行詰り、亞いでジャコビヤンの復興式に漸く舊套を脫して華麗に向はんとする矢先、こゝに警鐘を亂打して獅子吼をなしたものゝ一人こそ偉大なる世界的建築家にして都市計畫家、サー、クリストファー、レンである。

彼はまた科學者として當時、英國に於ける最大の權威者であつた。

此のレンの死後二百年紀念祭は丁度この月を以つて相當するので吾人は此處に少しくレンを追慕し回想せんが爲に研究したものを書いて見よう。

レンは西曆一六三二年十月二十日英國ウイルツシャー、チスベリの近く、イースト、ノイルに生れた、父はクリストファー、レンといつて當時イースト、ノイルの牧師をしてゐた。



サー・クリスト・フアーレーン

父（一五九一――一六五八）はフランシス、レンの兒でロンドンの呉服屋に生れ十歳の時にマーチヤント、タイロー、スクールに入學して十八歳の時オックスフオードのセントジョン、カレッジを卒業し以來身を宗教界に投じ、チャールス一世の時代に牧師として高名を馳せた人で二十九歳の時フオンスヒルの牧師を振り出しに亞いで三年を經てイースト、ノイルの牧師に轉任し、四十八歳の時にはウオルバーハンプトンのコレヂエートチヤーチの主任牧師に昇任し一六五八年五月二十九日七十七歳の高齢を以つてオックスフオードのブレチエリントンで死んだ。

父は非常に理智に富み嚴格な性質の人で一生を神に捧げ善良なる道を說く人として生涯を完ふし

た。

母はフオンスヒル、アベのロバート、コックスの娘でレンの幼少な時死んだといふ事以外には不明であるがレンの妹のエリザベスの生れた時にイースト、ノイルの教會で洗禮を受けた時の登記に一六三四年十二月二十六日といふ日附があるのでレンの四、五歳の時に死んだものと想像し得られる。母の死後は姉のスサンの手に專ら養育されてゐたがレンの十一歳の時に姉は數學者のウキリアム、ホルダーと結婚したので彼は表面姉の手から放れたとは云へ相變らず出入してホルダーの生活に觸れ常に數理的な教養を受けてゐたのでこの感化は將來大科學者たるべき基礎を作つたのである

彼の伯父のマッシユー、レンも父と等しく牧師をしてゐた人で彼は從兄弟とは非常に仲よく交つてゐた。

彼の少年時代の體質は背も低く、身體も弱々しかつたのでこのまゝでは成長するだらうかとさへ疑つてゐた位であつたが大した病氣にも罹らず九歳の春を迎へた頃町の小學校へ入學する迄家庭教師に就て初步の教育を受けた後、ウエストミンター、スクールに入學してドクトル、バスベーにラテン語を學んだが頭腦明晰なる彼は僅か一年にして彼の父にラテン語にて實に子として親に對する愛情を叙述した名文を草して送つた程熟達した。

當時主として興味を持つて研究したものは自然科學と數學とであつて一六四五年に彼の父に贈つた詩の一篇は彼が如何に星學に對する深き造詣を持ち勉學してゐたかといふ事を充分に表はしてゐる。

翌年十四歳の時ウエストミンターを退いてカレッヂに入學する迄僅かの間であつたが科學者として有名なドクトル、スカラブルグに選ばれて助手になつた（スカラブルグは後年サーになつた人）

彼はオックスフオードのワドハム、カレッヂに入學して天文と幾何學とを專攻して四ケ年の科程を終へ一六五〇年三月十八日卒業してB、Aの稱號を得一六五三年十二月十一日には進んでM、Aの稱號を得た、彼は倭小なる體軀とは云へ天才的科學方面の頭腦と手腕とは限りなく伸展されて幾

何學と應用力學とに於ては最早や斯界の權威であつた。

一六五七年にはグレシヤム大學の天文敎授となると共にケンブリッヂ大學のオール、ソールの一員に列し一六六〇年にはオックスフォード大學の敎授に轉任し翌年チヤールス二世は彼を親しく召されて優遇され、ローヤル、ソサイエチーの第一回議員に選出された、彼がオックスフォードのD、C、L、ケンブリッヂのL、L、Dの稱號を得たのもこの年であつた。

一六六二年にはアイザック、バロウ等と交りグレシヤム大學の幾何學敎授をも擔任した。

當時有名なホックの著書『ミクログラフイヤ』の序言に『余はアルキメデス以來今日迄レンの如き機械的手腕と哲學的精神とを兼備した者は未だ且つて會はなかつた事を斷言して憚らない』といつてゐる。

彼は金屬版彫刻法の發明を初めとして、耕作機械、ニューマチックエンジン等をも發明し又、日蝕月蝕、星等に關する圖解を一六八一年にシステム、オブ、マセマチックで發表してゐる。

彼の文學上の地位に就ての批判は一七一三年ニュートンの論文の十三頁以下に幾何學者として又天文學者としてのレンの業績を激賞してゐるものは蓋し彼の一面を如實に物語つてゐる。



倫敦大火の光景

一六五五年倫敦全市に猛威を逞うしたグレート、プラグー發生に際して彼は佛國巴里に難を遁れて六ケ月滯在してゐた。折しもルーヴル宮殿造營中の機に臨んで尠からず建築を研究しこゝに文藝復興建築を受胎したのである。

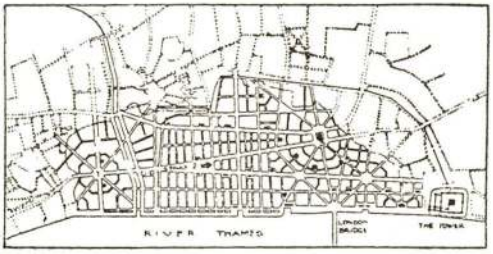
一六六六年五月オールド、セント、ポール寺院

の調査報告を命せられてゐた折柄其年の九月に有名な『倫敦大火』があつて倫敦の市街は殆んど全燃して終つた。

ブッデング、ストリートのパン屋から出火して猛火は約一週間倫敦全市を紅焔もて嘗め盡して漸くにしてスミス、フイールドのベー、コーナで鎭火した。此の罹災面積四百三十六エーカー、燒失戸數一萬三千二百、敎會のみにても八十七を算し實に損害一億一千萬圓に達した。

此の恐るべき大火は彼れの手腕を十二分に振はしむべき大平原を彼に供給した彼は鎭火後四日目に都市計畫案を皇帝に提出した、彼は都市計畫家として周到な準備と綿密なる調査を以つて百年の計畫を立てたが燒失した建物は全部古い敷地に再建しなければならないといふ要求によつて空しくも否決されて終つて再び求め得られない都市改良の絕好の機會を逸したのである。

一六六八年三月に倫敦に建築局が新設されてデンハム氏主任となり彼は副主任に任命されたが翌年十一月デンハム病死の後を受けて主任となつた



一六七五年にはセント、ポール寺院の再建に着手し續いて大火の紀念碑を建立し寺院にても五十餘を設計し其他宮殿、學校、病院等一般の建築物の有名なものは殆んど彼の手によつて設計されたのである。

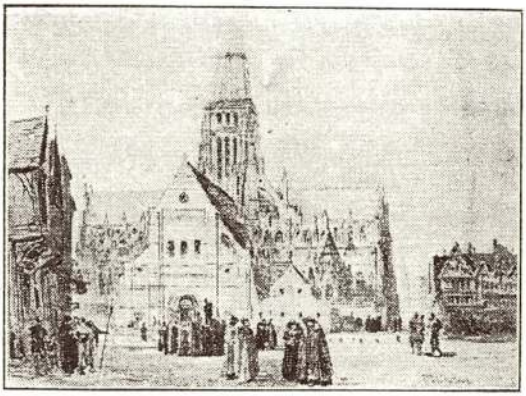
彼は多年の功績により一六七三年にサーに列せられ一六八五年にはローヤル、ソサイチーの會頭に推擧され一六八五年にはフラインツンから代議士に選ばれ、一六八九年ウインドソルから一七〇〇年にはワイマウスから何れも代議士に當選されたのである。

彼の晩年は英雄の末路や悲慘なりとかの類に洩れず根底なき嫌疑のもとに甚だしく當局から迫害され逆境に陷り老後の餘生をハンプトンコートの邸宅に送つて終に寒冒に犯されて九十一歲の長壽を以つて一七二三年二月二十五日歸らぬ旅に着いたのである。

彼の骸は三日五日に彼の畢生の偉業たりしセント、ポール寺院の東の端のクワイヤーの南のアイルの下にある愛娘の側に埋葬されて永久に安らかな眠りに就いた。

彼のタブレットの碑文は有名なもので拉典語で"Lector. Si monumentum requiris circumspice"（讀者！彼れの紀念碑を見んとするならば希くば汝の立たれる周圍を見られよ）とある。實に此の寺院こそは彼の唯一の紀念碑である

彼れは生前親しく交つてゐた人達は概ね科學者で殊にエヴエリン。ボイル。ウォーリス。アイザック、バロー。バーリ。ニュートン。ホック等であつた。彼は終始人に交るに愛を以つてし殊に謙讓の德を備へ英國式の善良なる紳士の典型といふべき人で事に當るに熱心と忠實とは彼の行つた仕事の上に證明されてゐるのみならず彼ほど正直な人は殆んど稀で『如何なる兒供の持つ正直さよりも正直の持主であつた』とまで云はれてゐる。



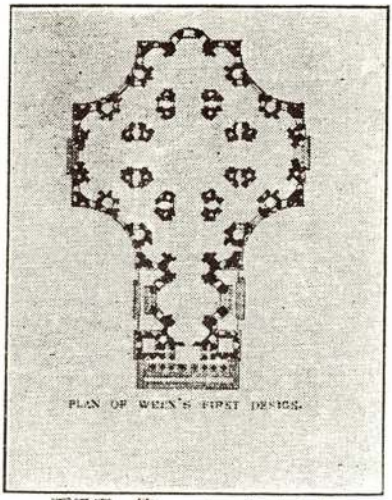
セント・ポール寺院

彼の寫眞は七八枚現存されてゐるがその中有名なものとしてはブレリントン、ハウスのローヤルソサイエテー、ルームにサー、ピーター、レリーの畫いたものと倫敦ナショナル、ポートレイト、ガレリーにあるゴッドフレー、ネーラーの描いたものなどが有名である。

彼の傳記に就ては一七五〇年に彼の孫に依つて出版された『パレンタリヤ』の外三四の書籍があるが餘り公には知られないで終つてゐる。

彼の手によつて建築されたものは甚だ多く現在倫敦に於ける優秀なものゝ大半を占めてゐるが其中代表的のものに就て記して見よう。

◎セント、ポール寺院。St. Paul.



セントポール寺院　第一案平面

レネッサンス建築に於ける歐洲最美のもので倫敦に於ける唯一のドームを持つ寺院建築である共に第一の大きな寺である。故に倫敦のシンボルともされてゐる。この寺は所謂シチーの中にあつてラッヂゲート丘の頂に建つ實に莊嚴な然かも優美なドームと嵩高なスパヤとは倫敦に於ける一大偉觀である。

現存してゐるセントポール寺院は第三回目の建築になつたものでレンの畢生の事業であり彼の作品中の白眉である。

最初のものは西暦六〇〇年頃の創立であつたが一〇八七年の火災に遇ひ燒失した、第二回目のものは一二四〇年にゴシック式に再建起工して一二八三年に竣巧したが其後幾度も失火、落雷等の爲めに頽廢甚しくなつてゐたので時の皇帝チャールス二世陛下は一六六三年にレンにた命じて改築計畫の測量設計を命じた。

一六六六年五月に提出した設計報告書は他の反對を受けた爲めに採否何れとも未決の儘になつてゐたこの當時エヴエリンといふ人の報告日誌を見ると此の火災の起る僅か六日以前にレン初め關係者の現場を測量した上、愈々新たに改築



セントポール寺院　第一案訂案

を必要と認むる由を斷言した、そして『改築の場合には英國空前絶後の莊麗極まりなき建築にして驚くべき尊嚴なものにする』と大語してゐる。此の言あつて間もなく大火があつてオールド、セント。ポールも只僅かに周圍の外壁のみを殘して燒失して終つた。早速サンクロフト僧侶は再建に就て種々の協議を重ね、牧師會館に於ては一六六八年より一六七〇年迄再三熟考の結果チャールス二世は此處に新規改築案設計をレンに命じた。

そこで彼は最初プロテスタントの禮拜に適應する樣な寺院を設計した。即ちクワイヤーを殘してネーブとトランセプトとはクラシックにすることで平面の十字上にはドームを造つてこのプランはプロテスタント、チャーチの必要に應ずる樣に設計したのであるが僧侶の方からはせめて構造上方面の外觀的にでもクワイヤーとネーブとアイルの附加されてゐない事に對して少くともプランの上に中世紀のカセドラルの配置にすべきことを要求された、これは第一案で即ち現在サウス、クンシントン博物館にこの設計圖は陳列保存されてゐるものである。

此の案に就ては皇帝の承認は得てゐたのであつたが殘念にも僧侶の方では否決して採用しなかつた、レンは非常に失望落膽し涙さへ流してこれを悲痛したと傳へられてゐる。

然し後日此の事は偶然にも結果に於て幸福となつたことは彼れに取つてはまだ無二の僥倖であつた。レンは止むなくこれを諦めて次の第二案を立てた。これはスパイヤーを建てたドームの形式で現在のものであつて一六七五年六月二十一日に工事に着手した。

無論第一案は彼にとつては唯一の理想であつたが周圍の無智なる干渉の爲めに妨害されたので現在の第二案に對しては確實なる自信は持てなかつたが彼は内心第二案の骨子は兎も角其儘としても或る程度迄は設計表圖は勿論、模型も他の者には内密で自己の獨創に任せて修正しようと決心して皇帝に上奏裁可を得て實際施工したので豫定したものと似ても似つかぬものが出來た。

レンの生涯中これ程思ふ存分に妙技を振はした

ものはなく實に凡ての點に於て優秀なものである

彼の設計はチャーチの外部にカラムの一列を造つた外側を持つてゐて其れを上下二分し其高さに於ても外觀に於ても一段の光彩を添へたこの點はローマのセント、ピータよりも遙かに外觀に優美を勝さしめたのである

セント、ピータの外觀は巨大なるカラムとシングルオーダーの片蓋とに依つて其細部は殊に小さく見せてゐるが、これは優秀なるドームとドラムとが美しき線と調和ある權衡美を作つてゐるのが他の何れのものよりも傑出した點である。



セント・ポール寺院正面

プランは東西五〇〇呎、南北二八〇呎、總面積六〇〇〇〇平方呎もある莊大なものでこの寺の大きさと性質とはローマのセント、ピータ、パリのパンセノン大寺と比較研究すれば面白い關係を見出すことが出來る。

ドームを頂く十字交叉部の中心室を中心として東西に側廊を具ふに三區の身廊とクワイヤーとを配置して南北に袖廊を出し、西方張出玄關廣間には其側面に禮拜所が設けられてある。

正面中央は間口一八〇呎ありて幅廣き石段上に建ちて重層の切妻屋根玄關ありてその左右に釣合よき高さ二一五呎の

塔を建て向つて右塔には時計を備へ車寄は階上と階下とに分ち、階上の柱はコンポジット、階下の柱はコリンシャンを用もてセント、ポールの改宗を表現せる美しき彫刻のペデメントを頂きドームを廻つてゐる。

アイルのみは平家造りである爲めに外部は化粧壁を以つて飾られてゐるので他の二階との程よき調和を保つて建築の威嚴を保ち又構造的に此の壁の背後にある身廊のヴォールトの荷重を受くべきフライングバトレスの支へを支持してゐる。

ドームは恐らく外觀上歐州に於ける最美のものとも云ひ得べきもので身廊と袖廊との交叉點に設くる突出せる大きな石積は下より上に向つてドームを支へる意味を充分に表現してゐる。

ドームを受くるドラムのオーダーは殊に美しく放射控壁には附屬せる半柱を以つて之を構成して柱間は四番目毎に壁造りとしたゝめにパリのパンテノンに見ることの出來ない堅牢さを示してゐる、これは石の廊下と稱して有名なもので欄杆の後方に屋階が設けられて頂塔と十字架とを頂くドームを支へてゐる。

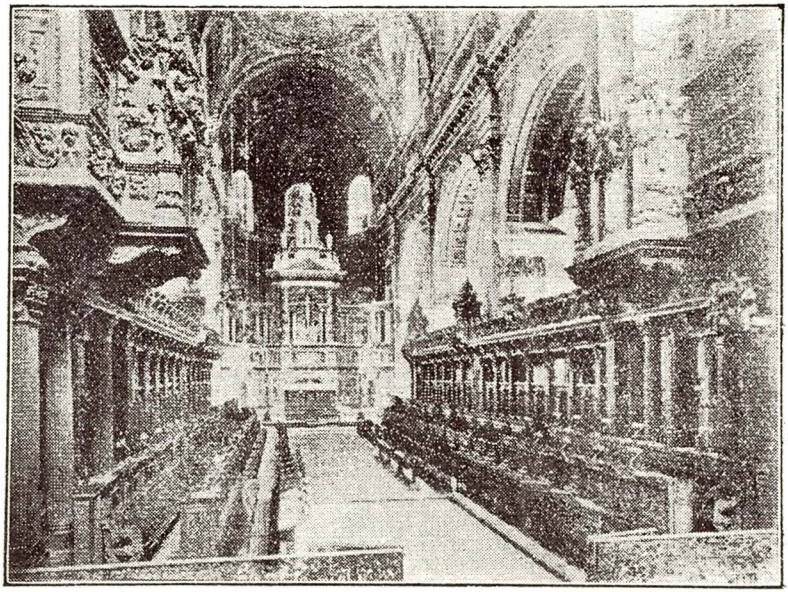
ドームは内部をコリンシャンオーダー八本にて支へ三重に出來てゐる、高さ八六呎、其直徑は同一ではないが外側の徑一四五呎ありて木造にて鉛板葺となして中間のドームの上に構へてある八個の窓が内部のドームに光線を入れるために設けられてゐて木造トラスとして有名なものである。

中間の圓錐形のドームは厚一八吋の煉瓦造にて石造の頂塔及ドーム(推量約七〇〇噸)と十字架とを頂き十字架は三六五呎の高さにある。

内部のドームは厚さ一八吋の煉造りにて頂上の高さは二八呎のところにあり其徑は基底にて一〇九呎上部にて一〇二呎もある。又内部を煉瓦造のコーンにて石のランタンを支へ各ドームの格間には繪畫を描き雄麗なものである、斯くの如くドームを各獨立したのは構造的彼れの偉大なる手腕である。

内部のストール(僧座)は手長猿の齒をむき出したものを彫刻して面白いものに出來てゐる。

この大殿堂の建築竣功費は一一六七、四七五磅



セント・ポール寺院のクワイヤー

（此内八一〇、一八一磅は倫敦の酒と石炭輸入税から徴してゐる）の莫大な金額と三十五年間の年日月とを要して一七一〇年に完成したのである。

彼の作品は大小取交ぜて數百を數へられてゐるが其中工費五千磅以上のものに就て記述しよう。

◆オールハロー Allhallows the great. 1697

◆オールハローAllhallows, Londbard street. 1694

ランバート街にあつて手法簡單なものであるが優秀なステインドグラスがある。

◆セント、アンドリユー S't Andrew Wardrobe 1692

アンドリユーに捧げた寺でステインドグラスに見るべきものがある、内部の構造質朴にして天井の模様が幾何學的に出來てゐる。

◆セント、アンドリユーS't Andrew Halborn 1687

ホルボルン街にあつて内部裝飾莊嚴にして美しきステインドグラスを欲め、カラムが角柱を用ひて上部のアーケードはゴシックの氣分を含み幾何學的に出來てゐる。

◆セント、アンソリン S't Antholin 1682

◆セント、ブライド　St Bride, Fleet street 1680—1699

フリート街に在りて創立は隨分古いが大火で燒失したものを再建したのが現存のものである。スティープルの各層が互に相類似して然かも各層が漸次高層に至るに從つて縮少してゐる、ボウ敎會堂に比較して一般に見劣りはするが五層の尖頭には葱花狀丸屋根の上に之を架して穹窿によりて方形の間に連續してゐる、尖頭は八角のプランを持ち總高二二六呎一一吋塔身の高一〇三呎八吋ありてボウ敎會堂よりは四呎三吋高く出來てゐる。

屋根を支ふる內部の双柱は附屬の片蓋柱に依つて棧敷を支ふる柱は斷絶せるエンタブラチュアの一部を備へネーヴとアーチは之を起點としてゐる

◆クリスト、チャーチ Chirist Church, Newgate, street 1687

ニューゲート街に在りて彼の作品中極めて特色を發揮したものでプロポーションよろしくセントポールに亞ぐ傑作である。

◆ペンブローク大學、敎會堂 Pembroke College, Chapel, Cambridge 1663—1664

◆グリニッチ宮殿 Palace at greenwich for Charles II 1663

これは彼の最初の作品として有名なものである

◆オックスフォード劇場 Theatre at Oxford 1668

◆取引所 Royal Exchang 1669

ロンバート街に在る。現在のものは最近出來たもので彼の作品は一八三八年燒失してゐる。

◆紀念塔 Monument 1671—1677

一六六六年倫敦大火の紀念碑として建てられたものでプッデングストリートの火元からこゝまで二〇二呎あるので其の高さを二〇二呎にしてゐるピリングスゲートの裏手でフイシュ街にある。

塔身ドリック式のカラムにて下部は二一尺方のペデスタルの上に建て柱の徑一五呎あり上部には方形の欄杆を附けて三四五段の階段にて昇れる樣になつてゐる。この細長い高いものを建て上げてからフリューチングを施してゐる點は彼の技巧を推するに充分である。

◆バー寺院 Temple Bar 1670—1672

フリート街にあつたが一八七八年に取拂はれて現存してゐない。

◆ロンドンテンプル Temple London 1674—1684

フリート街にある極めて簡單な建築で煉瓦造りの質素な正面と木造の入口とは特長である。

◆トリニチー大學圖書館 Library at Torinity, Colleg Campridge 1679

◆アスモリヤン圖書館 Ashmolean Library oxford 1682

◆ウインチエスター宮殿 Palace at Winchester 1683

◆醫科大學 College of Physician 1689

◆ハンプトン宮殿 Palace at Hampton Court1690

倫敦からテームス河の上流にある宮殿で庭園内の噴水及び庭園に向へる正面は彼の作である。

◆ウエスミンスター寺院の西塔 Tower of Westminster Abbey 1696.

ハウクスアン氏と共同設計のものである。

◆グリニツチ病院Greenwich Hospital 1697—1703

倫敦橋から四哩半河口にあつてこの病院の二構は彼の作である。

セント・ポール寺院正面(ムーア)

◆セント、クレメント S't Clemet Dane's 1680—1684

ウエスミンスターとセントポールとの中間に在る。

◆セント、デイオニス S't Dionis Backcharch 1674—1684

ライン街の西南角フエンチヤーチ街の北に在る

◆セント、エドモンド S't Edmound tha King 1640

ロンバート街に在り。

◆セント、ロウレンス S't Lowrence Jewry 1677

グレシャムとキング街との角に在つて場所がよいので非常によく目立つてゐる、ステープルを有し四角の隅々には美しいピンナクルを設けてゐる

◆セント、ゼームス St James, Garlick Hill 1683

ガルリック丘にあつてステープルのピンナクルはセント、ミカエルのものに類似してゐるアーチの窓を用ひ軒のコーニスは至極簡單である。

◆セント、ゼームス St Jemes, Picadilly 1683

ピカヂリーに在つて簡單な點に於てはロンドンテンプルと等しく非常に成功のもので内部に棧敷を設けてアイルは重層となし方柱にて棧敷を支へ階上にはカラムを建てヤイルの屋根は半圓筒穹窿にてネーブの穹窿とは直角に交叉してゐる。

◆セント、ゼームス St Jemes, Westminster 1689

◆セント、ミカエル St Michael Cornhill 1721

◆セント、ミカエル St Michael Royal 1694

佛國復興式の影響を最も著しく受けて居るもので特に軒のコーニスに充分現はれてゐる。これもステープルを有し構造複雜にして上部のピンナクル小さく中部四角に出來てゐて其割合大きく窓は珍らしく長方形である。

◆セント、マルチン St Martins, Ludgate 1684

ラッヂゲートヒルに在つてセント、ポールに近く意匠簡單なステープルの雄姿はセント、ポールと相對照して美しき配合を作つてゐる。

◆セント、マガレット St Magaret, Lothbury 1690

ロスベリの南側、英國銀行の近くに在る。

◆セント、メリー St Mary, Somerset 1695

サンマーセットに在り。

◆セント、メリー St Mary, Aldermabury 1677

アンダーマンブリーに在つてシチーの中に在る十六世紀にサー、ヘンリ、ケベルが市長の時一六一〇年頃に竣功したものが一六六六年大火の時燒失したのを再建したのが現在のものである。

◆セント、メリー St Mary le Bow Cheapside 1673—1680

普通ボー、チャーチと呼ばれてチープサイド第一の名物である。ボーと呼ぶのはクリプト（地下室）が弓狀になつてゐるのから起つてゐる。

復興式のステープルの代表的の傑作で彼れに依

つて創成され最も成功したものといつてもよい。

ステープルの方形にして高く聳え漸次に遞減してクラシック、デテイルの装飾を施されたるピンナクルを頂いてゐる。

◆セント、ニコラス St Nicholas Coleabbey 1677

コリヤベイに在つてステープルを有し上部ピンナクル大きく中部に簡單にして然かも極小さき不釣合のペヂメントがある。尙隅々の角にも亦小さきピンナクルを設けて全體としては美しき形を整へてゐる。

◆セント、オレーブ St Olave Jewry 1673

ハート街に在り彼の最も好めるステープルを有し彼の特色を遺憾なく發輝してゐる代表作である。

ステープルは三段になり下層は方形、中層は圓形、上層多角形の構造の變化に富み各層獨立したオーダーにて支へられてゐる。

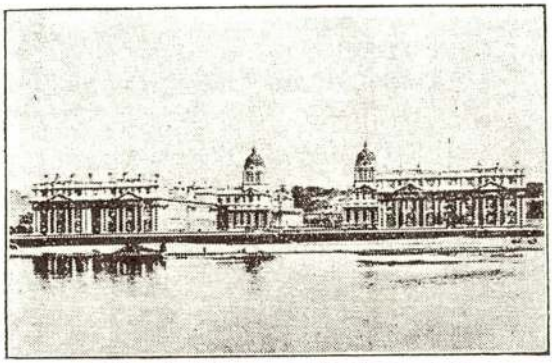
◆セント、ピーター St Peter Cornhill 1681

コーンヒルの街の南側にあつて有名なメンデルゾーのタブレットがある。

◆セント、スチフエン St Stephen Walbrook 1672—1679

ウオルブロックの狹い敷地を利用して優秀の效果を得たものである。プランはジヤイナ敎建築の車寄に似てゐて四角の空間に十六本の柱を建て之に交叉穹窿と中央ドームとを支へその配當斬新にしてアイヽが建物を直角に横斷し左右のものが中央のものより小さく出來てゐる。

キヤピタルの高及柱の徑何れも二呎、プランは八二呎に六〇呎、ドームの徑四三呎にて簡單にして要を得てゐる。



クリニツチ病院（テームス河よりの眺望）

◆セント、スイシンス St Swithins Cannon Street 1679

◆セント、マグナス St Magnus, London Bridge 1676

倫敦橋の附近にあつて彼のステープル中最も優美のものである、他のものとは全然違つた手法でドームの大なるもの、上にピンナクルがあつて八角形の塔身が中部の釣合比較的大きく出來てゐてピンナクルが小さいので非常に鋭く感じられて強い威嚴を保つてゐる。

◆セルドニアン劇場 The Sheldonian Theatre Oxford 1664—1665

オックスフォードに在る有名な劇場で彼の初期の傑作である。彼の科學的な才能は特種建築の各所に見出されてゐる、この劇場内の音響的方面に絶大な研究をなしステーヂと客席天井との合理的構造は實に權威あるもので樣式は純復興式建築で屋根は木造小屋を用ひてゐる。

× × × × ×

彼の作品はイニゴジョンの伊太利式に代つて純佛蘭西復興式より發足して獨自の境を創成し英國復興式の明星と仰がれたのである。

倫敦の蒼穹に聳立せるスパイヤ、及びロフチーなドームと重々しいポートランドの石積とは吾人の胸裡にしみじみと宗教的な感じを起さしめる。

彼の優れたる數理的才能は作品の上に卒直に表現されてプロポーションの卓越せる結果を見せてゐる、又凡ての詳細部の比例が巧に一定の規則のもとに結び付けられて居ながらも少しも無理をない自由な調和は彼のみに許された手腕といつてもよい。

然かも前述の如く數多の作品に一貫した血脈は等しく流れて作品を見て彼を知ることが出來る迄に彼の手怯が濃厚なる特徵を示現してゐる。

殊に木造トラスの完成、スパイヤの形式美等は彼の作品の偉大なる價値として賞讃すべきものである。

（完）



NEW YORK雜記

在プリンストン大學　寛

市俄古迄

昨年の八月末に、ウエスターン、パシフィック鐵道によつて、紐育へ向けて桑港を出た市俄古迄に通ずる幹線は四つあるが、何れも特徴がある。此ウエスターン・パシフィックは比較的に客扱がよいといふ話であつたから、これをとつたのである。

時は丁度鐵道ストライキの最中であつて、直設

従業員の多くが罷業をやつてゐるので、餘り列車の數が多くなかつた。普通市俄古迄三夜四晝で達する例であるに、此頃に限つて、四夜五晝もかゝつてゐる。夜中に小驛にひつかゝつた儘四時間餘りも立止まつてゐたこともある。或朝眼を醒してみると、一寸した停車場へ或部分のプールマン丈けが、立往生をしてゐる。機關車に故障が出來たゝめに、午後一時でなくば發車しないといふ。こゝは何處だと聞くと温泉で有名なコロラド・スプ

リング市だと答へた。

コロラド州は温泉州として有名であるが、別して此町が最も大きくつて有名である。丁度時は日曜日であつて、停車場のつい近所のカソリック教會から、禮拜を告げるチヤイムの音が、顏を洗つてしまふと聞えて來た。十一時に間もないので、發車迄に尙ほ二時間もあるので、見物に出かける。

教會の前には陳列會場の樣に自動車が群がつてゐた。廣い會堂は會衆で一杯である。市はこゝのつた、みがきのかゝつた、固い感のする併し晴かな感じがする。外國人の自分には温泉場らしい情調は何處にも認められない。

こゝ迄通過したあとは、荒凉たる原野が打ち續いてゐた。ソート・レーキ(鹽の湖で鹽を産する)のあるユタ州は、不毛の地域を處々に見受けたが併し此州は鑛山の多い州であるから、不毛の土地を含んでゐても償ひ得る。コロラバー州では放牧の地を多く見受けた。コロラド・スプリングを發車して暫しすると沃野が東西南北に眼のとゞくかぎり廣々と擴がつてゐる。開拓す可き無限の富が隱れてゐることを想像せしむる。何處を見ても、小山の頂き迄も丹念に耕し盡されてゐる日本など比較にならぬ。併し自然の景色の美しさから言へばとても日本の靴の紐を結ぶことも出來ぬ。廣々としてはゐる。大きくはある。だが荒凉としてゐる。進んでも進んでも、同じ景色ばかしが打ち續いてゐる。何とかの狹谷であるとか、ロツキー山であるとか、鐵道の案內記にある場所も知れたものである。流石に日本は天然の風景には惠まれてゐる。廣大な處はないが、サブライムな景色はある。プレッテイなファインな景色は言ふ迄もない。チヤーミングなデ・ケートな景色も多い。だが餘り美しすぎた。美しすぎたゝめに國民は海の外に本能的に出ることをしなかつた。之の報が今は覿面に廻ぐつて來てゐる。米國に來てその土地の廣大さを羨しがらぬものはなからう。

市俄古市

サボターヂのために拆角計つて來た豫定の到着時間が狂つてしまつて、市俄古市に着いたのが夜

の十二時尠し過ぎであつた。今頃どうかとは思つたが豫定の宿泊所に電話をかけた處が、門を開けて待つてゐるからといふことであつたので、タキシイでもつて出かけた賑かな處、暗い處を小一時間も走つて湖の直ぐ近所にあるそこに止めて來れた。

市俄古市の建物の煤烟でくすんで汚なくなつてゐるには驚ろいた。湖水から上る水蒸氣と風の強いために、冬は馬鹿に寒い、ために、石炭をどん〳〵焚く。その水蒸氣を含んだ重く下い空氣が烟筒の煤烟を停滯せしむるためであるといふ。ダウン・タウンの最も繁華な大通に並ぶ建物でも左樣である。

併し時は夏であつた。あのミシガン湖に沿ふて長く延びてゐるグランド公園を、バスで走つて見て市俄古も此湖があるので生きてゐることが感ぜられた。公園も奇麗ではあるが、此湖がなかつたならば餘程價値を損ぜられるに相違ない。公園を貫いた市道には、立派な邸宅が列なつてゐる。自動車の往來がひつきりなしにある。市中その往來の最も劇しい街路である、湖岸には可成り夜おそく迄水浴の群が殘つてゐる。遙か向ふを燈光を寶石の樣に輝めかした客船が暗みの中にあざやかにチヨイ〳〵通る。



トレントンのトラスト會社

オーストリア・ハンガリーに建てられるデンの住宅の標本式

ホテル・リッピイ・建築費二百五拾萬圓部屋六百

美術館や博物館やアーシャルフイルドやシヤスローバックなど、慢然と市俄古に來る人達が見る樣な邊は一通り見て廻つたが、就中自分が强い印象を受けたのは聊合屠牛塲である。平素は電氣仕掛で殺してゐるのであるが自分の行き會した日は丁度ユダヤ人の用ふる肉のために牛豚などを屠殺してゐた日なので、あとから〳〵と出て來る牛豚の片足をひつかけて仰向けに倒し、頭を垂れて咽喉を上へ露はした處を、猶

太人のラバイが鋭利な刀物を一觸切する。憤出する血を出し卒へてしまふと、床上に投げる。腹を斷つ皮を剝ぐ、切斷する。凡て分業になつてゐてたちまちの中に樣々の形に化る。ついに今迄四足を備へて歩いてゐた、生物が僅かの時間内に我等が牛肉屋で見るあの一の物によつてしまふのである。

これを見ては肉食といふことが非常に問題になる。

屠殺場に這入ると一種の臭氣が嘔吐を催させる。田舍からでも出て來たと見える、若い婦人連が平氣で見てゐた自分は五人の仲間で見物に來たのであるが、中に內科や齒科の醫者が三人もおるので違つた會社ではあるが、手續は同じものを双方ともに見させられて弱つた。何れか一つ見れば澤山である。

ジエーン・アダムス英のハル・ハウスを視察に行つたが生憎夏期中は何れの働も休んでゐる上に女史は講演のために旅行不在であつたゝめに不本意であつた。併し內部は一通り見せてもらつた。建物は一ブラックに亘つてゐる。汚ない通りにある。くすんだ建物である。

桑港ではチグロが小さくなつてゐるが、市俄古では大きくなつてゐる。ネグロ區域をなして一所に密集してゐる。

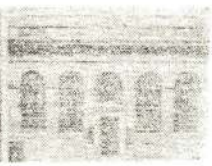
かうして市俄古市約半ケ月滯在して、紐育に向つた。



セントヴヨルヴ裁判所



アカデミー・フ・アーツ



ノースリーバー貯蓄銀行

紐育市

自分はニユヨルク・セント・ラル・ラインによつて來た。紐育市の手前四五時間の邊から列車はハドソン河の上流にそふて下流へと走る。可成りよい眺めである。ニユヨルク・セント・ラル・ステエションに着いた時には馬鹿に暗い停車場だなと思つたらば地下室であつた。その時こゝへ着く迄の市中の或部分は高架であつた。兎に角此暗い交通機關が紐育生活にはついて廻るのである。高架電車

市街電車、地下電車、此れは或所は二重になつてゐる―があるが―最も多く用ひられるのは地下電車で、この急行に乘れば、市街電車などはとても乘れない。

紐育市は建物が奇麗である。煤烟などでクスンでゐる建物などは見うけない。市も此點に心を用ひて、汽車の如きも市に這入る尠し手前から機關車を電機車にかへてゐる。

十層廿層卅層といふ樣な、スカイ・スクラッパーが林立してゐる。併し此地中に到る迄鼎の煮沸する樣な喧騷な大都市に住んであの幾層といふ樣な高いアパートメントに皆相當の人に到る迄、居をかまへねばならぬかと思ふと、そゞろに悲慘を感ぜざるを得ない。

誰やらが西洋人の道路に就ての留意の强いことに就て、これは家屋内と外路との區別があまり强くない處から來たのであるとその蹙足の方は左樣でも足から上の方は却つて日本人の方が差別が漠然としてゐて、西洋人の方が鮮明なのだが、例へば防寒や室の區劃など――說明してゐる。多く土足で室内に住むのであるから。併し此點は單に步行のみでなく、食事の點も同樣である。アパートメント生活は、カフエテリヤやレスタウランドなぞを發達せしめた。彼等は不斷に家庭で溫かい團欒の食卓をかこむのでなくして、よく左樣した類の食店ですますのである。こゝに又彼等の他人好きな、團體好きな、家族觀念の比較的に薄い性質が現はれてゐる。

隨つて始終チップをやつてゐてはたまらぬ處からカフエテリヤが生れ、朝は家庭でトーストとカフエーと一寸したもの夜デンナーにするので晝食は簡單にすますのでオートアットが生れたのである。カフエテリヤは食物の並んでゐる前に行つて自分の好むものを命じて、自分で卓上に運ぶのである。オートマットは樣々な食物の皿を一つ宛含んだ小さな四角な棚が壁の樣に並んでゐて、その片側の穴に白銅を入れると自動的に蓋があくのである。日本には未だ來ない樣であるが、何んでも西洋にあるめぼしいものは輸入するのだから、一つ誰かゞ始めたらば如何ですか。

ブロードウエイといへば、世界一の賑かな大通りであるが、夜の一時頃に行つても夥しい人が歩いてゐる。不夜城である。人といへば市俄古の大通りの人通りには驚いた。東京の須田町は随分の人通りだと思つたが、とても比べものにならぬ。身動き出來ぬ樣な場合がある。ブロードウエイも非常な人通りではあるが市俄古にはかなわぬ。

音樂界の賑はしいのにも驚ろく。十月下旬から四月頃迄、音樂シーズンには殆ど毎日ひつきりなしに、一日に幾つかのコンサートが續く。

未だ書く可きことはあるが、雜記の役目で他に重要な觀察もあるから紐育市雜記はこれ位にしておく。

自分は紐育に半月餘滯在して、こゝから一時間半餘りにある。プリンストンに九月下旬に落着いた新英州國有の精神の強い、宗教的なカレッヂ・タウンである。

これから雜記に移らう。

米國の國技とナショナル・ケーク

米國にも國技がある。丁度國技舘の勝負が人を熱狂させ新聞を賑はす樣に、米國ではフート・ボールが人を氣狂にさせる。

選手は皆それ〳〵大學に屬してゐる。何れの大學にも大抵この團體はあるが、就中ハーバード・エール・プリンストンが覇を唱へてゐる。從來エールがプリンストンより拔し落ち、ハーバードプリンストンが互角の處であつたが、本年はプリンストンは市俄古大學とエールに遠征して、これを打ち破り、ハーバードを迫つてこれに勝つた。プリンストンは世界に無敵となつた譯である。

その競技の開始しされる十一月中旬はいつもならば既に雪がチヨイ〳〵降る頃であるが、本年は割合に暖かいといふ話であつた。競技は滿都を熱狂させてゐた。二萬五千の座席が皆な賣れ切れて尚ほ一萬餘りの切符の需用があつたが、應じ切れなかつたといふことでもその熱狂の度がわかる。フイラデルフイヤ、紐育から來る列車も來る列車も人を運んでくる大學のついそばの競技場の周圍は自動車をもつて埋められる。

野天の下に石の座席に腰かけて競技を見るのも愉快なものである。婦人が半ばはゐる。

聲援の指導者も慣れた、訓練のとゞいたものである。ハーバード側にも一杯の人山である。その多くがハーバード邊りから來たのである。プリンストンがエールに遠征したときもプリンストンから數くも一千人の學生は聲援のために出かけた。新聞に若い婦人がかういふ廣告が出てゐた。なにがしの大學との聲援に行きたいのであるが自分は女で十分に聲援が出來ぬから自分を助けて行つてくれる人には、旅費と謝禮を出すとあつた。かういふのは餘程熱心な方である。

プリンストンの勝つた時は、帽子が降る座蒲團がふる、樂隊を先導に學生が旋風の樣に狂ひ廻つてゐた。兎に角米國人は運動好きな國民である。テニス、ベースボール、ボートレース、スケート射的。

超えて十日後、大學の構內の或廣場へ古椅子、テーブル、何んでも古い木材類を山の樣に積むで樂隊でねり廻つた　火を放つて戰勝祝をした。總長ヒツペンが出て來て演說をした。エールへの遠征の時もヒツペンが劇勵して、ついていつた。

今は丁度最も寒い時で、攝氏氷點幾度といふのである。雪はひつきりなしに降る。併しステイムがあるので寒さしらず、チヨイ〳〵外に出るのが心持よい位である。夏シャツを着たぎりで、用意のメリヤスシヤツも必用を感ぜぬ。こゝに於て米國の國民菓子であるアイスクリームが、始めて理解出來る。食堂では殆ど一週間に一回の割合でアイスクリームを食はせてゐる。何かによばれると必らずアイスクリームが出る。

今裏のカーネギーが掘つたといふ川の水がすつかり氷つて、スケートが旺である。

紐育市に於ける昨年の建築統計

昨年紐育市の中心であるアンハッタンに加へられた建築の統計を擧げて見やう。

百三個の商店と目立ちて高い建物、その建築費總額六百二十三萬四千四百八十弗、七十一個のオ

フィスその總額二千三百八十八萬四千弗、四十二個の工場と仕事場その總額五百十九萬五千十三個の學校その總額八百八萬五千弗、八個の教會その總額七十三萬五千弗、八個の市の建物その總額百五十二萬六千弗十六個の娯樂場その總額三百四十萬二千五百弗、七個の病院その總額二百七十三萬八千弗、四百九十九個の車庫と厩その總額三百五十八萬四千二百五十六弗、七十三個の樣々の建物その總額五萬八千六百六十五弗。

尙ほ又申請中のものを擧ぐれば、七百七十八個の住宅その總額五百十九萬一千六百五十六弗、七百十五個の共同家屋その總額三百廿一萬九千三百二十弗、九十五個のホテルその總額白九萬九千三百十八弗、百三十二個の他の住宅その總額六十二萬二千三百五十弗、五百四十個の商店と目立ちたる建物その總額二百五十四萬一千五百五弗、三百五十三個のオフィスその總額四百三萬九千八百五十三弗、四百七十八個の工場と仕事場その總額百九十四萬九千百三十五弗二十八個の學校その總額八十八萬九千二百弗、二十六個の教會その總額二十二萬九千百弗、二十三の市の建物その總額二百五十二萬三千三百八十弗百三十個の娯樂場その總額百三十一弗一千八百二十五弗、百二十四個の車庫と厩その總額六十四萬五千二百八十二弗。

家屋の所有を欲する者の增加

紐育市の現象として、一體に家屋と土地を借用して生活するよりも、これを所有せんと欲する要求が漸次に增加して來てゐるので、昨年の如きは前例にない程の需用であつて、要求者が殺倒する情況であつた。隨つて賣手の方にとつての値段もよい方であつた。

その道の者の觀察によると、此勢は本年も續くであらうとのことである。その理由として擧ぐる所を見るに第一般に人々が土地家屋の所有者たらんとする欲求が、いよ〳〵强くなつて行つてゐるこれは健康上からいつても、經濟上からいつても己の家屋に居住するといふことは好ましいことであつて、正當な又重要なことである。他人の所有家屋に手を入れるよりも、自分の家屋に手を加へ

た方が結局は得策であるといふ考が一般に強くなつて行つてゐる。かうして第一に土地を手に入れ次に家屋を自分のものとするといふ順序である。一般が覺醒して來た現象といつていゝ。

第一に空地の需用が今日も多い。此の狀態は家屋の不足が過去のものとなる迄繼續する。その時が來ると建築費が低下し、新建築が今よりも廉價に着手せられるので、隨つて新建築も增加する譯になる。

他の一の理由は紐育市が長速の進歩をなしつゝあるので、アンハッタンの現在の住宅區域も事業の目的のために需用せられつゝある。自然現在その區域にある者等はその附近に移動することゝなり第一に近所の區域が、第二に更にこれより遠い區域が建築上有望になる譯けである。米國の建築界は一般が不景氣の割合に好況といつていゝ。

本年新築界の新レコードを示す建物

一、ノースリーバ貯蓄銀行―ブロードウエイの丁度東のセブンズ・アヴエニューの丁度西で、街路の南側に大理石の興味ある建物を現出した。チャールス・ベルヂ氏の設計になつたもので、イタリー・ルネッサンス式、前面六十七呎を占め、うしろに百呎擴がつてゐる。二層建、內部の各部分はこの建物の特別なる要求にかなふべくしつらへてある。建築家はクロウ・プウルンClough-Borne

二、アカデミー・アーツエンド・レッタース米國文藝院が百五十五街とブロードウエイに新なる家庭を落成した。二月廿二日から開院の豫定である此建物は米國に於ける伊太利古典型の最良の例として世界の注意を惹きつゝあるとのことである。柱石はフォッシュ將軍によつて於かれ、設計はMckimMeadWhiteの手になり、ヘーゲアン・ハーリス會社が建てた。支費四十萬弗。

上記に示す各圖は本年の建築界の新レコードを示す建築である。

× × ×

感じの良いと思ふ住家

伊藤二世子

私は夕方野を歩む時、あの葛城の山麓の家々や其白壁に夕陽が映えて、其處から緩やかにたち昇る烟などを見てゐると、何とも云へぬノビ〳〵とした氣分になりますけれど、煤煙にかすむ西の方を眺める時、其處に幾百萬の人が、汗と埃にまみれて勞働してゐる事を思ひ、凝ッとしてゐられない樣な苛立しさを感じます。縱ひ如何なる勞働でも與へられてゐる人は幸福ですが、何の職業も與へられず、その日の糧にも困り果てゝゐる不幸な人は、何と云ふ悲慘な事でせう。それ等の不仕合な人々！どうして其の日を暮してゆかうかと心を痛めてゐる人々には、生活改善も、目前にさし迫つた問題とはおもはないでせう。斯の人達も決して生活改善や住宅の問題にも氣付かないのではない、其の必要は認めてゐるのですが、現在の境遇がそれを許さないのです。住宅問題も資産階級の人々には、彼方の机を此方へ置き替へるより尙容易な事でありませうが、その他のものには難かしい大變な事なのです。けれども吾が住む家を自由に建築しようと思ふ人は、その收入が生活に全部費されようとしても、どこかに餘裕を見出し得る人で、既に心に理想の家を描き、設計を爲しつ、他のことにはどんなに節約しても、家を建てたいと思ふ慾に滿されるでせうと思ひます。出來得るならばこうして定まりきつた無趣味な、それは只ほんとうに坪數を運びゆくと云ふにしかすぎぬ粗雜な長屋住での慘さを脫して、小さな家でも自分の思ふ通りに建てゝ住ひたいと思ひます。それで若しそれが前途遼遠の問題でありますなれば、今住みつゝある家！借家では家其のものはどうする事も出來ませんから、せめて其內部丈でも道具の配置とか、裝飾の仕方によつて便利に、藝術

味に富んだものにするのがいゝと思ひます、少し心を用ゆれば、どんなにでもなるのですから。一日の勞働を終えて安息し、樂しく團欒する家は、出來得る限り工風を凝らし、理想に近ゐものとして、社交的にも、家族的にも氣持ちの佳い暖か味のあるものとしなければなりません。私共が初對面の人や、又は時々逢つて話してゐる人とでも、其風貌や、人格をおもふ時、其人達はどの樣な家に住まれる人であらうかと頭に浮びます。如何に立派な服裝をしてゐる人でも、その人の家が一大小に拘らず一とり亂してあつたり秩序立たぬ家であつたりしますと、私等の美しい幻影は直ちに打ち壞されて仕舞ひます。

大きければ尙更、小さければ小さい乍らに纏つてゐるのは如何にも好感を與へるものです。

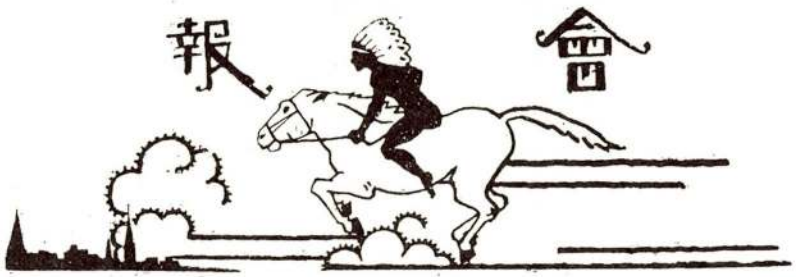
私の家の遠緣に當る老人ですが、非常に新らしい思想をもつてゐて、四五年前迄は、家族皆で一つ所に住まつてゐたのですけれど、老夫人がなくなつてからは、奈良の田舍へ自分で草を分けて、小屋を建て一人で住んでゐました。私は去年の秋好奇心にかられて其處を訪れて見ました。私は一目見て、何と云ふ詩的な、繪の樣なお爺さんの生活であらうと、羨しく思つたのでした。小屋はやうやく一間半に七尺位のもので、地面から一尺五寸程の高さに大小の石を不規則に積み上げてその上に削つてもない杉の丸柱を四本立てゝ、土を塗り藁で葺ゐてあるのでした。そして、四方に窓を明け、皆硝子戸のはまる樣になつてゐます。東手の左の方に、二尺位の入口を設け、二三段の階級を昇つてドアを明けると、ドアと同じ巾の土間が西側迄通つてゐて、そこが一寸した炊事場になつてゐるのです。それから又五寸ほどの高さに床を張つて、全部莚を敷きつめてあります。そうして朝面倒だといつて、北側の隅に夏の夕涼みの縁臺のようなものを作り、其上に蒲團や毛布をのせて寢臺風にしてあるのです。其他に手製の机兼用の飾臺と、之れも手製と思はれる戸棚でもなく、本箱でもないといつた箱がある許りで、寢臺の上の窓の處に、老人の趣味と思はれる種々の瓢箪が澤山釣してあり、入口の土間の片方に、鍬だの鋤だ

の、農用の道具が數梃置ゐてあるのです。お爺さんは家の前に、十五坪程の野菜畑を作り、時々村の八百屋抔へ賣るのださうです。此老人の家抔は一寸見て、カンツリーコッテージの樣でもあり、洋風とも日本風ともつかないものですけれど、外から見ても內へ這入つても、落着きがあり、如何にも粗野ではありますが氣のきゐたものです。其處に老人の種々工夫された妙味があり眞價があるのでせう。四季それ〳〵の草花の咲き亂るゝ中に、自分の案出し殊に建設したさゝやかな家に理想の生活を營む、と云ふ事は何と云ふ愉快な事でせう。私の訪れた日はカラリと晴れた秋日和で、種々の菊の花や美しい秋草の一面に咲き誇る此野の家を、大阪あたりの美術家らしい若い人が、一心にキャンバスに向つて居ました。老人は、此頃は毎日多い時には三四人もくるといつて、煙草をふかし乍ら元氣に語り、顏は愉快そうに輝いてゐました。ほんとうに凡ていゝ畫題です。かう云ふ暢びやかな而も簡單な生活は、あのジメ〳〵として鬱鬱な裏長屋の住ひに比べて何と云ふ大した相違でありませう。無論之は一概には云へない事で、各々其人達の職業の都合、又は子供が澤山あつたりなどしてはそんな小さな家や邊鄙な田舍に住居する事は出來ませんが——かうして現在の日本の生活をきりつめてゆきますれば住宅も何も矢張洋風に化つて仕舞ひさうです。この老人の家でも現代の新しい氣分を有つ若い者が住むなればもツと便利に美的にするでありませう——。借家では何程高い家賃を拂つても、なか〳〵理想に近い家はない樣です。此頃郊外あたりに、ハイカツた貸家が澤山建つてゐますが、どれも美と云ふものを取り去つた粗惡な安普請で、一寸いゝと思つても直ぐ飽の來る樣なもの許りです。堅牢とか構造抔は別として、間取や建方の工合は大阪方面より東京方面の方が勝れてはいないでせうか。東京の上大崎にある私の知人の家は確か三十圓の家賃と聞きましたが、割合に便利にそして間取もよく出來てゐました。其上に御夫婦共ロンヒヤ出身と云ふ此人達の上手な裝飾や部屋々々の用ひ方に依つて更に其家の價値が上ると思ひました。二軒續きの家

で外構へといつては無く、小さい杉の木が植えてある許りで門の處に形のいゝ可成大きな八ツ手が澤山植つてゐました。三疊の玄關から廊下を隔て臺所へも居間へも亦二階や湯殿、便所へも通じる樣になつてゐます。取付の四疊半は食堂に用ひられて白木を削つて作つた粗末なテーブルと椅子を置きテーブルには白金巾を掛て四五人位は並べる樣にしてあります。此家では玄關と座敷の他は皆スリッパを履くのですから疊の上の椅子式はちツとも不自然とは思ひません。お茶を呑む時でも二三人のお客を招く時でも皆其處で共に食事をするのです。次の六疊が書齋と居間、そして其處も洋式で、美しい花模樣の段通が敷てあり、片隅に置いた大きな机の外、中央にミッションスタイルの机と椅子を据へ、硝子戸の這入つた本箱と棚とが並べてあつて、其上に草花の瓶や骨董めいた置物抔が順序よく並べてあります。食堂との境の粗末な襖は〆切にして敷物の濃グリーンより、ズツと明るい同じ樣な色の古代更紗のカーテンで巧に隱されてあるのです。其上部に掛られた、支那風景の十號の油繪が、如何にも調和よく眺められ、冬は緣側の硝子戸によく日光が射してずつと向ふの岡を切開いてゐる赭土の色が鮮やかに見えて何とも云へぬ心地のよい部屋です。二階の四疊半は寢室でベッドの他に衣裝箪笥だの鏡臺だのがあり六疊の方は、これは又階下のバタ臭ひ書齋とは似もつかない、いつも、梅ヶ花の漂ふ優美な純日本風の御座敷なのでした。臺所はよく見ませんでしたが。食器棚や食料品の棚には凡て白いカーテンが掛けてある樣でした。此他に二疊の女中部屋が臺所の隣にある限りですが、建築も割合に丈夫に出來てゐますし、家賃も比較的安い樣ですが、貸家として此樣な家は珍らしい方でせう。かうして住まふ人に依つては如何樣ともなり、用ひてある家具抔は高價なものでなくとも、決して安價なものであるとは見えません。日本の家に住むでゐる外國の靈敎師抔の家を見ても解る事で、西洋の家具や裝飾抔ちツとも不自然な處がなく巧に調和さしてあるではありませんか。といつてあまり新しがりすぎ下手な低級な和洋折衷ならば、何もせず、

置かない方がいゝ位です。自然を背景としてゆッつたりとした中に、クラシックな黒光りのする純田舎風の家は、皆同じ様な間取で殺風景な室が多いのですけれど、何となく暖みや懐しさを感じます。私は幼い頃からこうした傳統的な空氣を多分に吸ふてゐたからでもありませうが、何の用もなさない附隨物を除く外廣々として純朴な田舎風の家が好きで、アノ喧噪な都會生活に比べて靜かな山や森や草花抔を背景として建つた此家で、新鮮な空氣を吸ひ自然の風物を友として生活してゆくのが何より樂しい事と思ひます。

櫻餅亂舞の夜のあとの茶話



會報

○理事會

△日　時　三月八日午後五時―拾時
△會　場　本協會會議室
△出席者　池田、舟橋、設樂、佐藤、野呂
　　宮本、西谷(書記)
△議　事　一、三月例會に關する件
　　二、滿洲建築協會より照會に係る滿鮮各地視察團に關する件其他種々協議す

○博覽會幹事會

△日　時　三月拾貳日午後五時―九時
△會　場　本協會々議室
△出席者　片岡會長、波江、小笠原、松本吉木、舟橋、西谷(書記)
△議　事　一、博覽會部廢止の件
　　二、博覽會部は解散するも尙現場には來る五月末まで守衛二人を置き一般住宅の看視せしむこと其他出品住宅及寄附金の件其外種々協議す

○臨時理事會

△日　時　三月十九日午後六時―六時卅分
△會　場　本協會々議室
△出席者　池田、佐藤、宮本、本田、小笠原波江、西谷(書記)
△議　事　一、會員銓衡
　　二、會員にして地方會員へ編入の件其他種々協議す

○例會

△日　時　三月十九日午後六時卅分―拾時
△會　場　大江ビルディング大廣間
△出席者
　講演者　工學博士　堀覺太郎氏
　會　員　木村喜代松、西脇秀太郎、澤原隆夫、小松　靜、林　兼松、安部萬助、竹中景一、近澤武男、谷　民藏、宮本長治、吉田健治、中村吉太郎、中川彌八、澁谷五郎、呼子　正、園部文雄、小西一眞、藤村　武、高井芳雄、波江悌夫、横濱　勉、小笠原銅、宮本金七、前田武正、池田　賀、野呂長四郎、本田　登
　普通賛助員　田中卯三郎、辻井太仲、篠崎兼二、佐々木正男、杉本保一、弓削兵太郎、杉本久吉、米倉威夫、守田米一、山田芳雄

△記　事

先づ理事長開會を報ずると共に日本エレベーター製造會社專務取締役工學博士堀覺太郎氏を紹介し、豫告の通り同氏は「エレベーターに就いて」と題して、エレベーターの發明及び沿革より、各種の構造裝置に及び殊に建築設計との關係等を、種々の圖式を示しつゝ約一時間に亘りて平明懇到なる講演振りは流石に當年帝大教授としての盛名を偲ばしめたり次いで、村野藤吾氏の「セーフボルトの構造と建築との關係」と題せる講演ある筈なりしが時間の都合上取り止められたり。

畢つて議事に入る、但し出席者は講演後多少退出せし者ありしことゝて規定數に滿たず、仍つて假決議に止め、追ひて通信決議に據る條件の下に議事に入る。先づ「日本建築協會を財團法人と成す」との提案に就いて、池田理事長より、我協會發展の趨勢に鑑み、最早法人組織と成すの時機熟しつゝある所以を述べて、各員の贊同を求められ異議なく可決。次いで、法人組織と成すに就き委員會を設け、その準備を爲すとの提案に對して贊成を求む。橫濱勉氏より、委員設置に贊成を表し、併せて委員を現副會頭及び理事十一名の外に十名を加へて二十一名の委員を置き、十名に就いては理事長の指名に一任すとの動機を提出、異議なく可決。

更らに「春季大會に關する委員設置」の件を議題とし、理事長より、在來の如き單に懇親會的の會合に止めずして、一大講演會を催す等最も展達的に大會を開き度しとの說明あり。橫濱勉氏の動議に依り、現任理事に一任とのことに決す。議事畢りて會務報告に入る。

當日書記缺席に付理事長より(一)本會名譽賛助員後藤新平子爵の母堂長逝に付本會より吊　を呈せし件及び是れに對する同子爵家よりの挨拶狀の披露(二)第三回講習會を三月二十日より北區牛丸町市立大阪工業學校講堂に於て開催聽講申込者約二百名に達せるの盛況を示せる事(三)兵庫縣都市計畫展覽會京都市第二回家庭博覽會に本會の住宅懸賞募集圖案と住宅模型を出陳せし事(四)新に各種會員と成れる者(別項所載)及び現在會員數(五)據て會員の同意を得たる交涉團體設置は既に二團體、即ち「府友會」(會員十八名代表者池田實氏)「大正會」(會員二十名代表者井上新治氏)の成立等を報告あり、斯くて多々增々本會の最も充實せる發展を期するため各位が振つて本會々員の勸奬及び交涉團體の組織等に力を致されたしとの挨拶ありて閉會。

○新入會員

(會員)澤原隆夫君、後藤信勝君、林　正信君
松永次松君、豐島義政君、前田清二君
高井芳雄君、山本久吉君、八木幸次郎君、江畑幸太郎君、村上武　君、佐々木岩太郎君、池上德一君、池田谷久吉君、船本　晉君、高田利一郎君、泉谷千秋君、木村寬一君

(特別賛助員)椎原兵市君

(普通賛助員)方米治郎君、南部一巳君、鹽崎政雄君、石田晴治君、山村善重君、野生君、野村中實君、山田孝君、川崎保太郎君、荒谷五郎君、平田茂樹君、若林錬三君、小林喜多次郎君、小貫賴政君、請地享之介君、山口淺次郎君、川邊次男君、田中直造君、久保諫美君、小竹　茂君、川野平造君、今井檜次君、平林龜五郎君、難波經利君、牛村喜知君、田中卯三郎君、酒井健治君、今村光三君、民谷嘉幸君、小西武雄君、守田米一君、小西松太郎君、松宮幸輔君、田中辰夫君、山田芳雄君、藤原節雄君、安田鶴一君、藤山國次郎君、中島竹松君、寺村善助君、小川忠藏君　指田近

之助君、阪本佳明君、永田正雄君、布谷辰雄君、藤重土希雄君、岡屋久吉君、田中伊義君、高柳霧三郎君、中野利男君、森與助君、桑田誠一郎君、森下勘助君、安田繁藏君、岩井金雄君、大野喜作君、熊野正八君、禰吉一君、野田義雄君、杉本久吉君、小俣清君、岩田篤吉君

○住所移轉

千草謙君　大阪府下三島郡千里村字片山
若宮虎吉君　大阪市北區下福島三丁目八八
山本組
木越誠二郎君　京都府天田郡福知山町字下新町福知山銀行建築場
林兼松君　大阪市外神津町堀五五
小田周次君　大阪市外津守村下島四〇八
西田儀太郎君　大阪府下西成郡榎並町野江南之丁三三七
加藤善吉君　大阪市西區西島町北港一四ノ二
高井久治君　大阪府下中河内郡英田字吉田
楠田實君　兵庫縣武庫郡西灘村畑原三八
渡部憲君　大阪府泉北郡忠岡村大字忠岡一一貳貳
園部顯則君　大阪市西區靱南通り壹丁目敷津橋西詰
多田學君　大阪市北區中之島四丁目金剛商會出張所内
村野藤吾君　大阪市北區今橋二神田ビルヂング内渡邊事務所
宮崎加平君　大阪府下東成郡天下茶屋相生通り貳丁目一四六三
福村庄三郎君　東京市外西巢鴨町字巢鴨貳六六一
井上貢君　神戸市京町十三番
小枝實君　三重縣津市元築造小枝芳雄方
谷本多喜治君　上海郵政局信箱第五五八號
丹羽三雄君　兵庫縣明石市一番丁神保方
宮嗣克二君　兵庫縣明石市人丸下龜の水櫻井吾一君　兵庫縣明石市茶園橋一七五三藤田方



役員及職員

副會頭　片岡　安
理事　池田　實（理事長）
理事　本田　登
理事　竹腰　健三（編輯主任）
理事　内藤　太郎（主記）
理事　中西　其作（編輯）
理事　野呂長四郎（編輯）
理事　富本　金七（編輯）
理事　舟橋　喜一（主計）

理事　佐藤　彰美
理事（編輯）　設樂　貞雄
理事（編輯主任）　江村　郊郵
主任　西谷　節
會計（庶務）　山田　靜吾
庶務（編輯）　清川　伊佐
編輯　伊藤二世子

臨時博覽會部（住宅改造博覽會）

會長　片岡　安
幹事長　葛野　壯一郎
常務幹事　波江　悌夫
常務幹事　小笠原　銅吉
幹事　木本　萬久
幹事　松本　象一
幹事　舟橋　喜一
幹事　瀬戸　文吾
書記　西谷　節
書記　山田　靜吾

會員	二五七
名譽贊助員	六
特別贊助員	二六
合計（二月廿五日現在）	九六七
會員（地方）	九一
終身贊助員	五五
普通贊助員	四七一

本誌及廣告料定價表

本誌			
册數	定價	郵稅	
一册	金五拾錢	貳錢	
十二册	六圓	貳拾四錢	

廣告料		
種別	金額	
半頁	八圓	
一頁	拾五圓	
特別頁モ料金一定シアリ御照會アリ度シ		

大正十二年三月廿五日印刷
大正十二年四月一日發行（毎月壹回一日發行）

大阪市外中津町下三番一九八番地ノ一
發行兼編輯人　江村恒一
大阪市東區内淡路町一丁目卅一番地
印刷兼印刷人
印刷所　大阪活版所
大阪市北區絹笠町九
大江ビルヂング三十七號室
發行所　日本建築協會
電話北四二九一番
振替口座大阪三九七五
大阪市西區京町堀羽子板橋北
特約販賣店　柳々堂書店
電話（土佐堀二四四〇番）
振替口座二〇八四番

第六集第四号　掲載広告一覧（掲載順）

内外木工所
内田商事
佐倉金庫店
HANKEN SEISAKUSYO
阿部鉄工所
ユーニオン、トレーヂング、
　コムパニー
特許エレベーター製作所
南満鉱業
島田硝子製造所
今井硝子店
石綿スレート
吉岡商店
山本東作商店
セメント工業所
ミドリ屋商店
日本建築紙工大阪出張所

石川工業所
大福海上火災保険
浅海商店
出浦建築事務所
大阪建築所
新海建築工務所
小笠原建築事務所
渡辺建築事務所
葛野建築事務所
片岡建築事務所
片岡松井建築事務所
横河工務所
横浜建築事務所
竹内建築事務所
宗建築事務所
国枝工務所
柳下建築事務所

真水工務所
真水三橋建築事務所
舟橋建築事務所
遠藤於菟
木子建築事務所
設楽建築工務所
茂、野村建築事務所
西原衛生工業所大阪支店
池田勘蔵
日本土木大阪出張所
大阪橋本組
大林組
竹中工務店
長瀬組
中新
佐伯工務所
野村亥之助

久保田組
熊取谷熊次郎
山本組
松村組
小西組
藤木正一
鴻池組営業所
駒井喜兵衛
安藤組大阪出張所
有山組
清水組大阪支店
森本建築社
銭高組
清水福太郎
田村東京事務所
田村神戸事務所
東洋コルク工業
久原鉱業大阪出張所
山田大理石製作所

矢橋大理石商店
沖電気
高田商会
須賀商会
内外土木建築材料
栄進社
松尾和助本店
山本窯業商店
萩原煖房工務所
新田ベニヤ製造所
川崎工場
砂崎
大野式特許品営業所
東京建鉄
河村青写真調製所
宇野沢組ステインド硝子製作所
高島屋呉服店
コルク工業
鈴木製作所

品川白煉瓦
浅野工業所
関西ステインドグラス製作所
日本木材工芸
都市工業
大理石工業
日本セメント工業
北木島石材大阪出張所
ホーン
城口汚水処理研究所大阪支店
米本栄商店
田中タイリング商会
浜口商店
日本トラスコン鋼材
大阪耐火リノリウム工業
住友製銅販売店
住友東京販売店
岩崎商業
日本工剤

小野田セメント製造
西孫南店
岡部商会
黒宮建築事務所
小山建築鉄工所
木下商店
塩崎商会
下里商店
亀井商店
バグナル、エンド、ヒレス大阪出張所
山口商店
鳥井清一商店
山下商店
今井徳太郎商店
東京電気
大阪窯業
桐田商会
旭硝子

政正
駒井商店
田中源太郎商店
極東板硝子工業